

# 事業所に対するアンケート調査



# 1. 調査の概要

## 1.1 調査の目的

平成18年3月に策定された「群馬県環境基本計画 2006-2015」の、県民・事業所を対象にしたフォローアップ調査として、県民・事業所の環境保全に対する意識や取組状況を把握するとともに、過去からの経年推移を踏まえて、今後の環境施策実施に活用することを目的として実施した。

このうち、本編は、事業所に対するアンケート調査のまとめである。

## 1.2 調査の方法

### (1) 調査対象

群馬県内に営業基盤を置く事業所 822事業所

### (2) サンプルング方法

一般財団法人 群馬県経済研究所の「2015群馬県会社要覧」(H27.2月発行)に掲載されている全ての会社(822社)を抽出した。

### (3) 調査方法

郵送配布、郵送回収(督促状送付1回)

### (4) 調査期間

平成27年7月14日～7月27日

## 1.3 回収状況

822サンプルのうち、有効回答(分析に用いることができた回答数)は606サンプルで、有効回収率は73.7%であった。

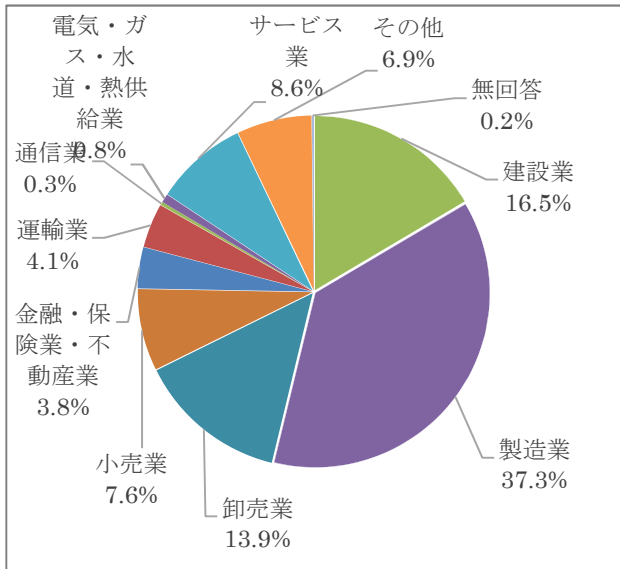
## 1.4 調査項目概要

質問項目	ねらい
<b>【事業所の概要】</b>	
業種、主たる事業形態、本社所在地、従業員数、アンケート送付先内の従業員数、年間売上高・出荷額	
<b>【取組】</b>	
問6 (1)事業所での廃棄物のリサイクル (2)自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル (3)ゼロエミッションへの対応 (4)太陽熱や太陽光の利用 (5)廃熱や温排水の有効利用 (6)物流システムの効率化や輸送面での省エネ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題への取組状況を把握し、その経年推移を比較・検討する。</li> <li>・今後、どのような企業にどのような対策を講じるよう指導していくのかを検討するための材料として活用する。</li> </ul>
問7 環境保全の取組の実施状況 A. 大気環境保全 E. 省エネルギー B. 水・土壌環境保全 F. 地球環境保全 C. 騒音・振動・悪臭 G. 自然環境の保全 D. 廃棄物の減量・リサイクル H. 活動その他	
<b>【環境保全のための体制】</b>	
問8 環境保全担当部署の設置状況とその活動内容 (1)環境問題を専門に担当する部署の設置 (2)設置年、活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者が今後一層、環境保全対策に取り組んでいくための体制・条件の検討材料とする。</li> </ul>
問9 環境方針や環境保全ガイドラインの策定状況 策定の有無、策定年	
問10 取引先からの環境に関する取組の要求	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の環境保全に関する活動状況を把握し、支援策などの検討材料とする。</li> </ul>
問11 環境保全に関する社員教育	
問12 環境保全に関する経費の増減状況	
問13 環境保全活動を実施して得られるメリット	
問14 (1)環境保全活動で消費者などにPRしたいこと A. 事業所の内部での活動 B. 事業所外部（消費者等）に関係する活動 (2)消費者の評価	
問15 環境保全活動に関する社外団体や地域社会への協力 (1)協力の度合い (2)協力している活動の内容	
<b>【環境保全に対する考え方】</b>	
問16 環境保全に対する企業の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全に対する事業者の意識や価値観を把握し、その経年推移を比較検討する。</li> </ul>
<b>【行政への要望】</b>	
問17 行政に望む対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の対応策の検討課題として活用する。</li> </ul>

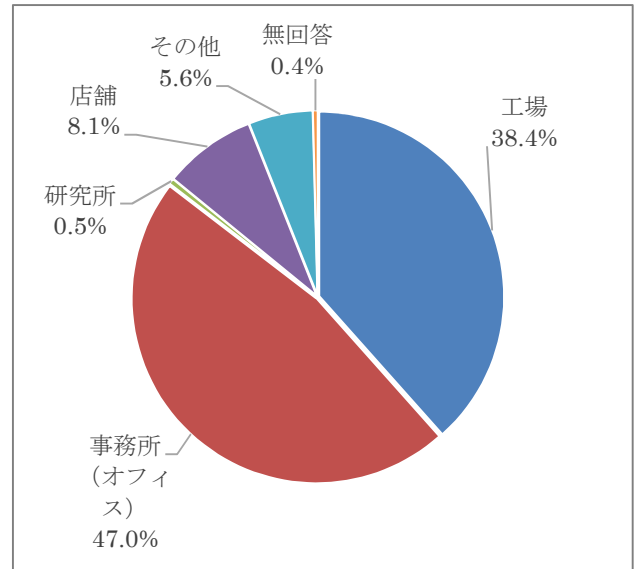
※ 経年変化による比較は、平成6、12、17年度と行い、平成18年度以降に追加された設問については、その年度との比較を行う。

## 2. 回答者属性

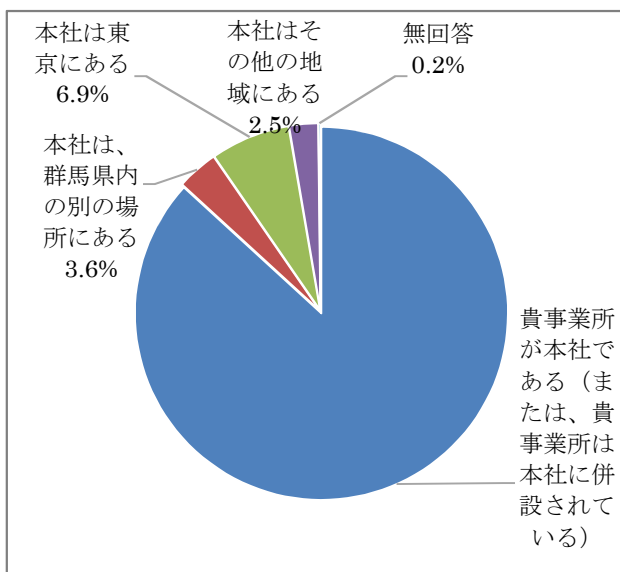
(1)業種(兼業の場合は、売上の最も多いもの)



(2)主たる事業形態

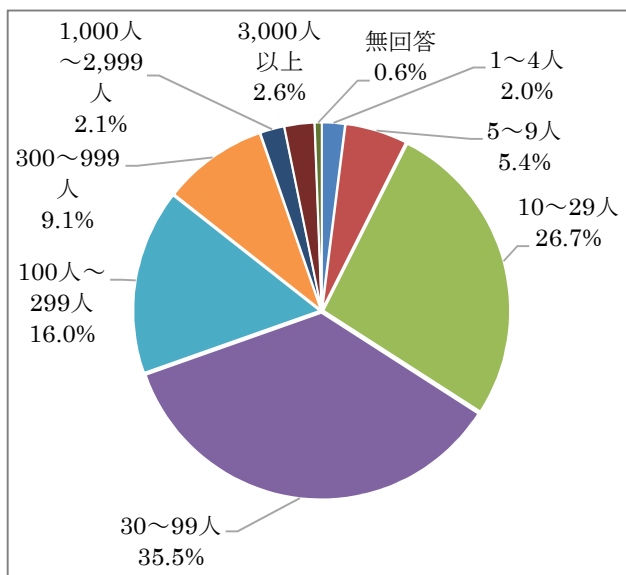


(3)本社所在地

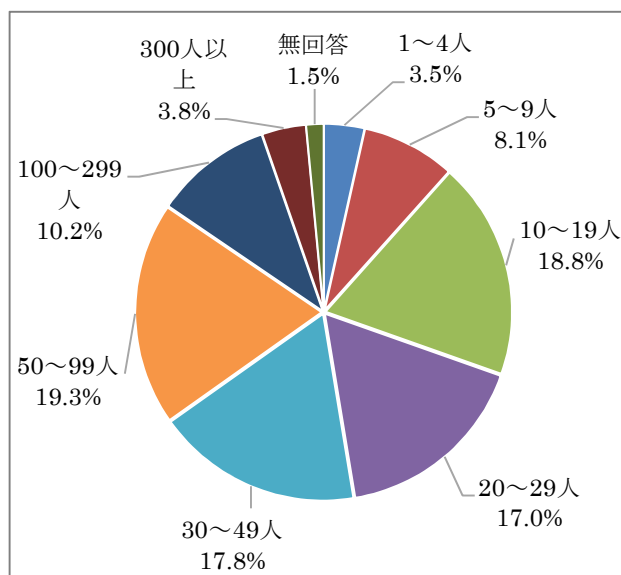


**(4) 従業員数(常勤および長期のアルバイト、パートタイマーを含む)**

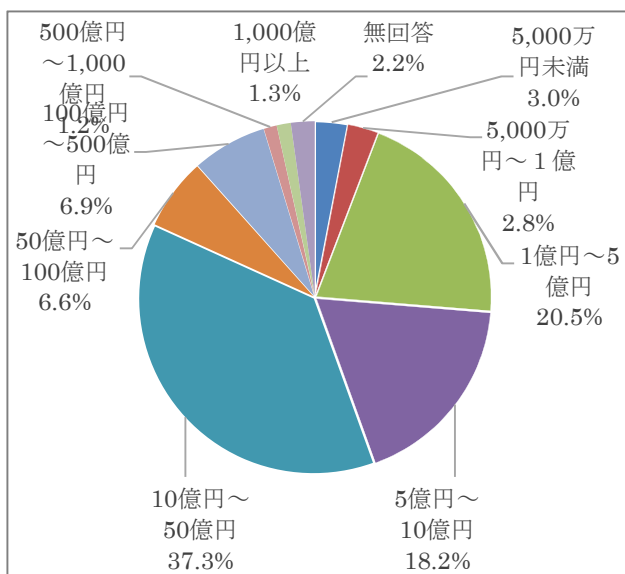
**【①貴社の他事業所を含めた全体の従業員数】**



**【②本アンケートが送られた事業所のみでの従業員数】**



**(5) 年間売上高・出荷額**



### 3. 調査結果

#### 3.1 調査項目別要旨

##### I 取組

- 【事業所で出る廃棄物のリサイクル】については、7割以上で「現在実施している(76.6%)」。
- 【自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル】については、約半数で「現在実施している(50.7%)」。
- 【ゼロエミッションへの対応】については、約2割で「現在実施している(23.9%)」。
- 【太陽熱や太陽光の利用】については、約2割で「現在実施している(22.3%)」。  
→ この割合は、前回調査の約5倍である。
- 【廃熱や温排水の有効利用】については、1割以下で「現在実施している(6.9%)」。
- 【物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化】については、約2割で「現在実施している(20.1%)」。
- 【大気環境保全に対する各取組】は、「停車時のアイドリングを控えるように指導(43.4%)」「低公害車の導入の推進(41.6%)」「大気汚染物質の排出抑制(29.5%)」の実施率が高い。
- 【水・土壌環境保全に対する各取組】は、実施率は1割前後。
- 【騒音・振動・悪臭に対する各取組】は、実施率は1割～2割。
- 【廃棄物の減量・リサイクルに対する各取組】は、「空き瓶・空き缶、古紙等の分別排出の実施(90.9%)」「資料等の作成枚数の最少化、両面コピーを指導(82.2%)」「リサイクルしやすい材料の使用の推進(40.6%)」の実施率が高い。  
→ 「廃棄物排出量削減やリサイクル率に関する目標の設定(29.2%)」は低かった。
- 【省エネルギーに対する各取組】は、実施率は全体的に高く、中でも「不必要時には、電灯を消し、OA機器の電源を切る(89.1%)」「事業所内の冷暖房温度の適切な管理(87.3%)」「照明の間引き点灯の実施(75.7%)」の実施率が高い。
- 【地球環境保全に対する各取組】は、実施率は4割以下。
- 【自然環境の保全に対する各取組】は、実施率は1割以下。
- 【その他の活動に対する各取組】は、実施状況が二極化している。

## II 環境保全のための体制

- 【専門部署の設置】については、約3割が「設置している（29.9%）」。  
→ 一方、約6割が「当事業所にも、本社など会社組織にもなく、今のところ設置する予定もない（62.5%）」。
- 【環境方針や環境保全ガイドラインの策定】については、約3割が「策定済み（35.0%）」  
→ 一方、約5割が「今のところ策定する予定はない（52.0%）」。
- 【取引先からの環境に関する取組の要求】については、約5割が「特に求められたことはない（53.1%）」。
- 【環境保全に関する社員教育】については、約2割が「全社員に対して環境教育を年1回以上実施している（21.0%）」。
- 【環境保全活動の経費の増減状況】については、約3割が「環境保全活動の経費は、ほとんど増減していない（31.4%）」。
- 【環境保全活動を実施して得られているメリット】については、約4割が「社員の環境保全に対する意識を高められた（41.3%）」。  
→ 一方、約2割が「環境保全活動は実施していない（21.9%）」。
- 【実施している環境保全活動に関して消費者等にPRしたいこと（事業所の内部での活動）】については、約3割が「事業所を出る廃棄物のリサイクル（35.5%）」。  
→ 一方、約3割が「特になし（31.5%）」。
- 【実施している環境保全活動に関して消費者等にPRしたいこと（事業所外部に関係する活動）】については、約半数が「特になし（47.5%）」。
- 【環境保全活動に関する社外団体や地域社会への協力】については、約半数が「協力している（48.0%）」。  
→ 前回調査と比較すると、減少している。

## III 環境保全に対する考え方

- 【環境保全に対する企業の役割】については、最も重視されているのは「「事業活動に伴う環境への負荷（排ガスや排水、廃棄物など）をできるだけ少なくする。（93.2%）」。



## 3.2 取組

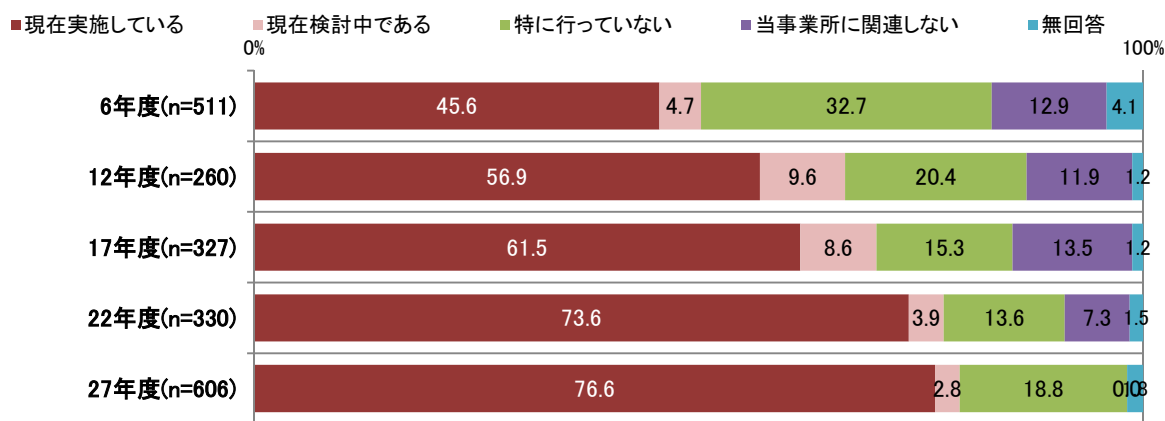
### 3.2.1 環境保全に対する取組

問6 貴事業所では、どのような環境保全の取組を実施していますか。次の(1)から(5)までの取組について、それぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

さらに、「現在実施している」と「現在検討中である」に○をした場合は、その際の問題点を、「特に行っていない」に○をした場合は、その理由について、あてはまるアルファベットのすべてに○をつけてください。

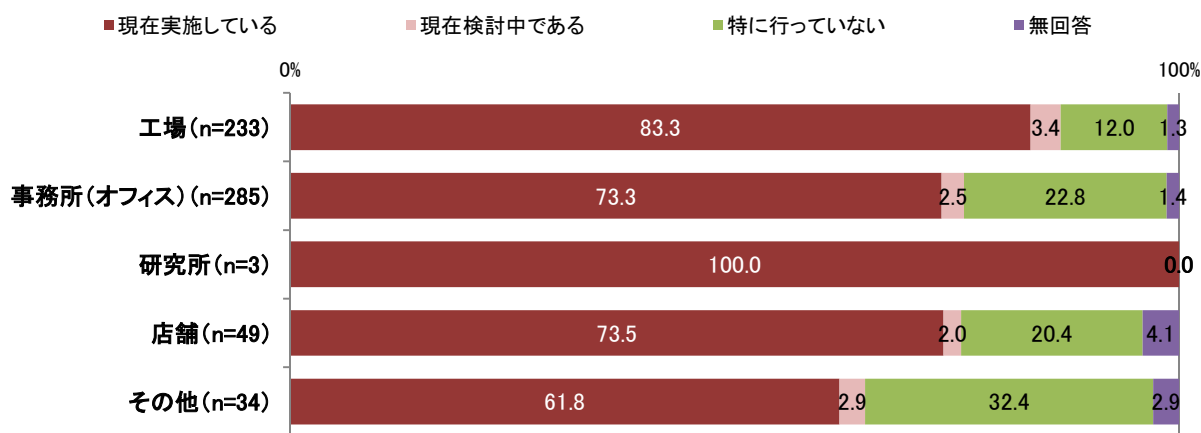
#### 【事業所での出る廃棄物のリサイクル】

##### (1) 経年推移



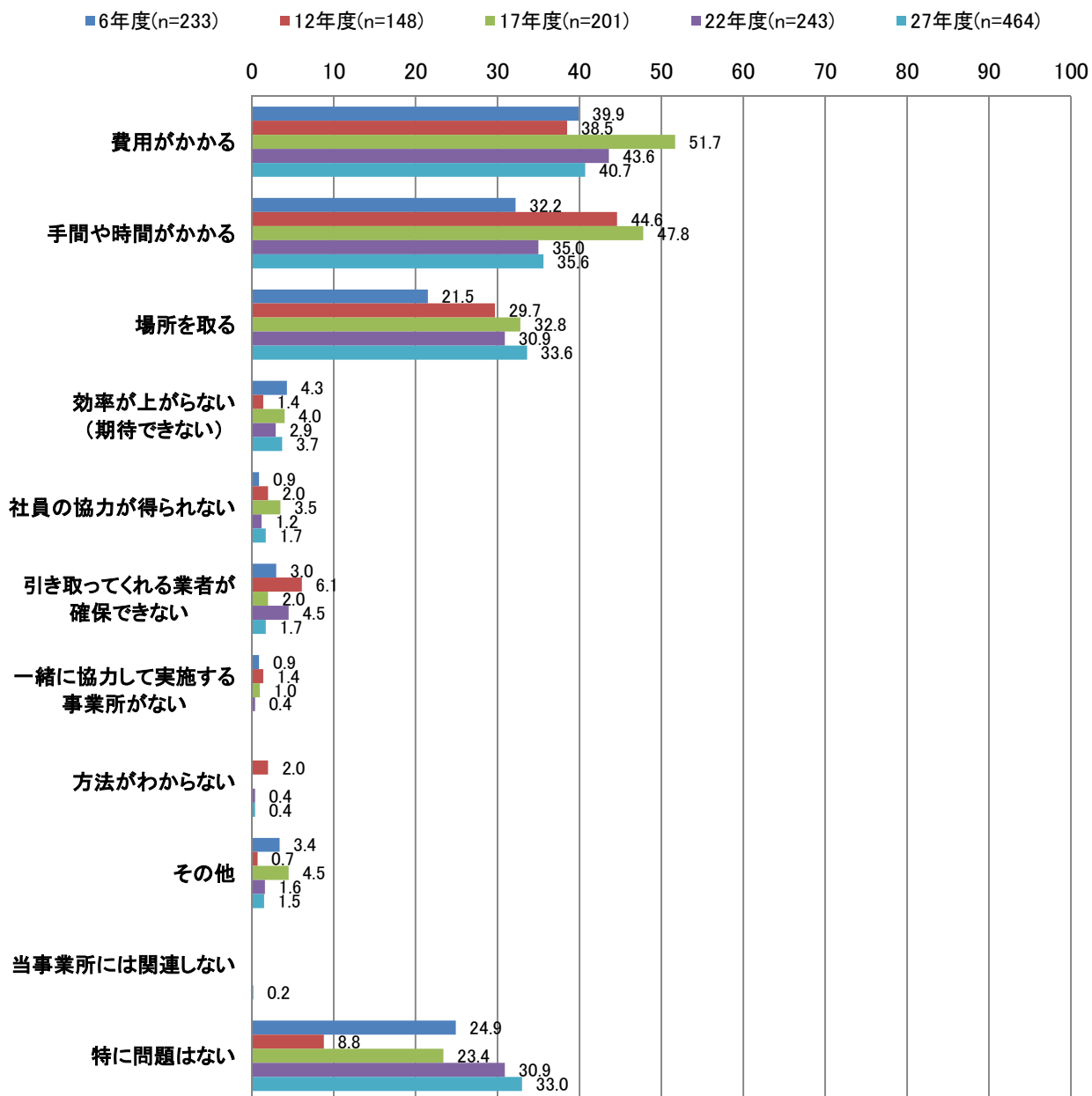
<グラフ1 事業所での出る廃棄物のリサイクル 経年推移>

##### (2) 事業形態別傾向

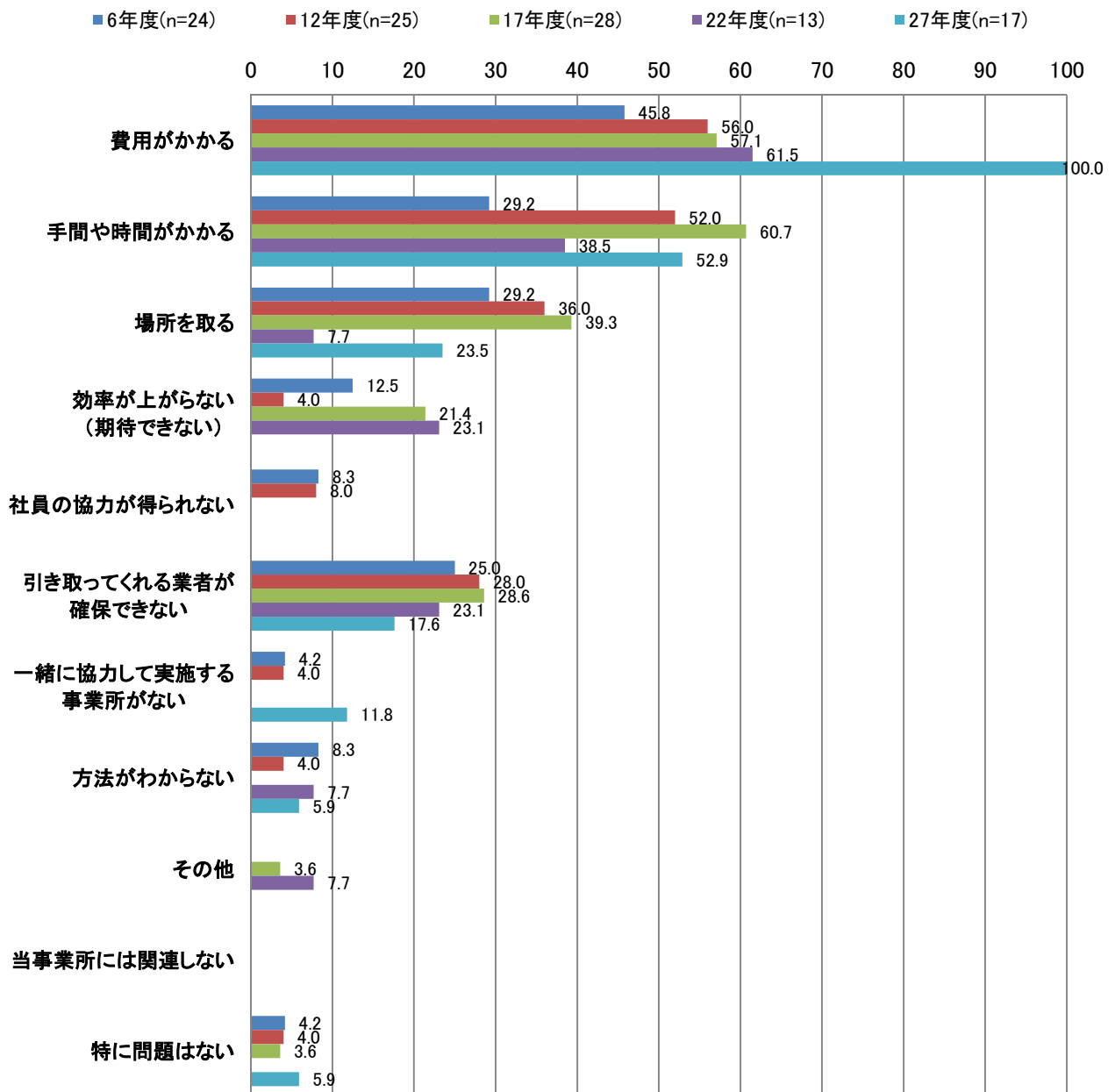


<グラフ2 事業所での出る廃棄物のリサイクル 事業形態別>

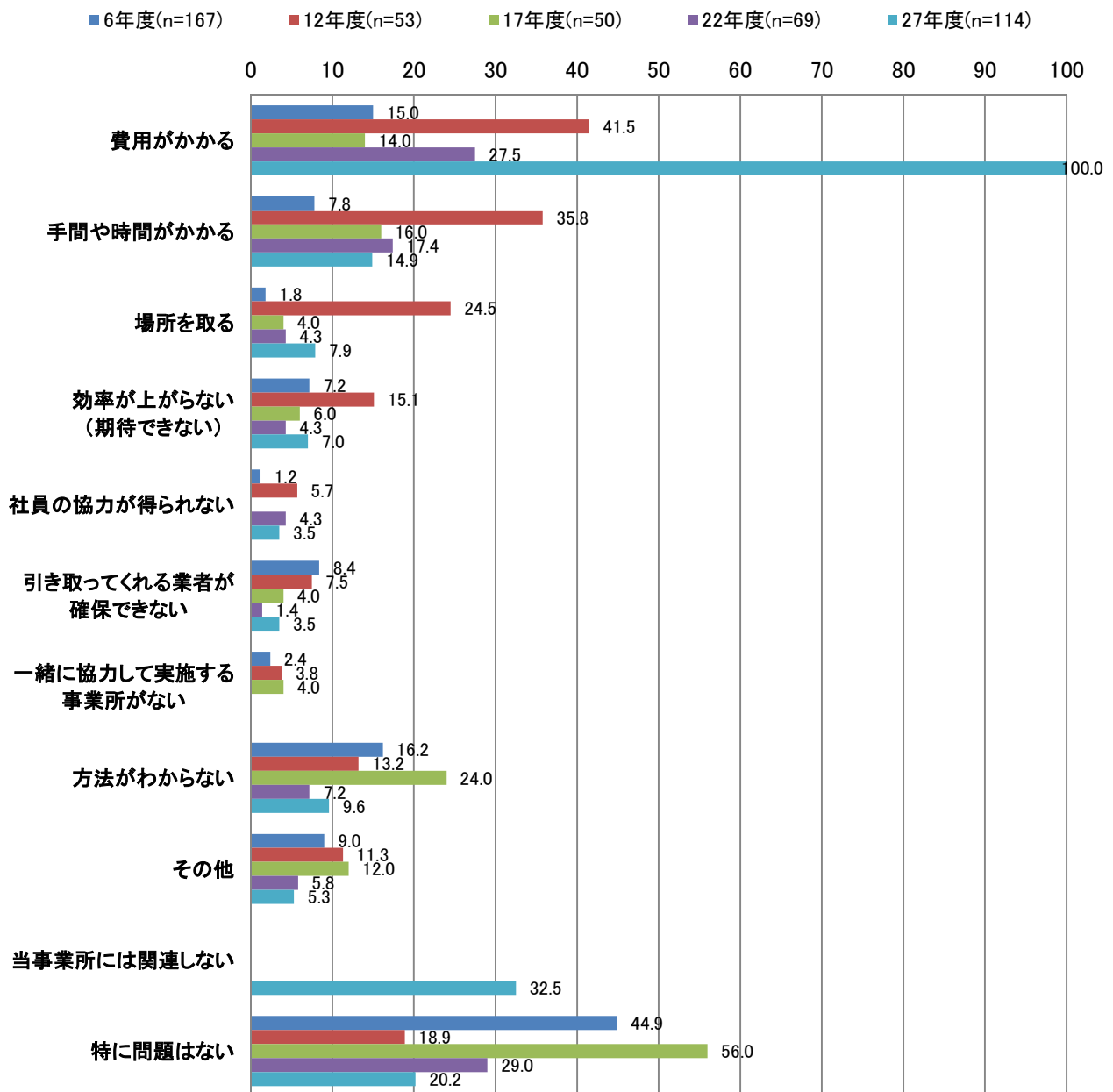
(3) 実施・検討にあたっての問題点・理由



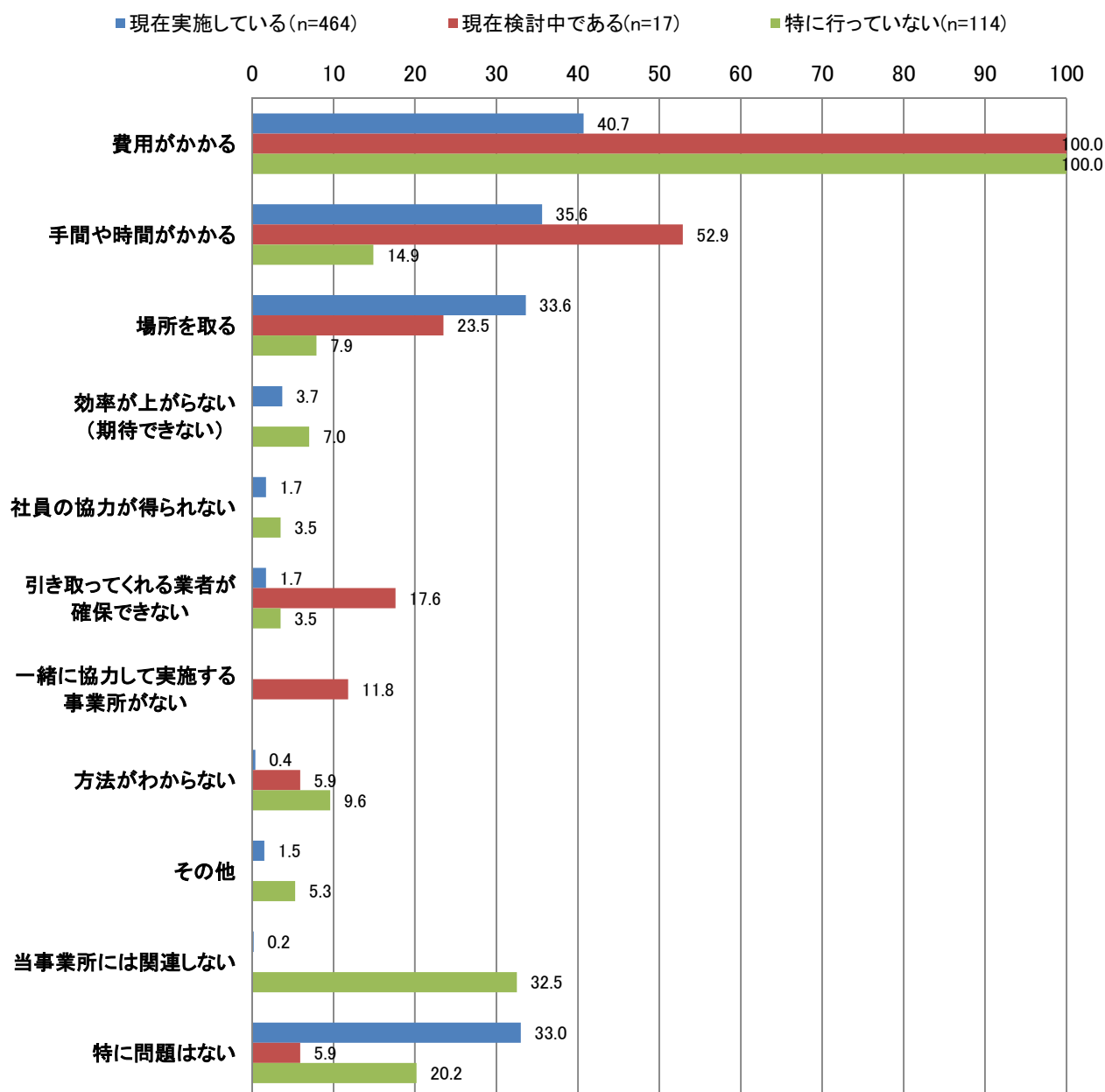
<グラフ3 事業所での廃棄物のリサイクル 問題点・理由「現在実施している」>



<グラフ4 事業所での廃棄物のリサイクル 問題点・理由「現在検討中である」>



<グラフ5 事業所での廃棄物のリサイクル 問題点・理由「特に行っていない」>



<グラフ6 事業所での廃棄物のリサイクル 問題点・理由 実施状況別>

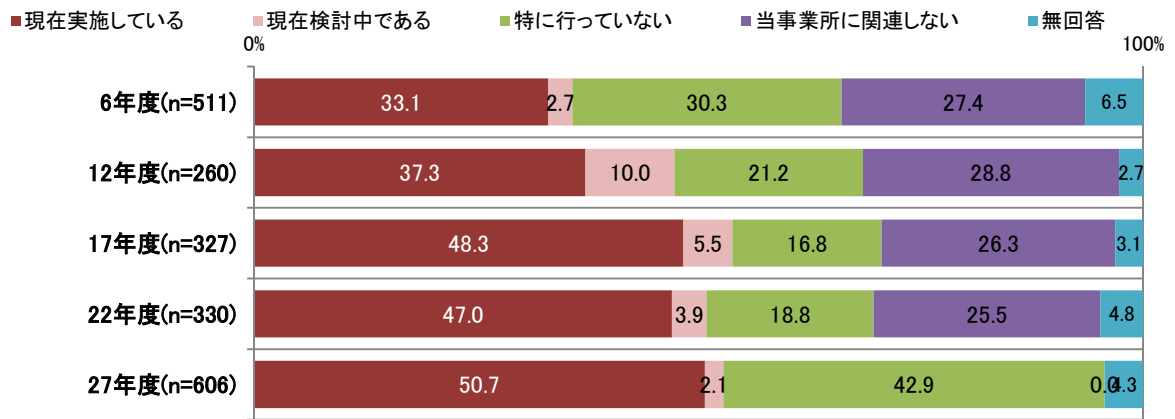
「事業所での廃棄物リサイクル」への取組は7割以上

「事業所での廃棄物のリサイクル」を「現在実施している」事業所は年々増加しており、今回の調査では76.6%、「現在検討中である」を加えると79.4%であった。

「現在検討中である」の問題点として、「費用がかかる（100.0%）」、2番目が「手間や時間がかかる（52.9%）」、3番目が「場所を取る（23.5%）」であった。

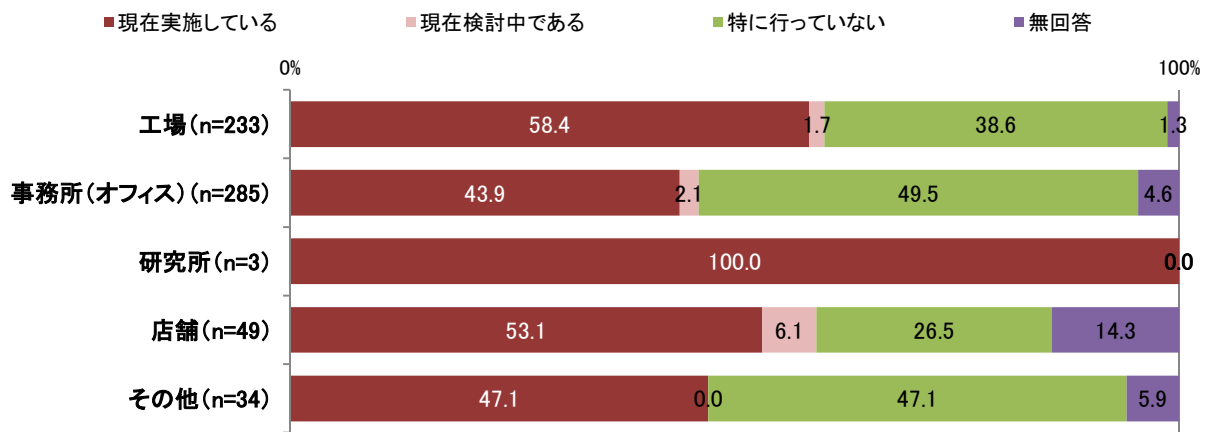
## 【自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル】

### (1) 経年推移



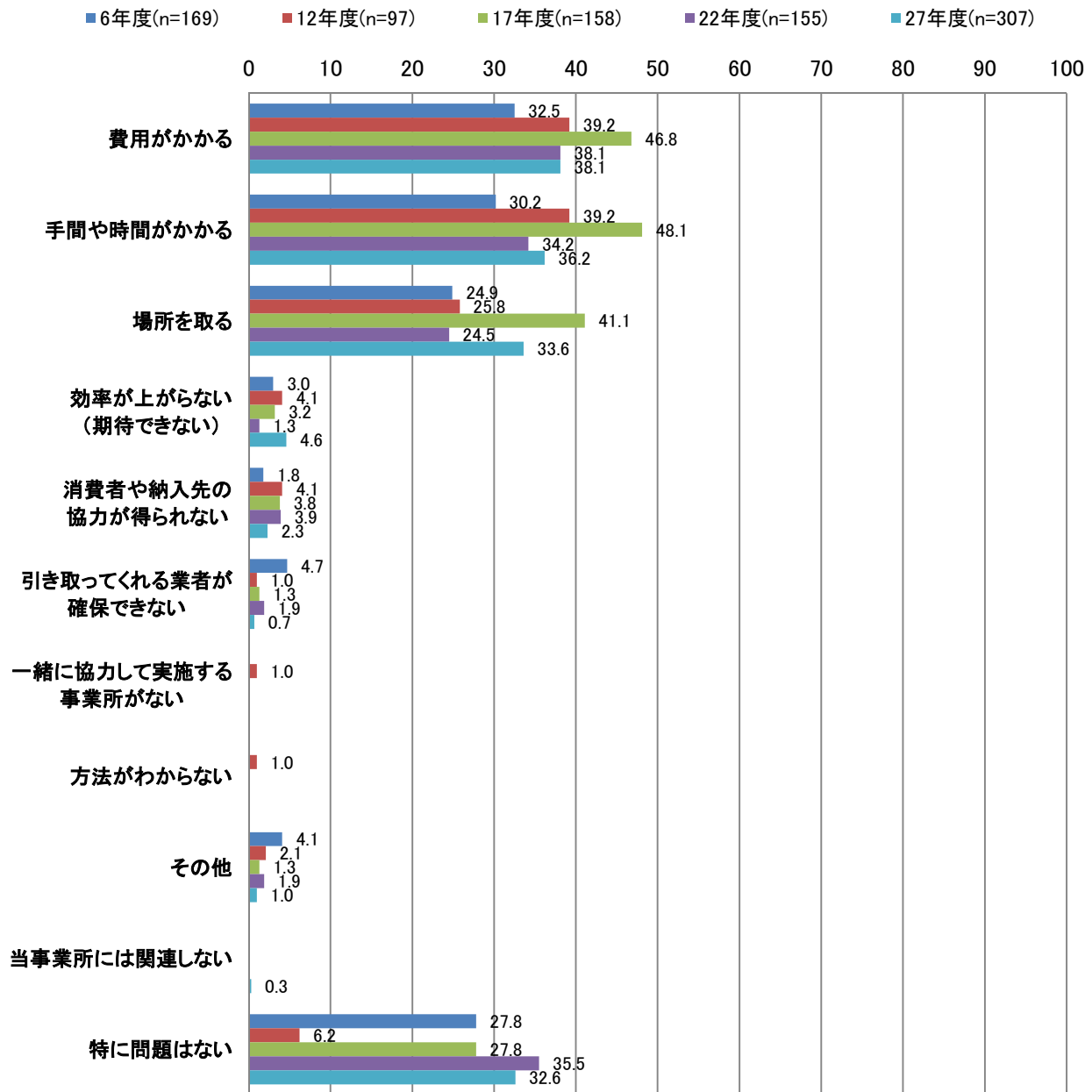
<グラフ7 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル 経年推移>

### (2) 事業形態別傾向

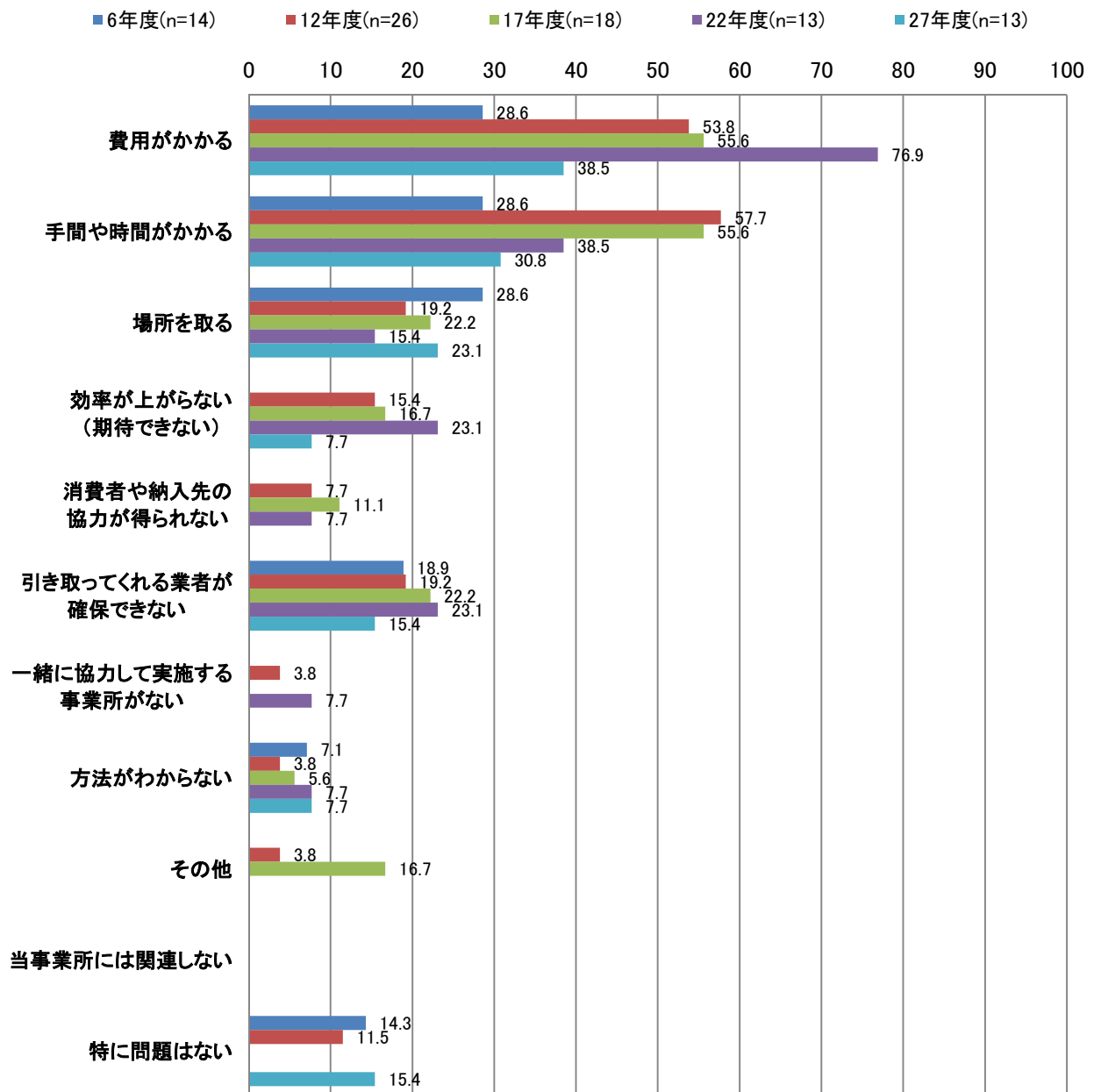


<グラフ8 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル 事業形態別>

(3)実施・検討にあたっての問題点・理由

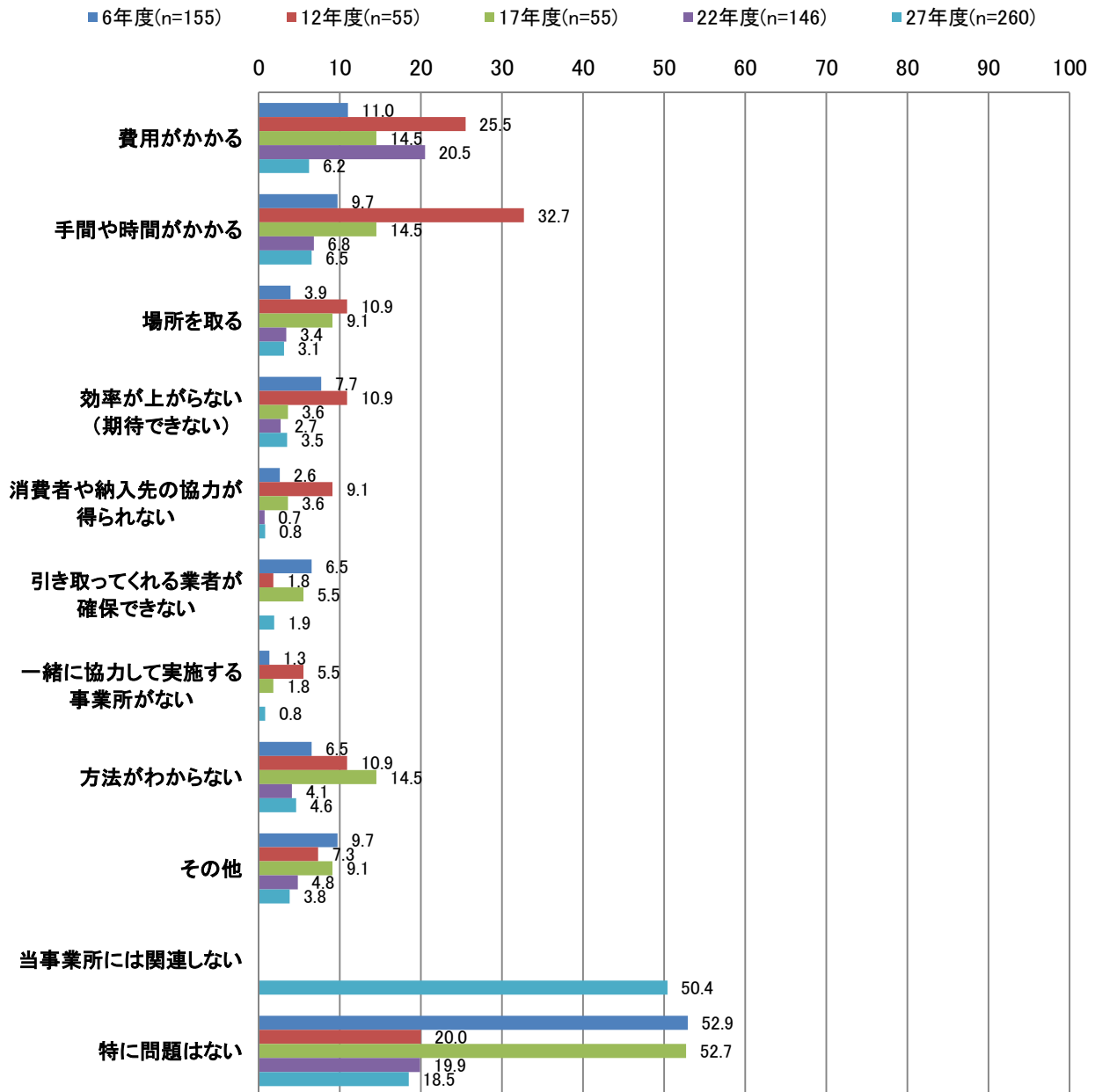


<グラフ9 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル 問題点・理由「現在実施している」>

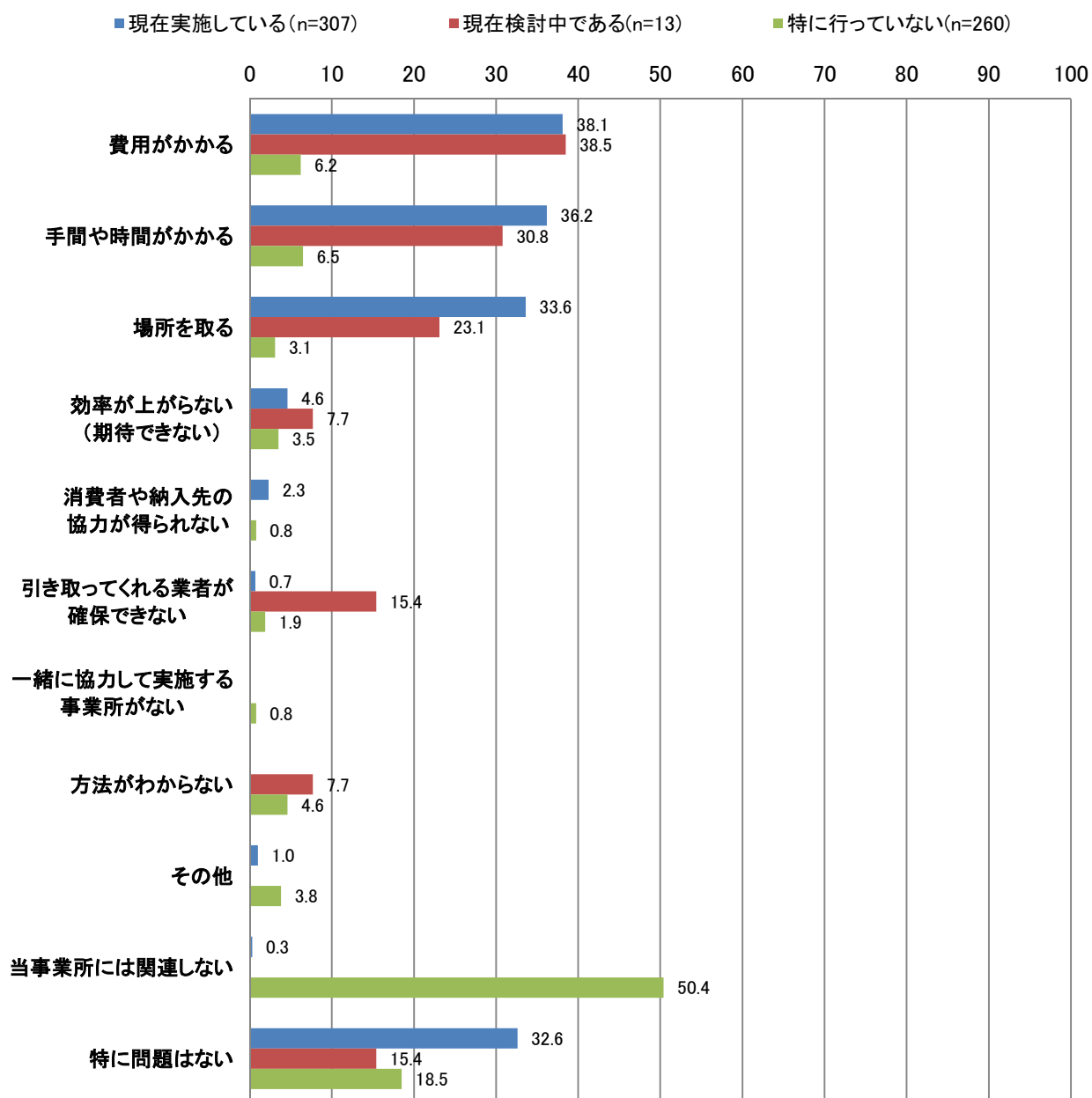


<グラフ10 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル 問題点・理由「現在検討中である」>





<グラフ11 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル 問題点・理由「特  
に行っていない」>



＜グラフ12 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル 問題点・理由 実施状況別＞

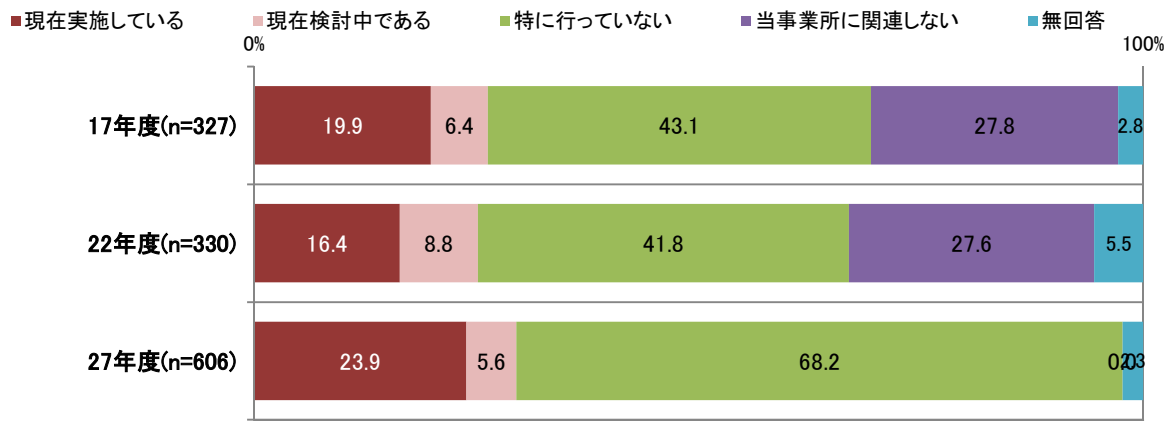
「自社取扱商品・容器などの回収・リサイクル」への取組は約5割

「自社取扱商品・容器などの回収・リサイクル」を「現在実施している」事業所は、前回は減少したが今回は増加しており、今回の調査では50.7%、「現在検討中である」を加えると52.8%であった。

「現在検討中である」の問題点として、「費用がかかる（38.5%）」、2番目が「手間や時間がかかる（30.8%）」、3番目が「場所を取る（23.1%）」であった。

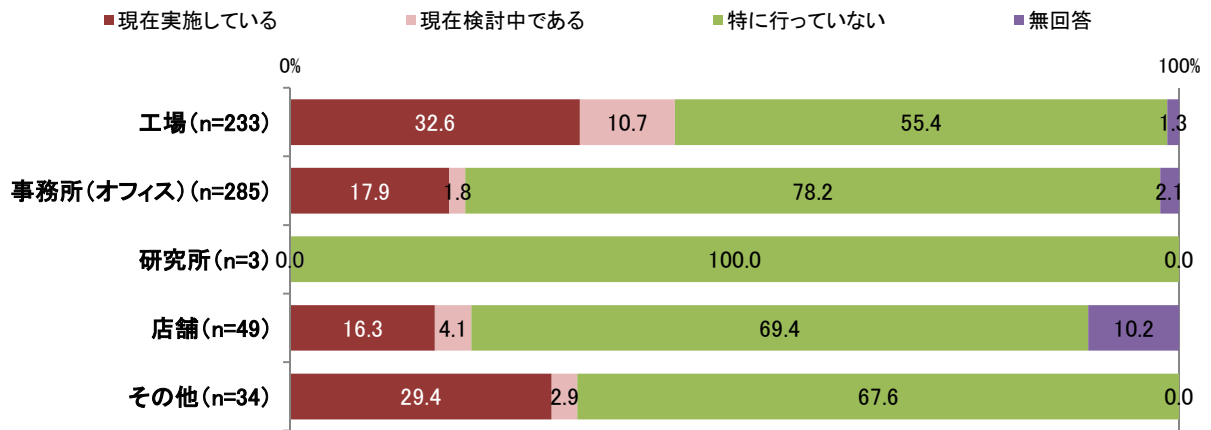
## 【ゼロエミッションへの対応】

### (1) 経年推移



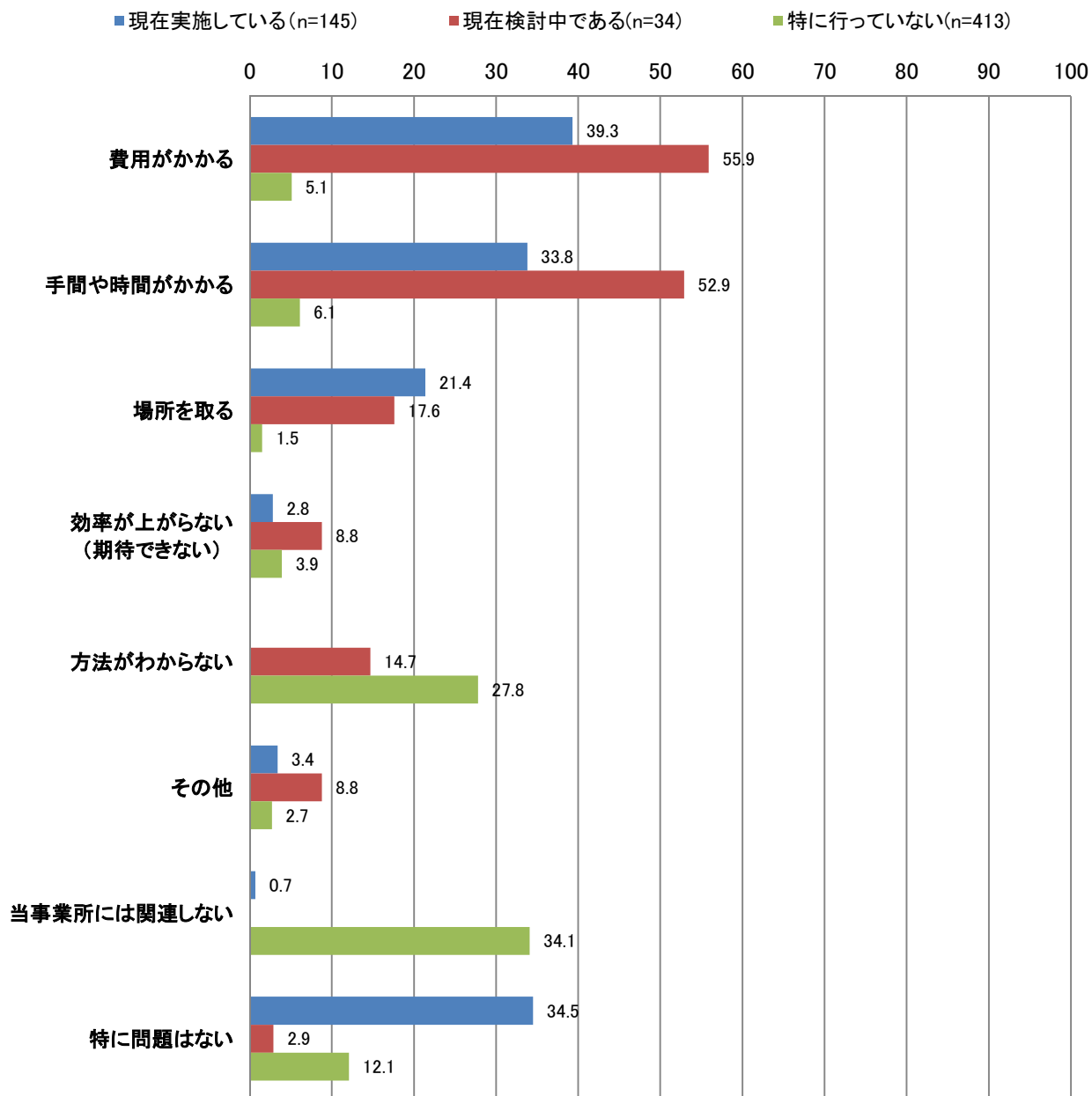
<グラフ13 ゼロエミッションへの対応 経年推移>

### (2) 事業形態別傾向



<グラフ14 ゼロエミッションへの対応 事業形態別>

(3) 実施・検討にあたっての問題点・理由



<グラフ15 ゼロエミッションへの対応 問題点・理由 実施状況別>

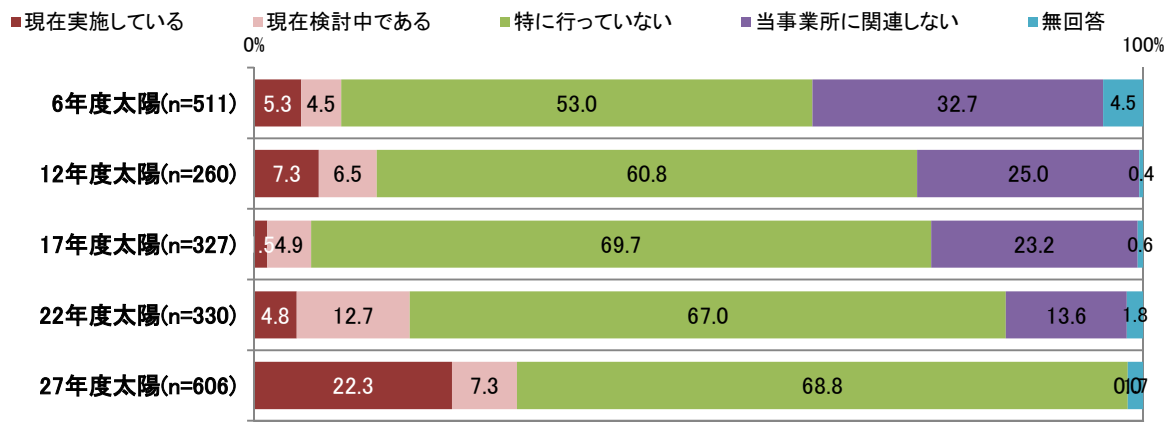
「ゼロエミッションへの対応」への取組は約2割

「ゼロエミッションへの対応」を「現在実施している」事業所は前回調査より増加しており、今回の調査では23.9%、「現在検討中である」を加えると29.5%であった。

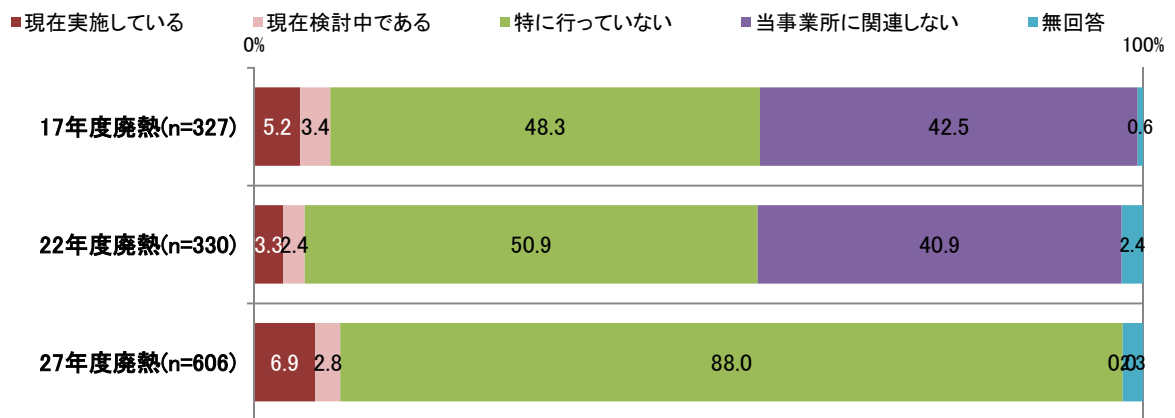
「現在検討中である」の問題点として、「費用がかかる (55.9%)」、「2番目が「手間や時間がかかる (52.9%)」、「3番目が「場所を取る (17.6%)」であった。

【太陽熱や太陽光の利用】  
【廃熱や温排水の有効利用】

(1) 経年推移

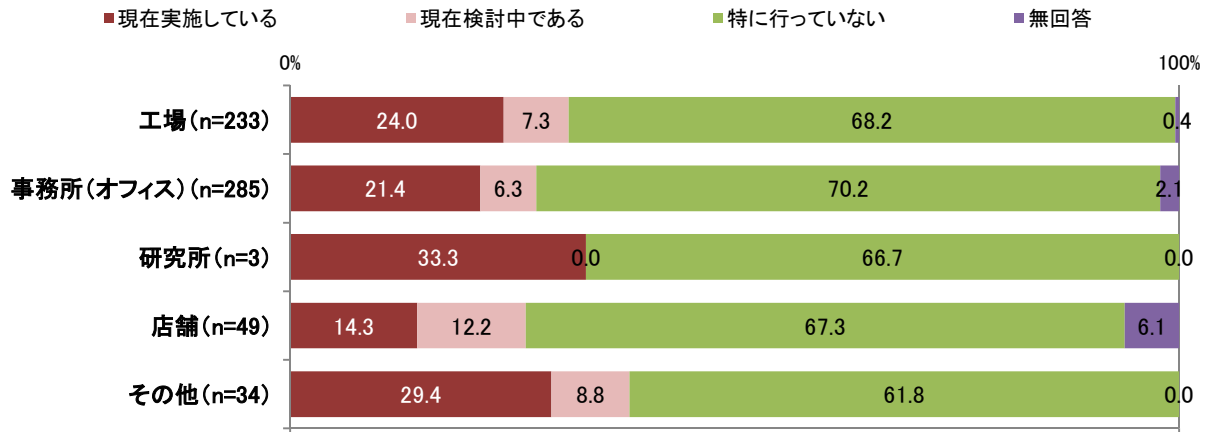


<グラフ16 太陽熱や太陽光の利用 経年推移>

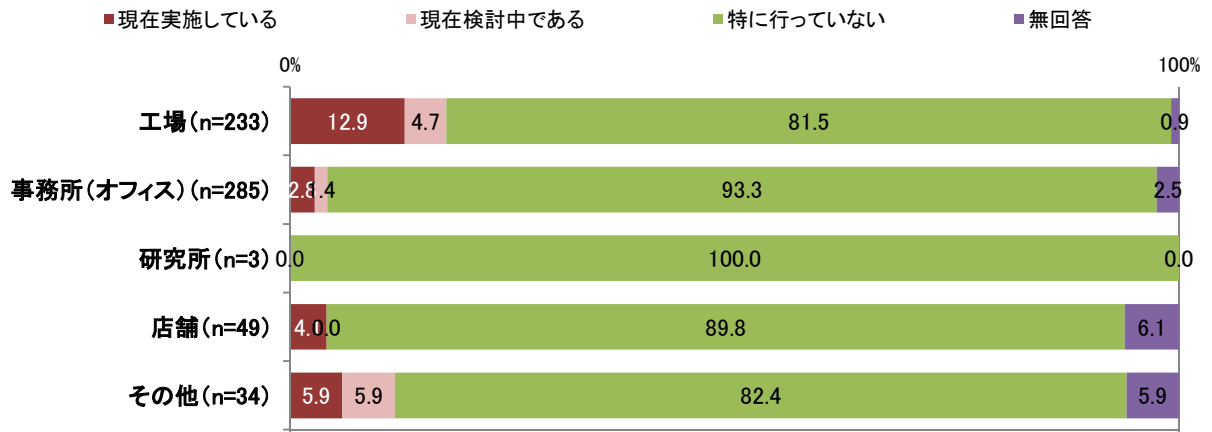


<グラフ17 廃熱や温排水の有効利用 経年推移>

(2)事業形態別傾向

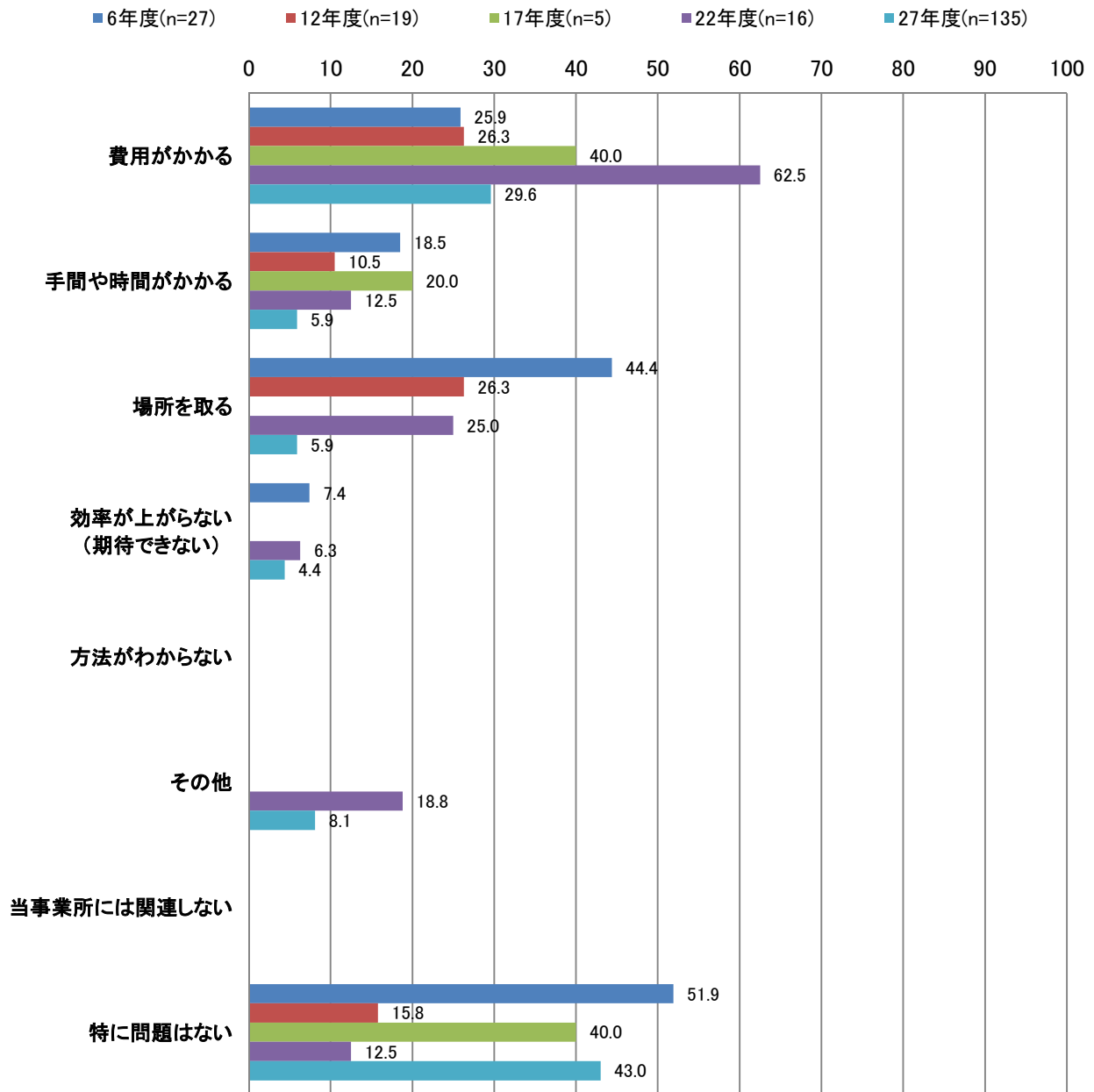


<グラフ18 太陽熱や太陽光の利用 事業形態別>

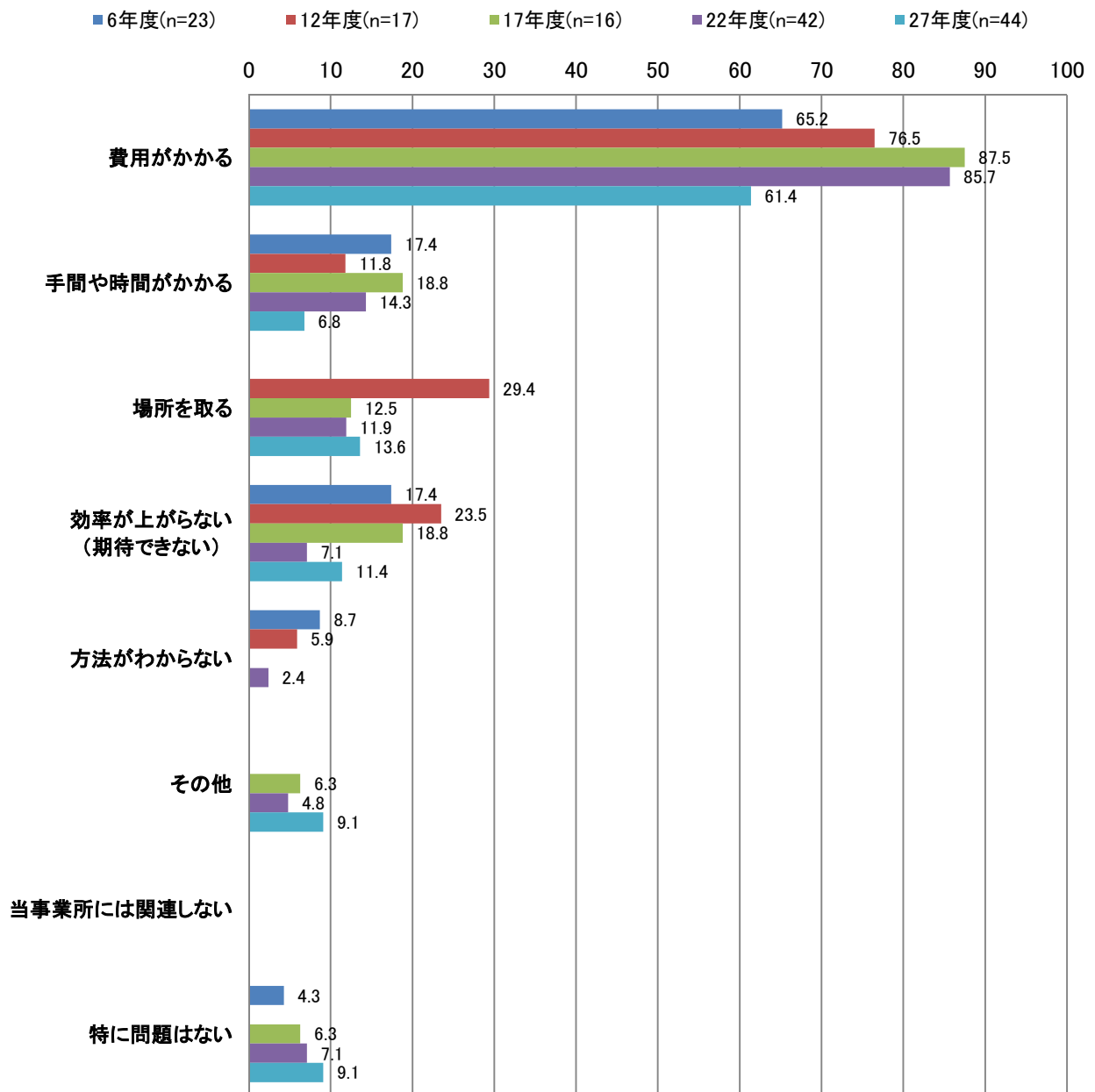


<グラフ19 廃熱や温排水の有効利用 事業形態別>

(3) 実施・検討にあたっての問題点・理由

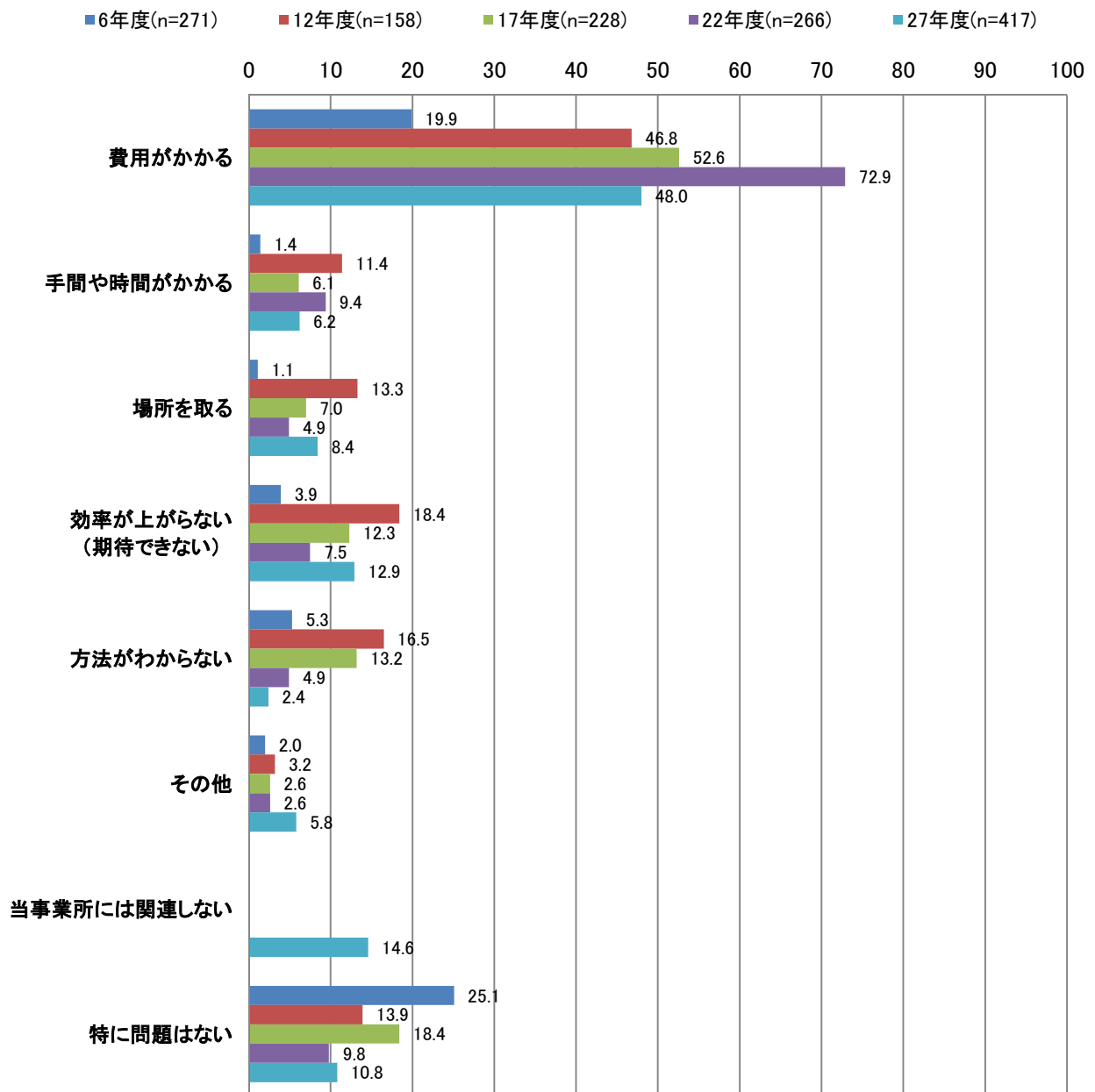


<グラフ20 太陽熱や太陽光の利用 問題点・理由「現在実施している」>

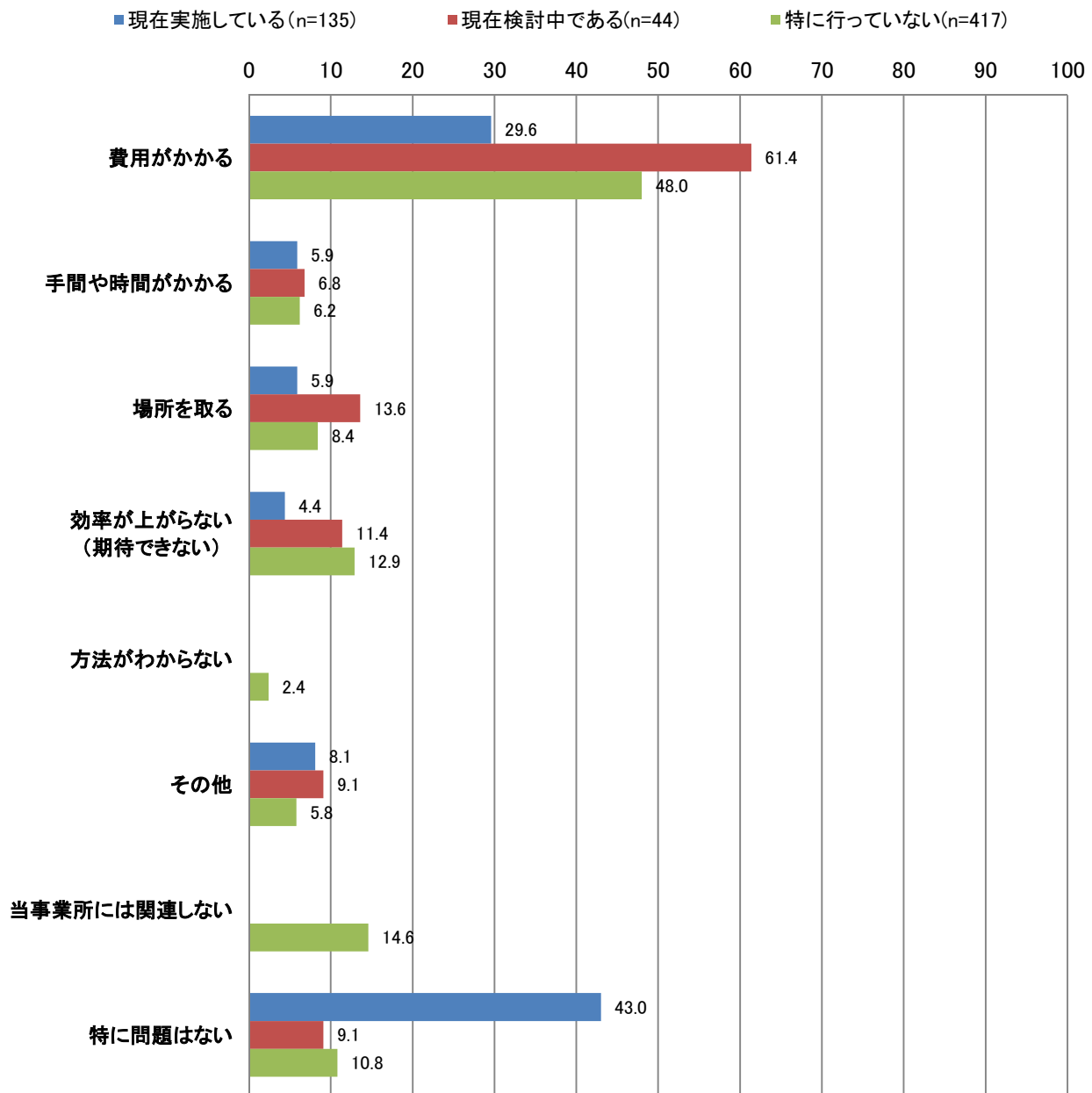


<グラフ21 太陽熱や太陽光の利用 問題点・理由 「現在検討中である」>





<グラフ22 太陽熱や太陽光の利用 問題点・理由「特に行っていない」>



＜グラフ23 太陽熱や太陽光の利用 問題点・理由 実施状況別＞

「太陽熱や太陽光の利用」への取組は増加傾向で、「廃熱や温排水の有効利用」への取組は低い

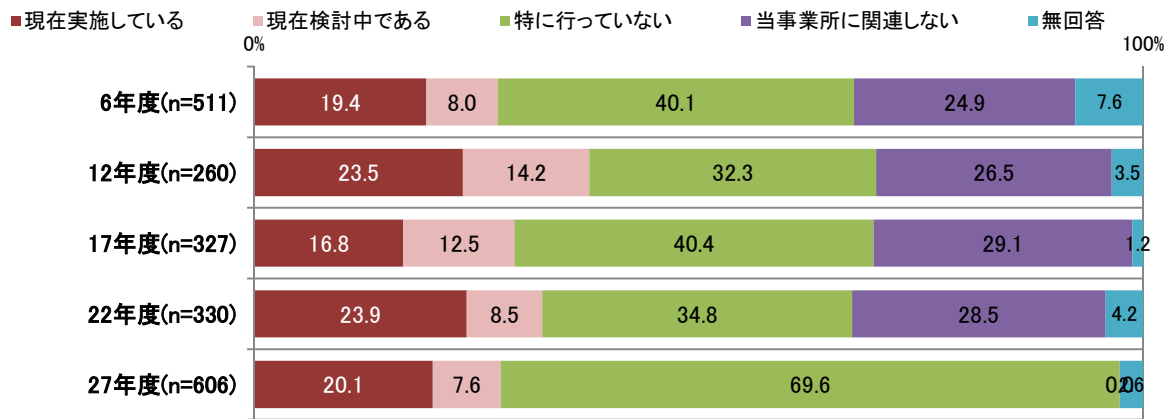
「太陽熱や太陽光の利用」への対応を「現在実施している」事業所は前回調査より大幅に増加しており、今回の調査では22.3%、「現在検討中である」を加えると29.6%であった。

「廃熱や温排水の有効利用」への対応を「現在実施している」事業所も前回調査より増加しており、今回の調査では6.9%、「現在検討中である」を加えるても9.7%であった。

「太陽熱や太陽光の利用」への対応を「現在検討中である」の問題点として、「費用がかかる(61.4%)」、「2番目が「場所を取る(13.6%)」、「3番目が「効率が上がらない(期待できない)(11.4%)」であった。

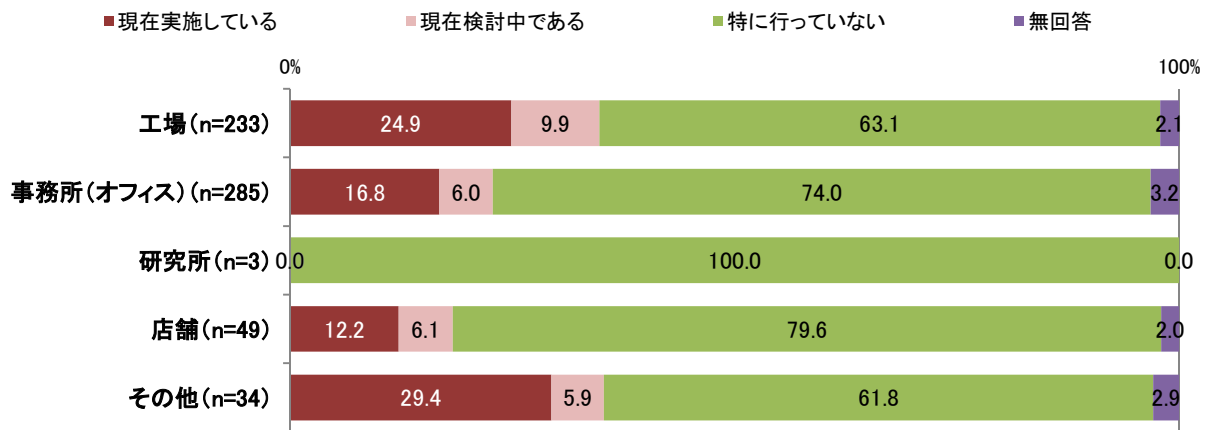
## 【物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化】

### (1) 経年推移



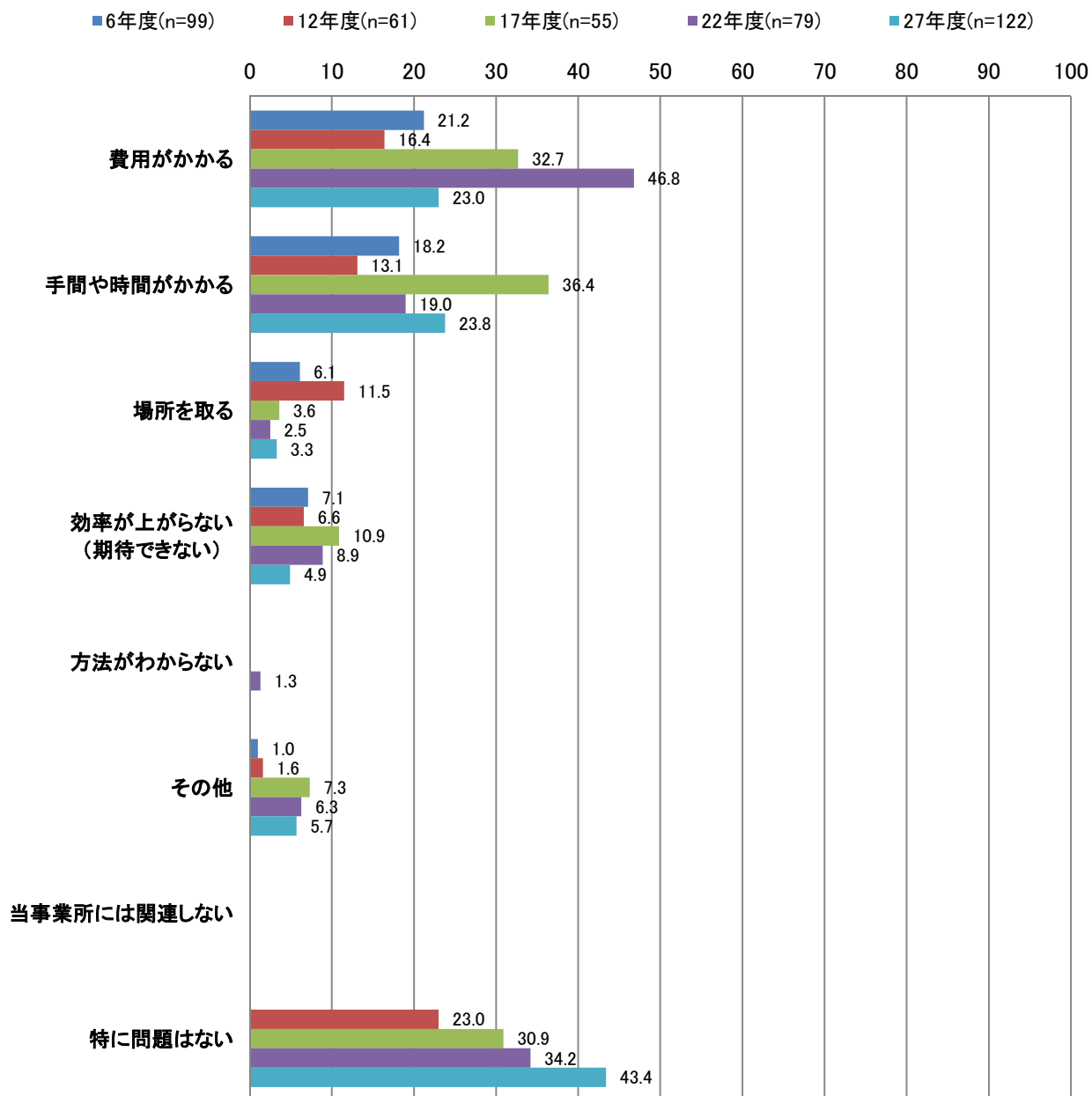
<グラフ24 物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化 経年推移>

### (2) 事業形態別傾向

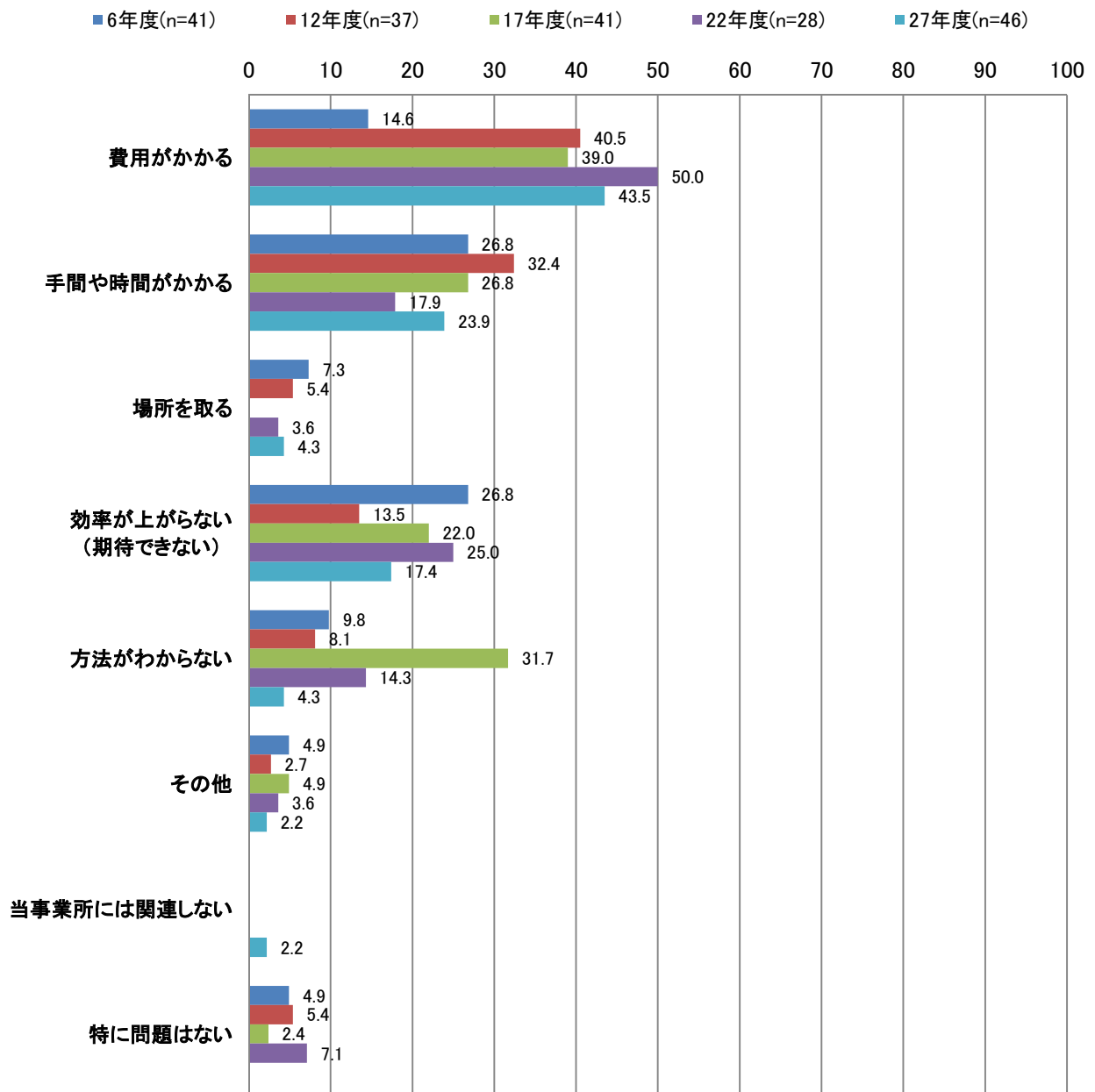


<グラフ25 物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化 事業形態別>

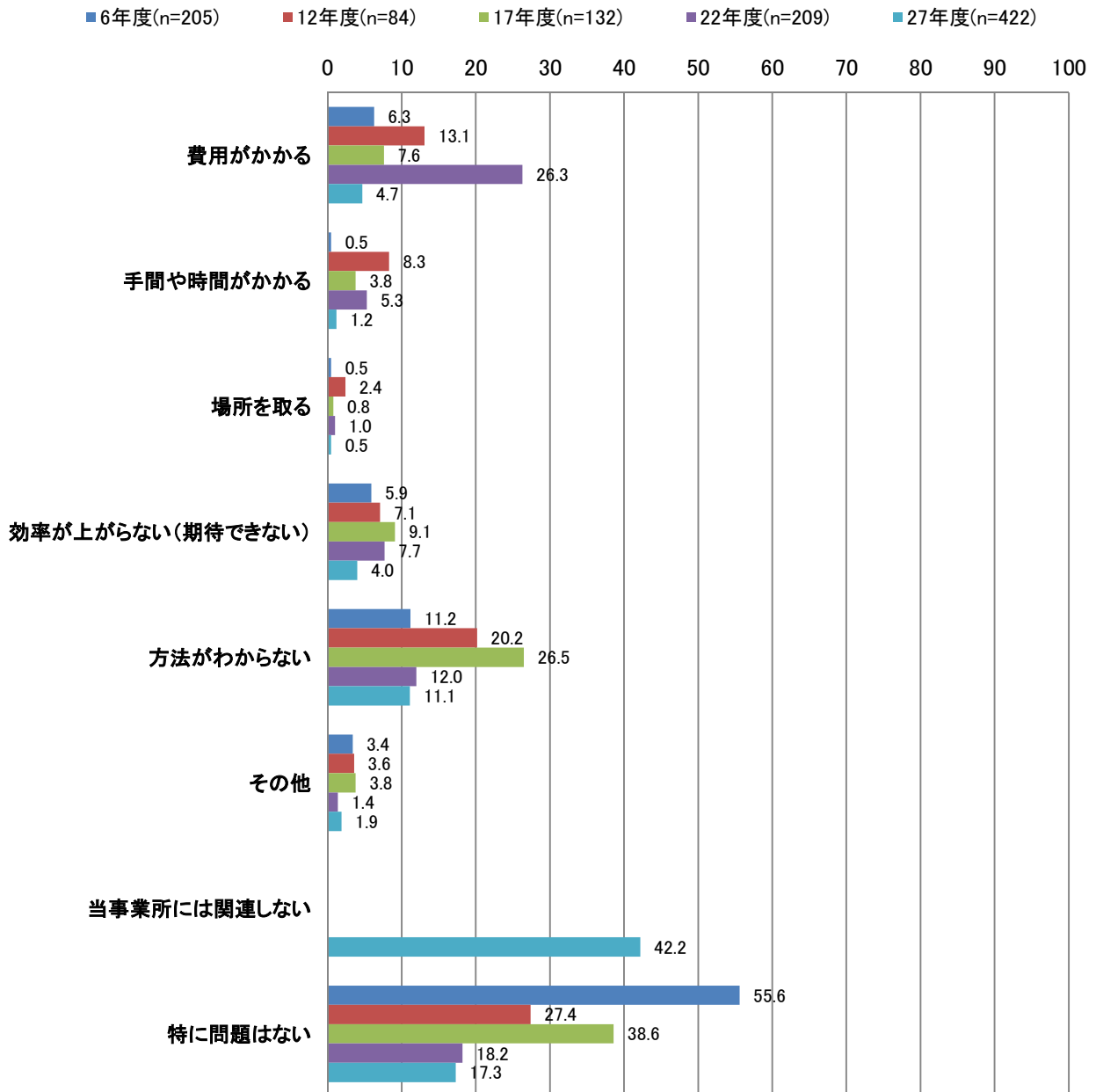
(3) 実施・検討にあたっての問題点・理由



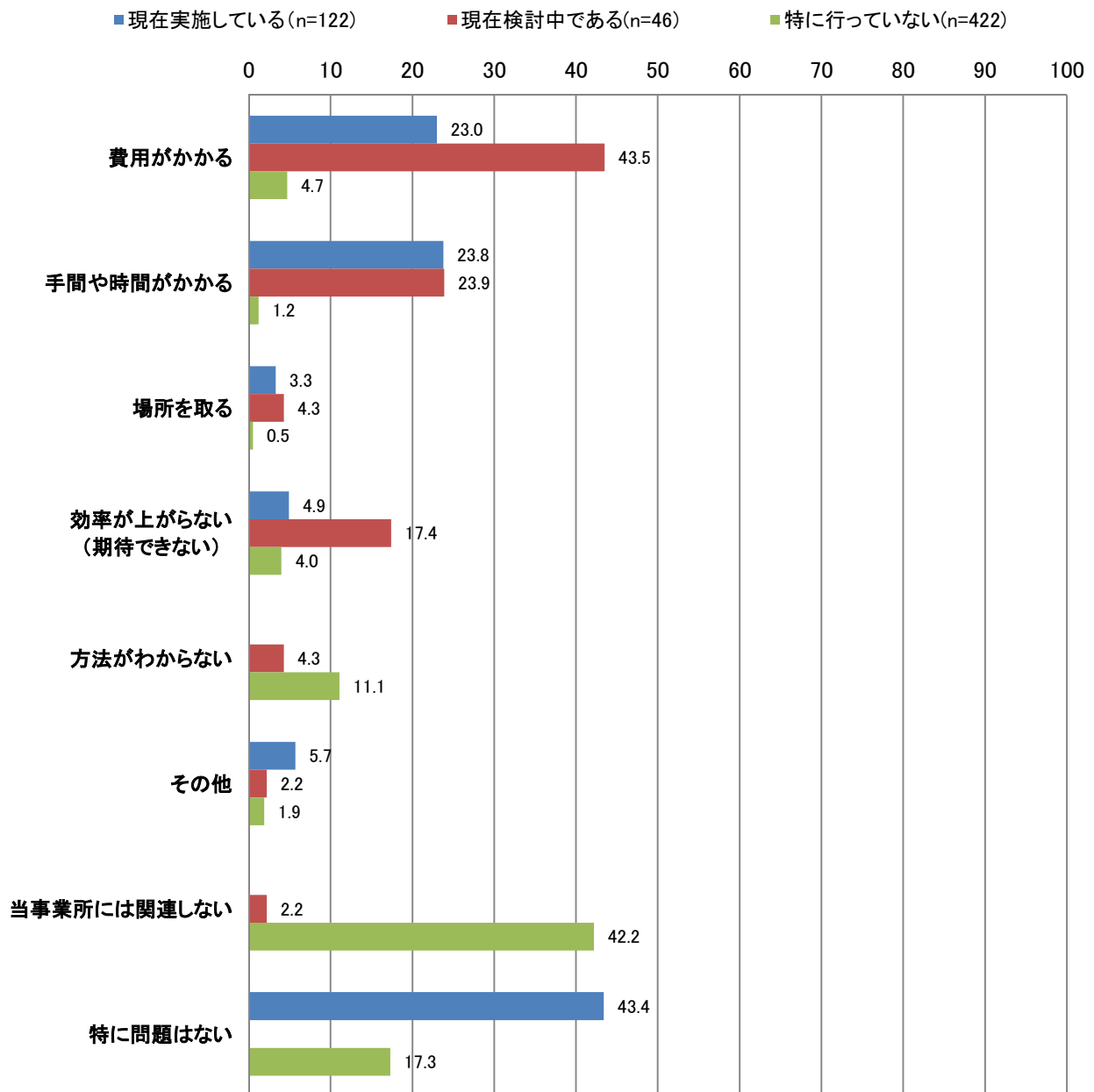
<グラフ26 物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化 問題点・理由「現在実施している」>



<グラフ27 物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化 問題点・理由「現在検討中である」>



<グラフ28 物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化 問題点・理由「特に行っていない」>



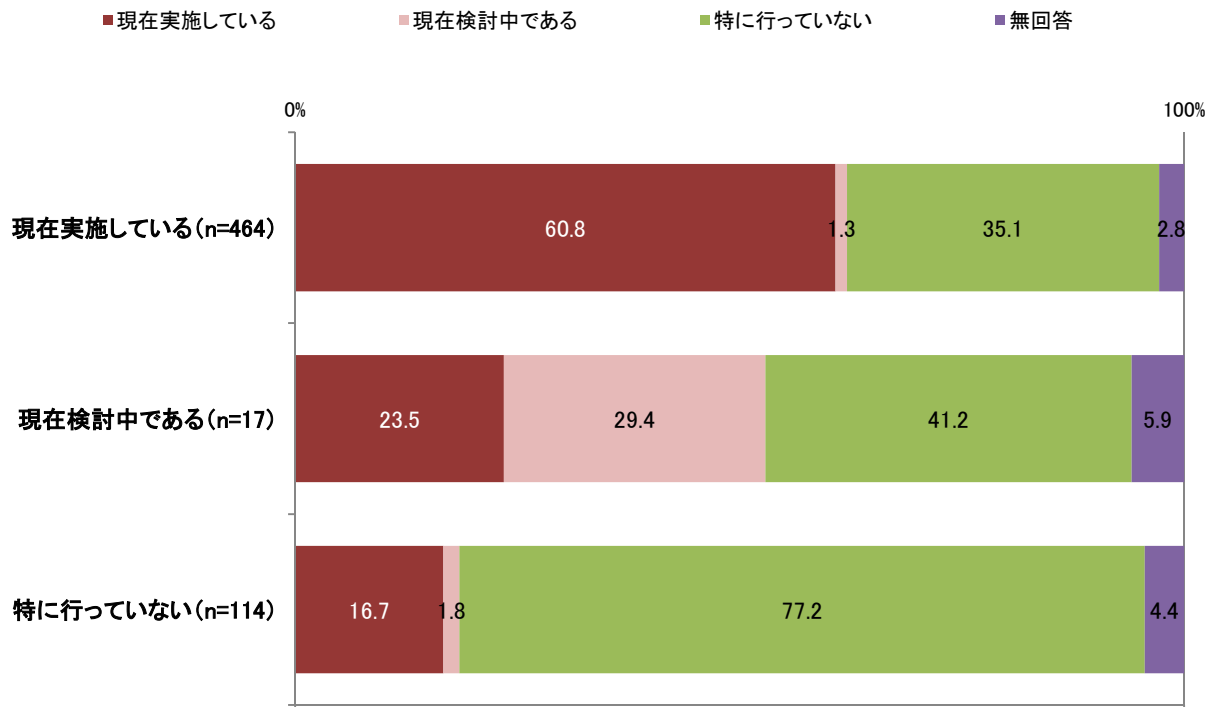
＜グラフ29 物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化 問題点・理由 実施状況別＞

「物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化」への取組は前回調査より減少

「物流システムの効率化や輸送面での省エネルギー化」を「現在実施している」事業所は前回調査より減少しており、今回の調査では20.1%、「現在検討中である」を加えても27.7%であった。

「現在検討中である」の問題点として、「費用がかかる（43.5%）」、2番目が「手間や時間がかかる（23.9%）」、3番目が「効率が上がらない（期待できない）（17.4%）」であった。

「問6 (1) 事業所で出る廃棄物のリサイクルの実施状況」と  
 「問6 (2) 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル」の取組状況



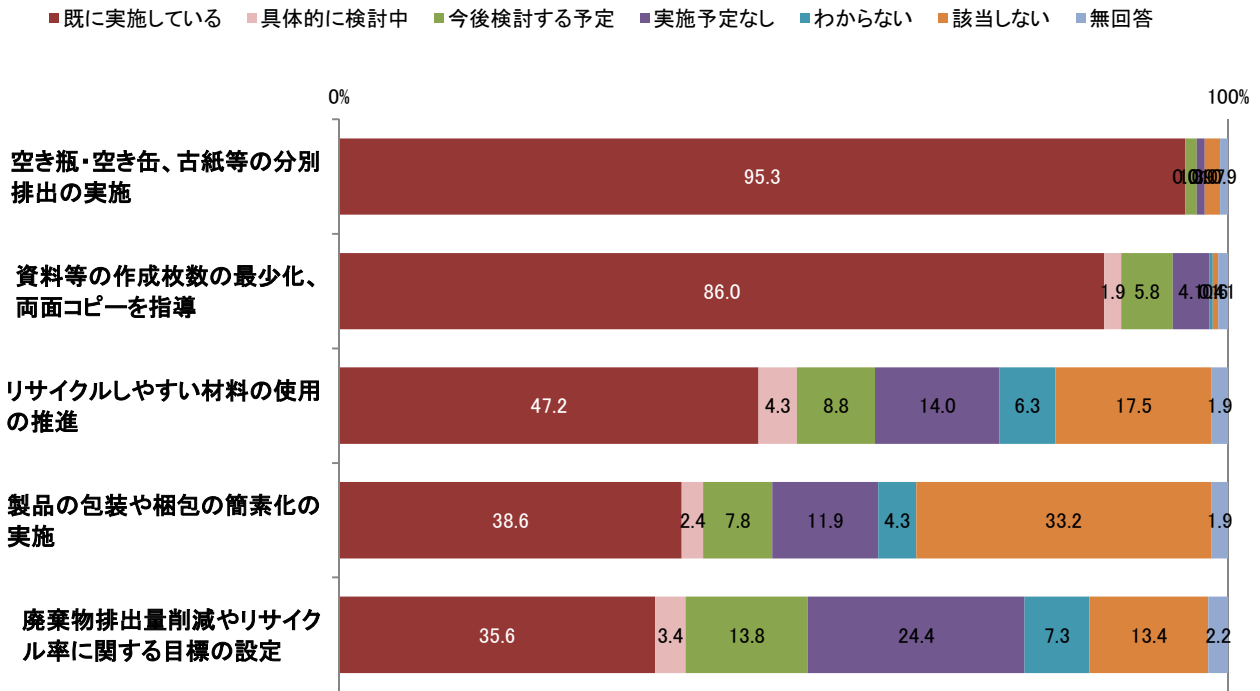
＜グラフ30 事業所で出る廃棄物のリサイクル × 自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル＞

約6割の事業所において現在実施している

【事業所で出る廃棄物のリサイクルを現在実施している】事業所において、【自社取扱商品・容器などの回収・リサイクル】を「現在実施している」事業所は、60.8%であった。



「問6 (1) 事業所で出る廃棄物のリサイクルの実施状況 (現在実施している)」と  
「問7 D. 廃棄物の減量・リサイクル」の取組状況



＜グラフ31 事業所で出る廃棄物のリサイクル(現在実施している) × 廃棄物の減量・リサイクル＞

「空き瓶・空き缶、古紙等の分別排出」を現在実施している事業所は9割以上

【事業所で出る廃棄物のリサイクルを現在実施している】事業所において、【空き瓶・空き缶、古紙等の分別排出】を「現在実施している」事業所は、95.3%であった。また、「資料等の作成枚数の最少化、両面コピーを指導」を「現在実施している」事業所も、86.0%であった。

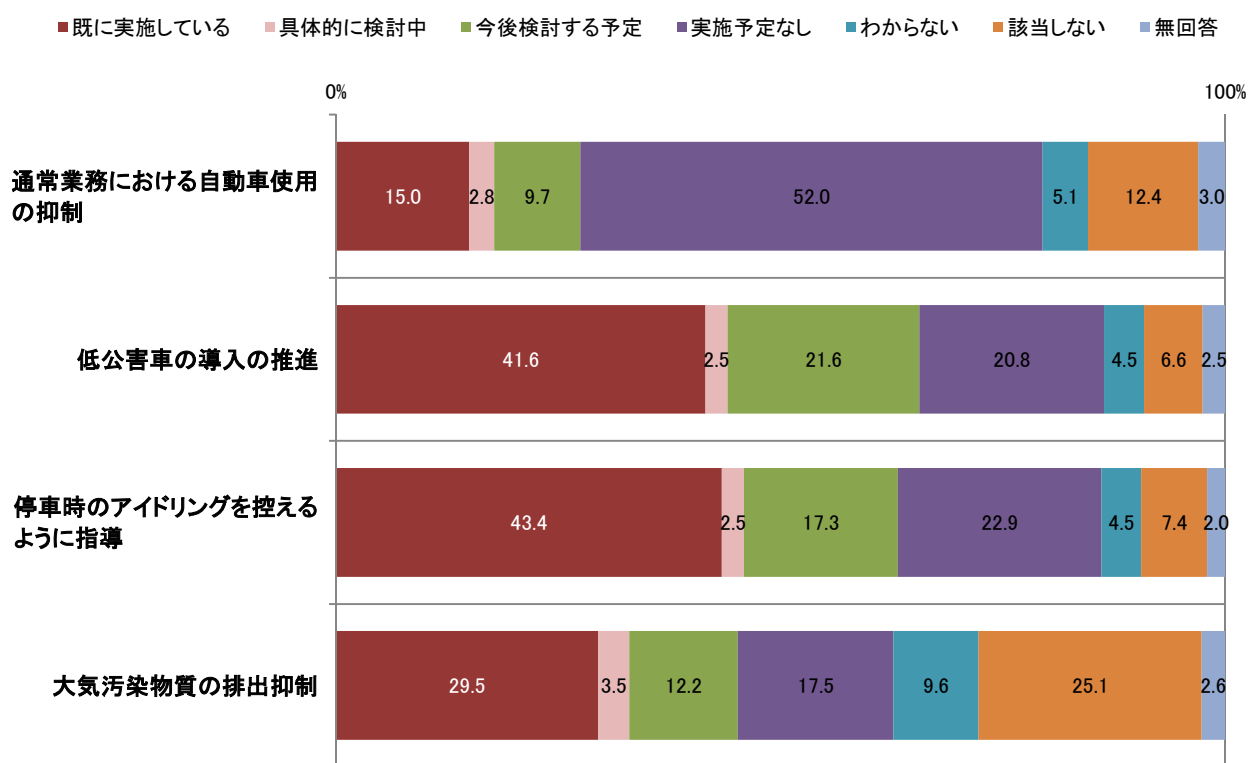
一方、「リサイクルしやすい材料の使用の推進」、「製品の包装や梱包の簡素化の実施」、「廃棄物排出量削減やリサイクル率に関する目標の設定」の3項目については、「現在実施している」割合は、いずれも5割未満であった。

### 3.2.2 その他の取組

問7 問6でおうかがいした取組のほかに、貴事業所では、どのような環境保全の取組を実施していますか。以下のそれぞれの項目について、1～6のうち、あてはまる番号1つに○をつけてください。

#### 【A. 大気環境保全】

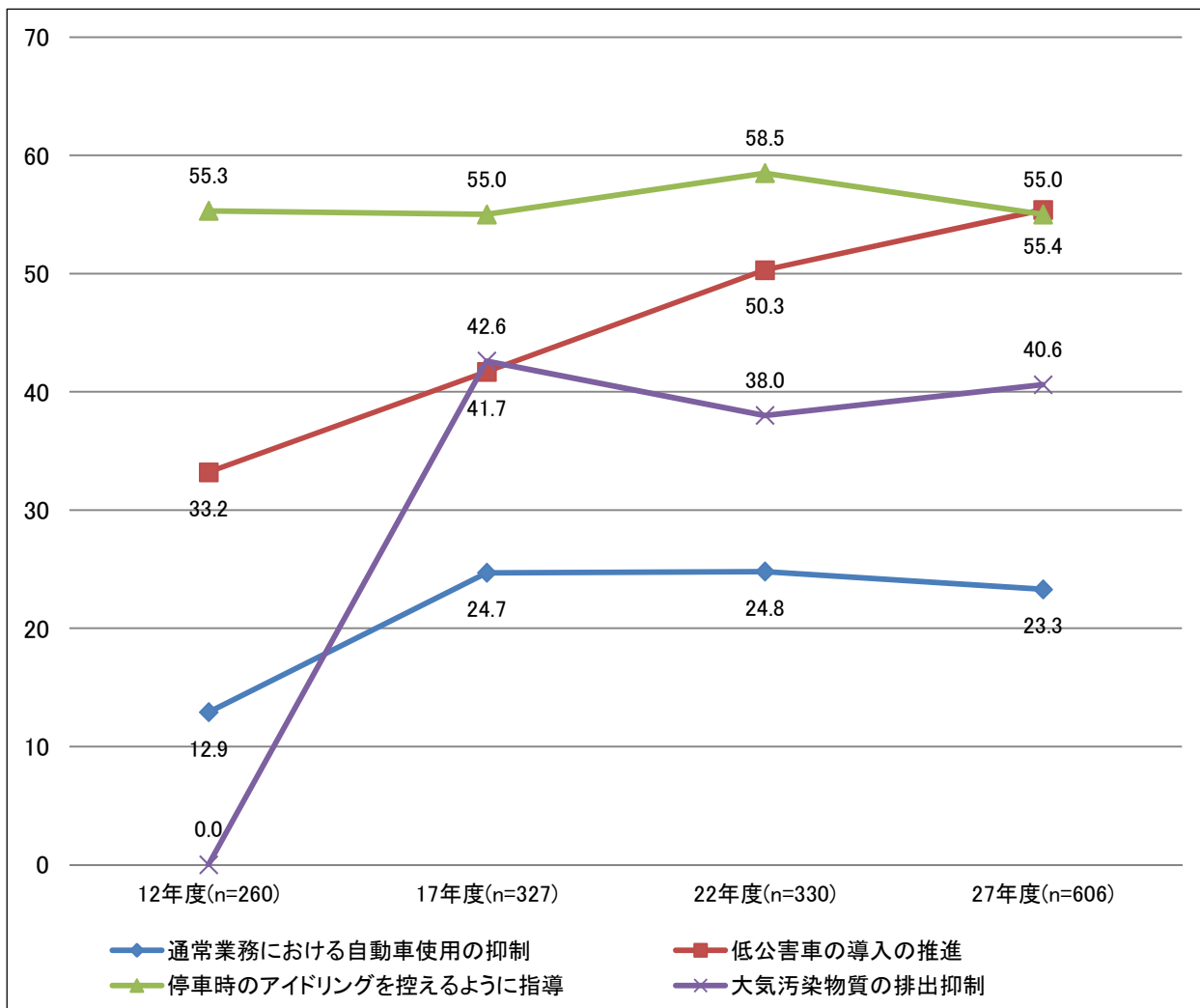
##### (1) 今年度の傾向



<グラフ32 大気環境保全の取組>

## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



＜グラフ33 大気環境保全の取組 加重平均＞

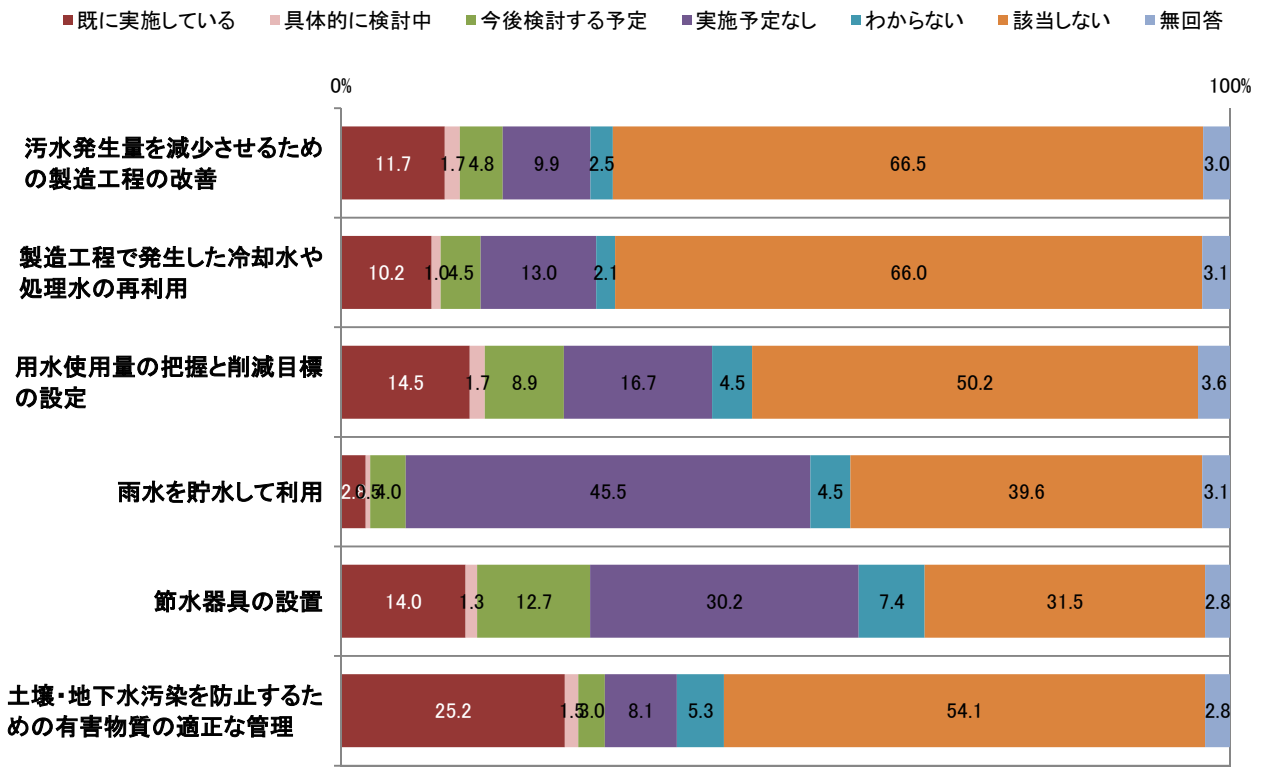
【大気環境保全の取組】で最も実施されているのは「停車時のアイドリングを控えるように指導」

【大気環境保全の取組】で実施率が最も高かったのは「停車時のアイドリングを控えるように指導（43.4%）」、2番目が「低公害車の導入の推進（41.6%）」、3番目が「大気汚染物質の排出抑制（29.5%）」であった。

一方、「通常業務における自動車使用の抑制（15.0%）」は低かった。

## 【B. 水・土壌環境保全】

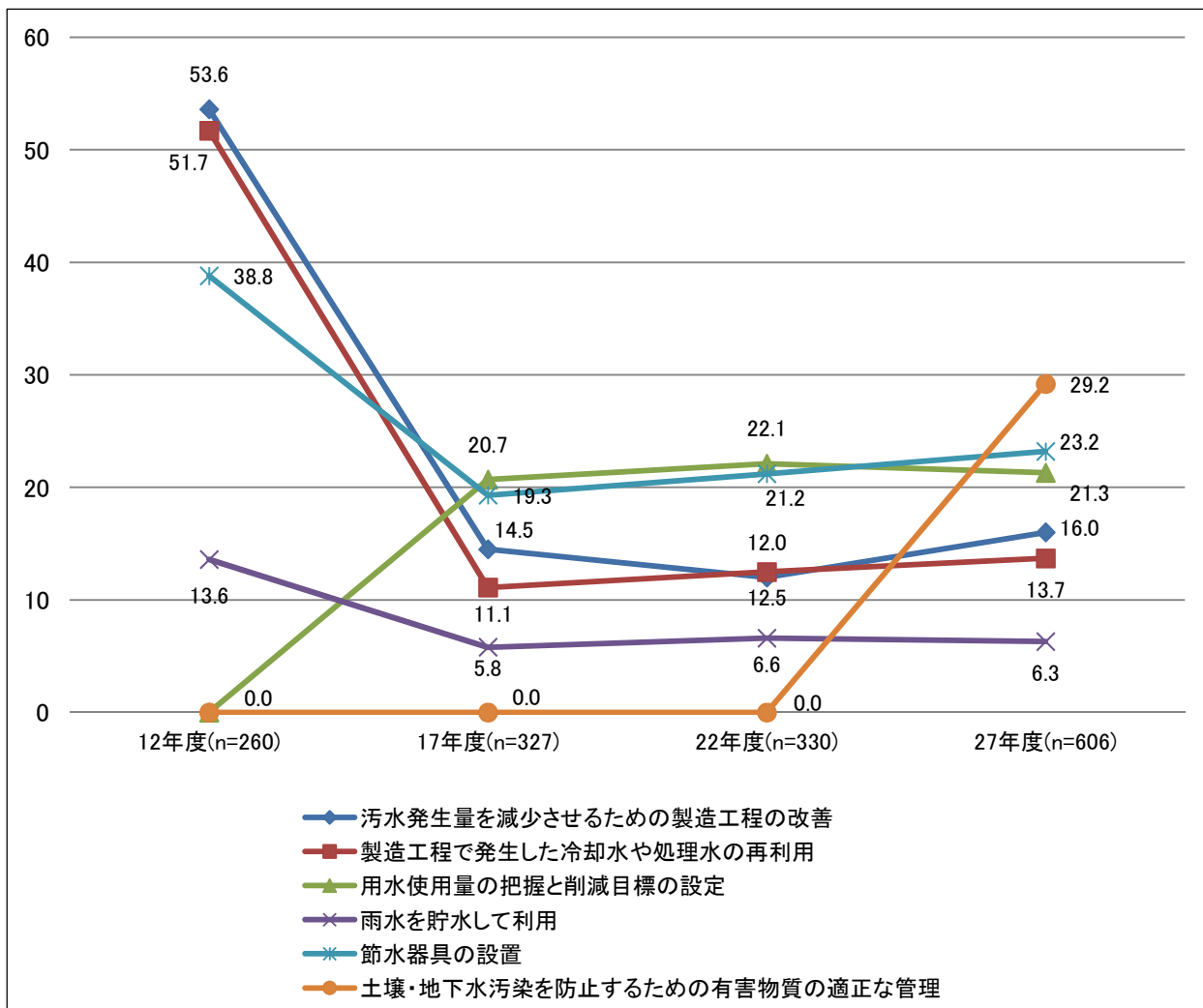
### (1) 今年度の傾向



<グラフ34 水・土壌環境保全の取組>

## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



<グラフ35 水・土壌環境保全 加重平均>

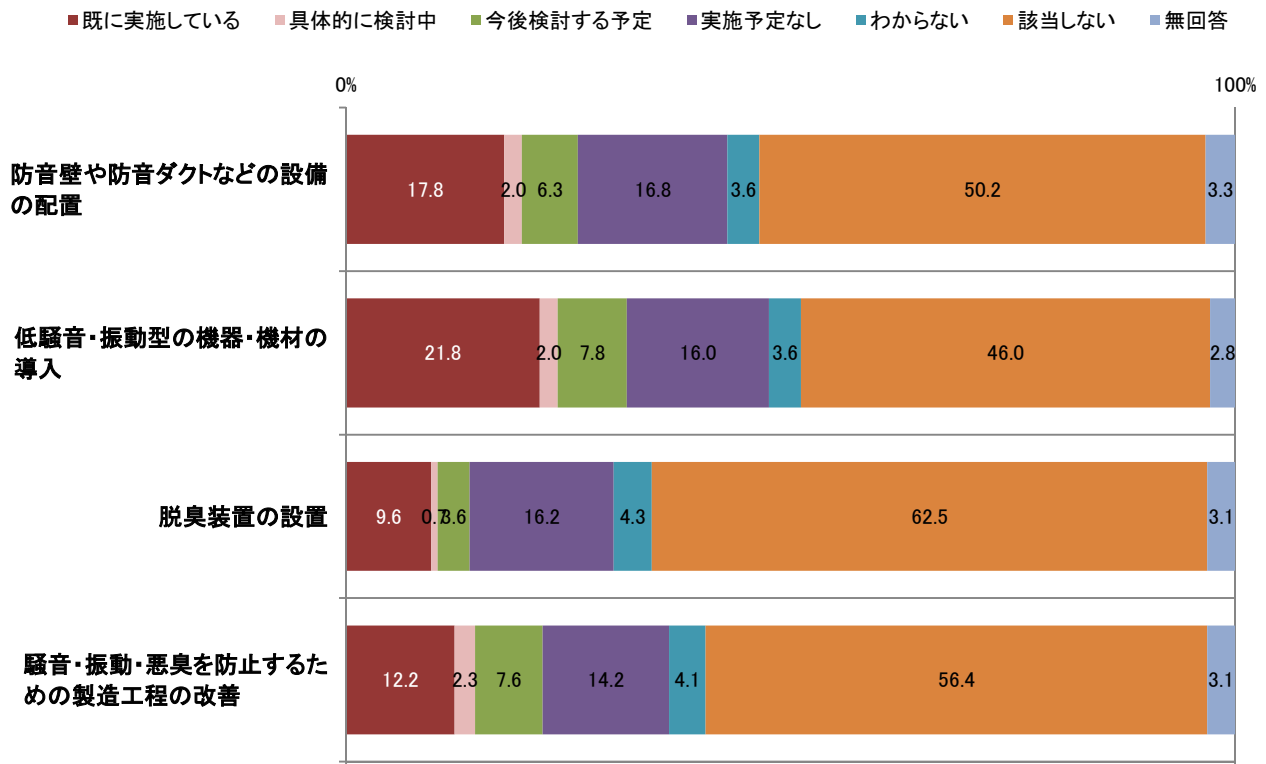
### 【水・土壌環境保全】の実施率は1割前後

【水・土壌環境保全】については、各項目において「該当しない」の割合が大きいため、点数化する標本数が少なく、今回の調査結果を県内企業の指標とするのは困難であるが、1項目を除いては増加傾向となっている。

そんな中でも実施率が最も高かったのは、今回から新たに追加された「土壌・地下水汚染を防止するための有害物質の適正な管理（25.2%）」、2番目が「用水使用量の把握と削減目標の設定（14.5%）」、3番目が「節水器具の設置（14.0%）」であった。

## 【C. 騒音・振動・悪臭】

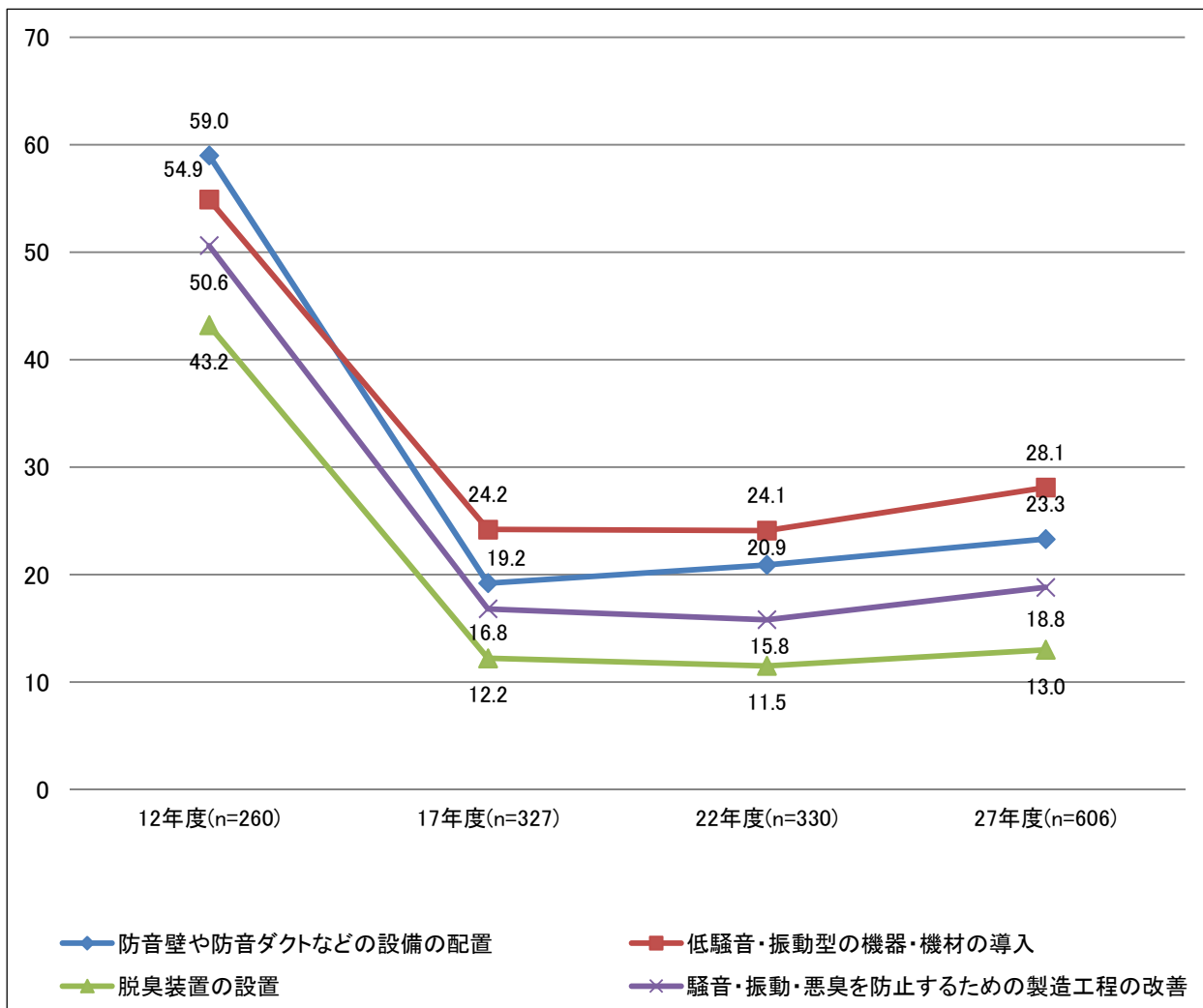
### (1) 今年度の傾向



<グラフ36 騒音・振動・悪臭の取組>

## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



<グラフ37 騒音・振動・悪臭 加重平均>

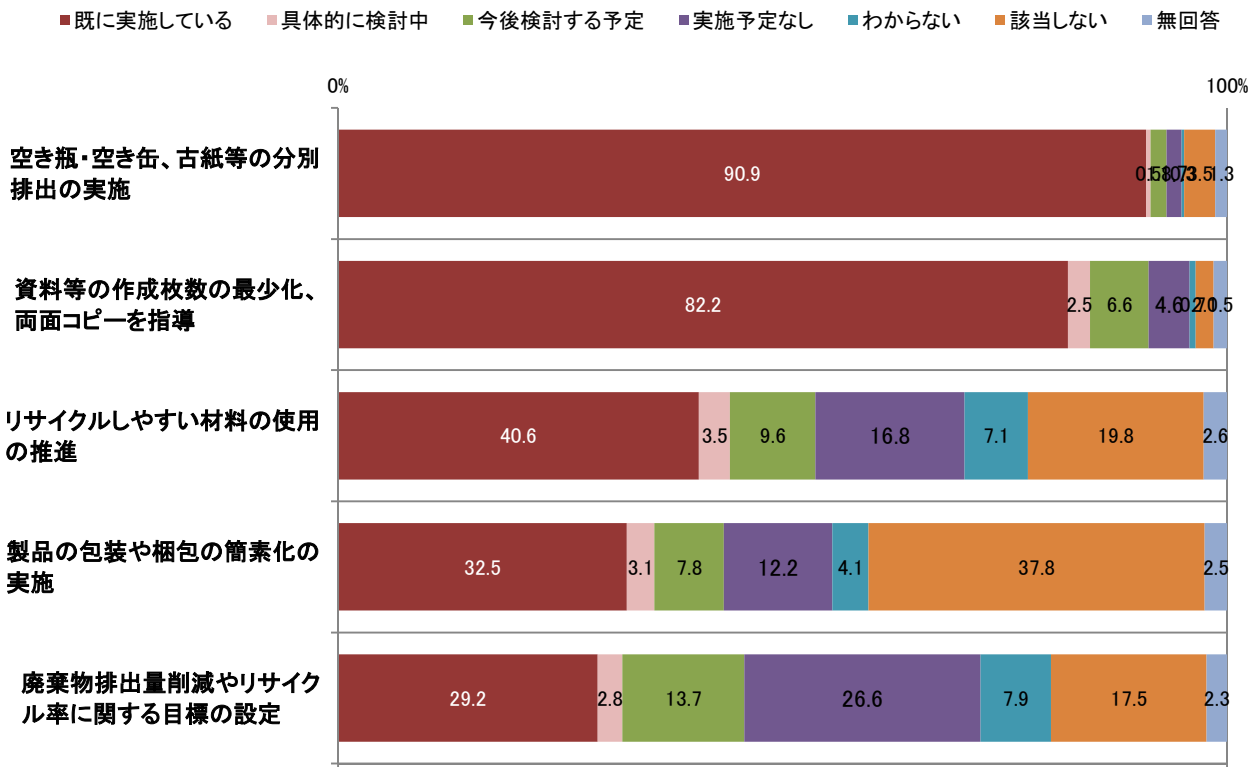
### 【騒音・振動・悪臭】の実施率は1割～2割

【騒音・振動・悪臭】については、各項目において「該当しない」の割合が大きいため、点数化する標本数が少なく、今回の調査結果を県内企業の指標とするのは困難であるが、全項目において増加傾向となっている。

実施率が最も高かったのは「低騒音・振動型の機器・機材の導入（21.8%）」、2番目が「防音壁や防音ダクトなどの設備の配置（17.8%）」、3番目が「騒音・振動・悪臭を防止するための製造工程の改善（12.2%）」であった。

## 【D. 廃棄物の減量・リサイクル】

### (1) 今年度の傾向

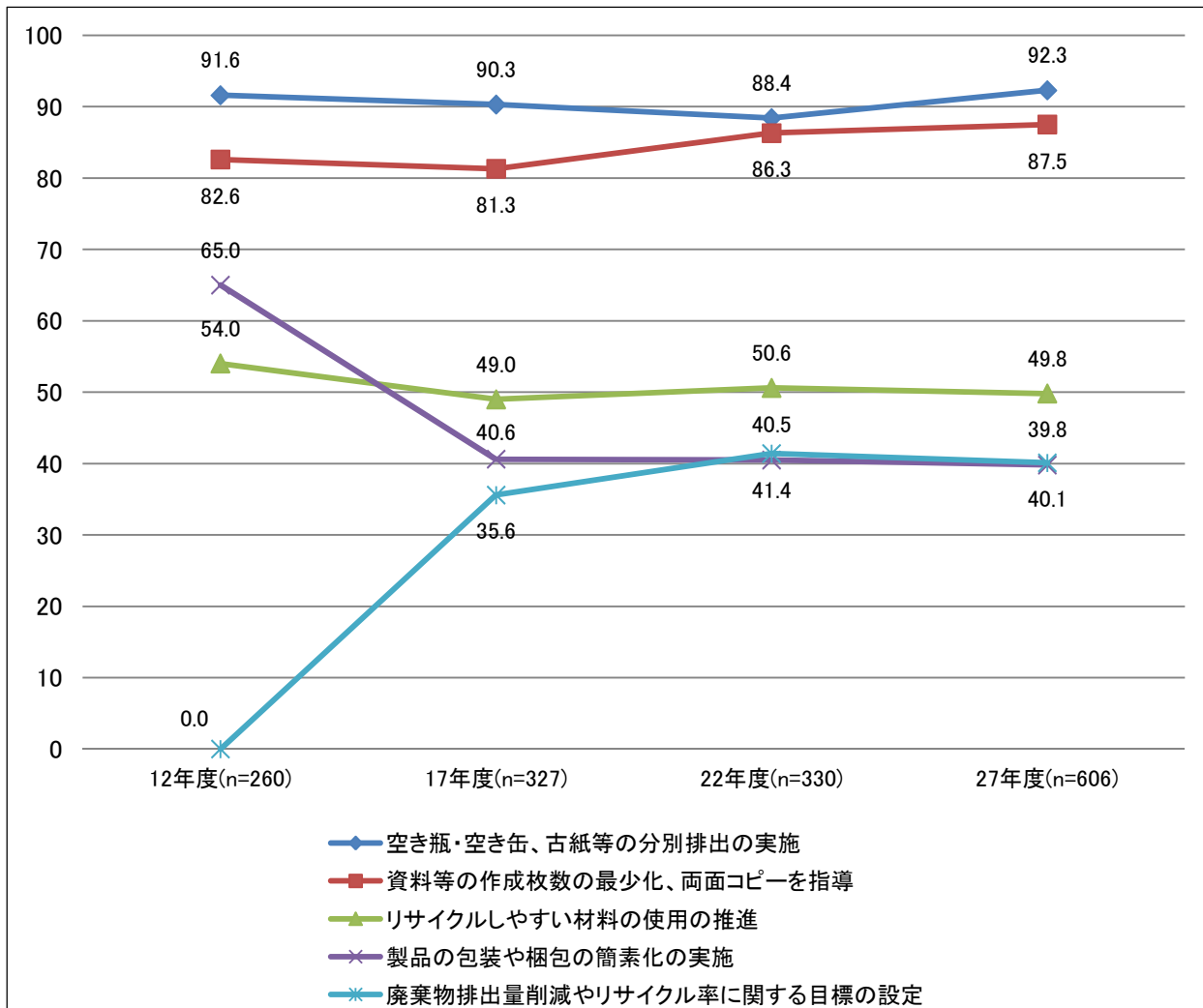


<グラフ38 廃棄物の減量・リサイクルの取組>



## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



<グラフ39 廃棄物の減量・リサイクル 加重平均>

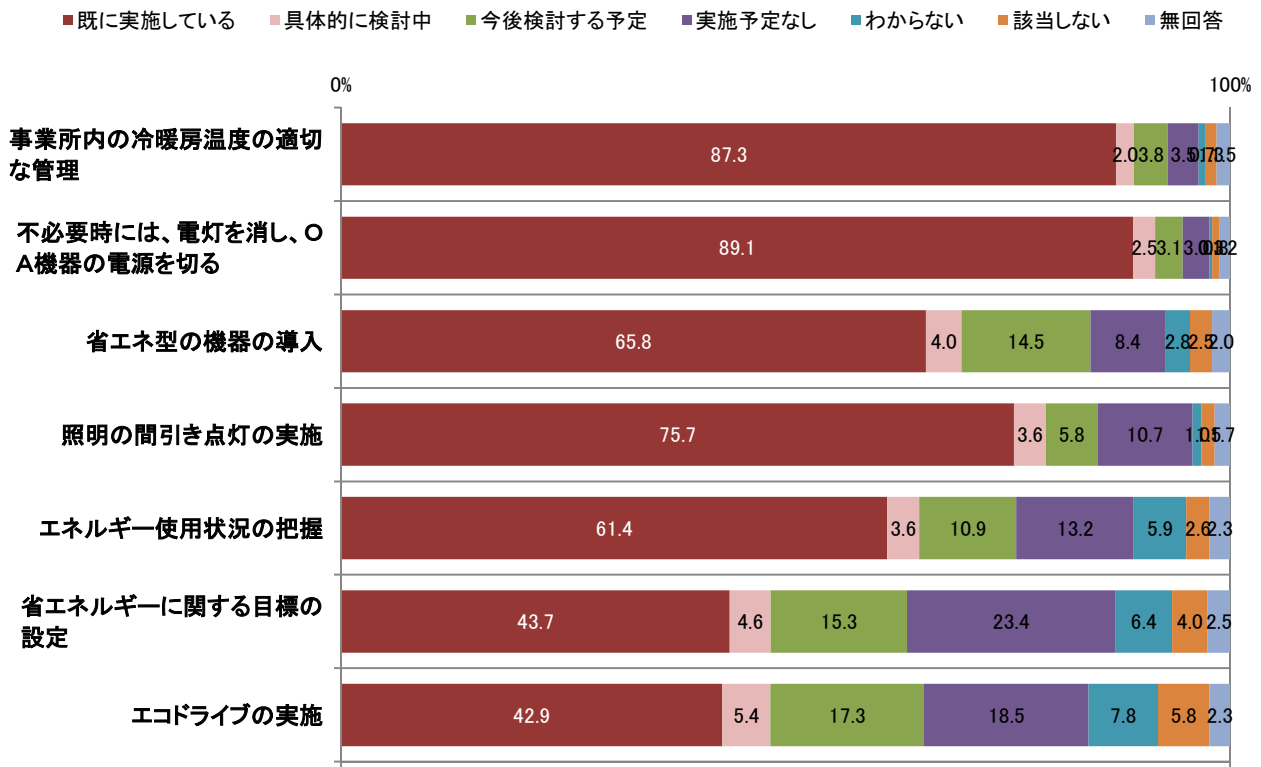
「空き瓶・空き缶、古紙等の分別排出の実施」は9割以上

【廃棄物の減量・リサイクル】で実施率が最も高かったのは「空き瓶・空き缶、古紙等の分別排出の実施(90.9%)」、2番目が「資料等の作成枚数の最少化、両面コピーを指導(82.2%)」、3番目が「リサイクルしやすい材料の使用の推進(40.6%)」であった。

一方、「廃棄物排出量削減やリサイクル率に関する目標の設定(29.2%)」は低かった。

## 【E. 省エネルギー】

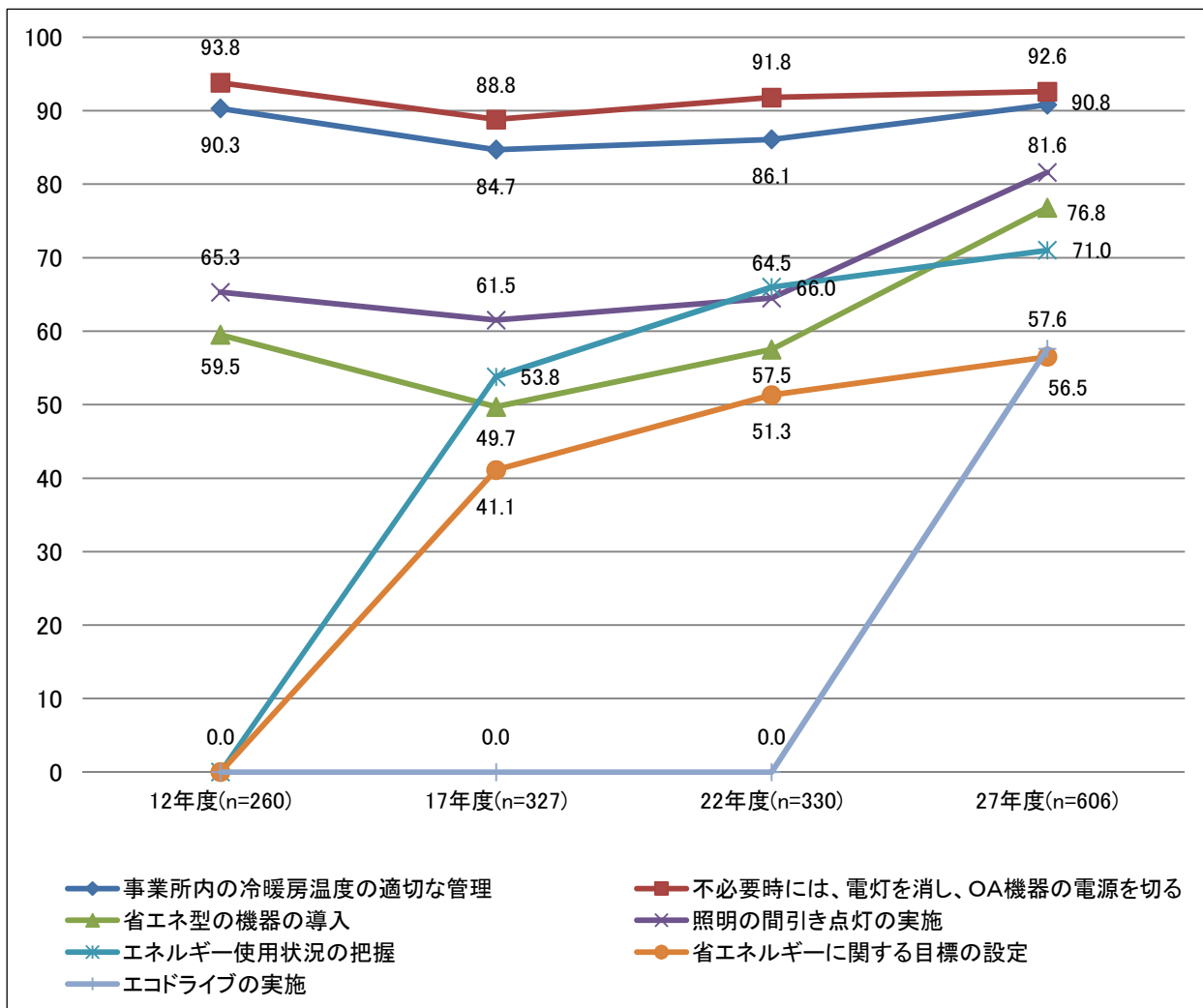
### (1) 今年度の傾向



<グラフ40 省エネルギーの取組>

## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



<グラフ41 省エネルギー 加重平均>

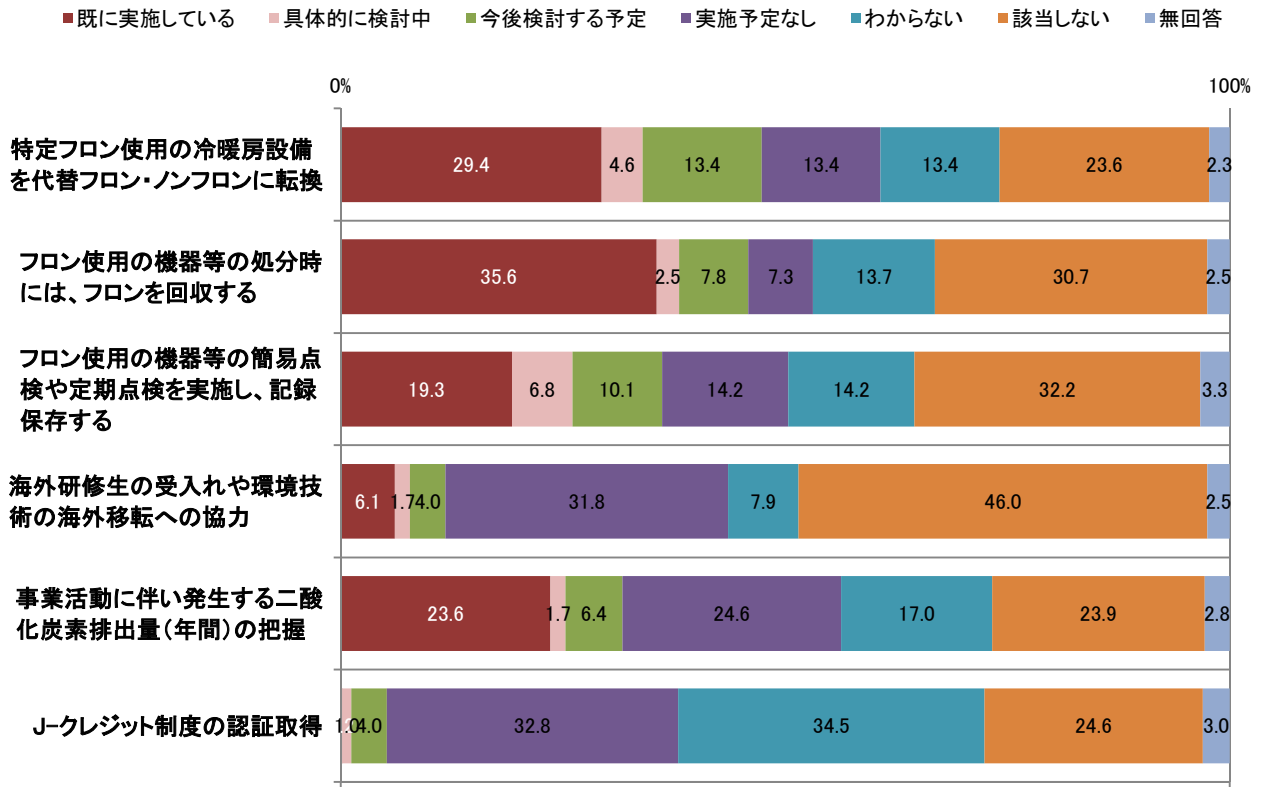
### 【省エネルギー】の実施率は全体的に高い

【省エネルギー】については、全体的に実施率が高く、中でも最も高かったのは「不必要時には、電灯を消し、OA機器の電源を切る（89.1%）」、2番目が「事業所内の冷暖房温度の適切な管理（87.3%）」、3番目が「照明の間引き点灯の実施（75.7%）」であった。

なお、今回から新たに追加された「エコドライブの実施」は42.9%であった。

## 【F. 地球環境保全】

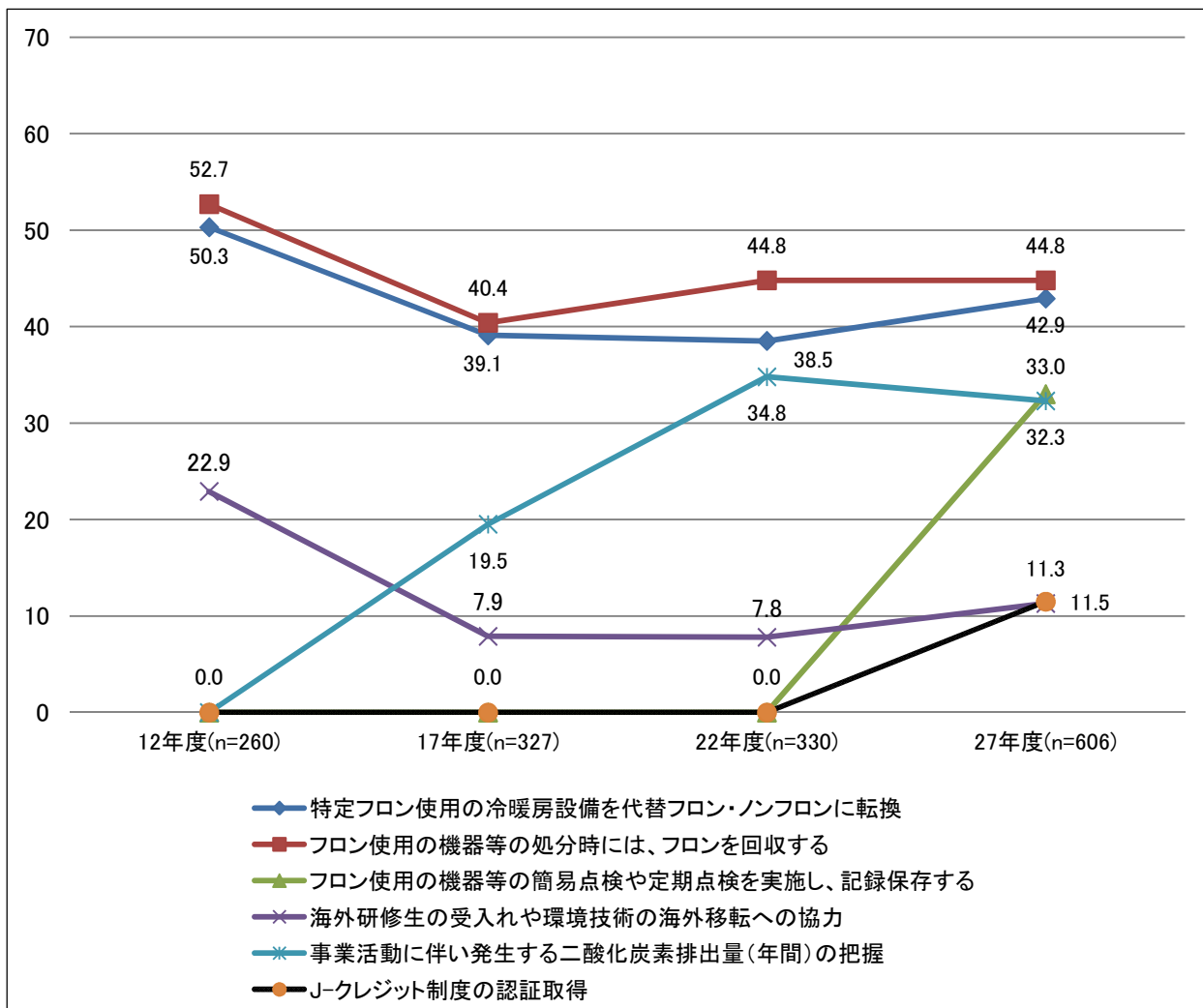
### (1) 今年度の傾向



<グラフ42 地球環境保全の取組>

## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



<グラフ43 地球環境保全 加重平均>

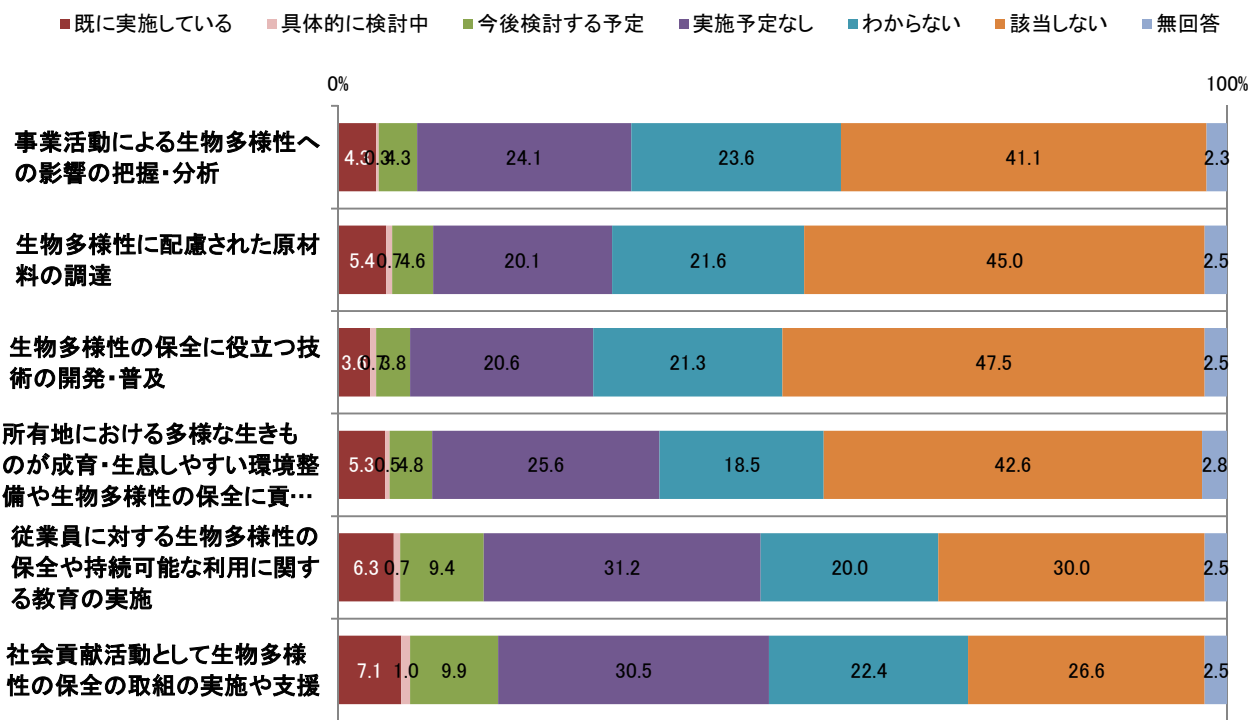
### 【地球環境保全】の実施率は4割以下

【地球環境保全】については、各項目において実施率は4割以下と低く、そんな中でも実施率が最も高かったのは「フロン使用の機器等の処分時には、フロンを回収する（35.6%）」、2番目が「特定フロン使用の冷暖房設備を代替フロン・ノンフロンに転換（29.4%）」、3番目が「事業活動に伴い発生する二酸化炭素排出量（年間）の把握（23.6%）」であった。

なお、今回から新たに追加された「フロン使用の機器等の簡易点検や定期点検を実施し、記録保存する」は19.3%、「J-クレジット制度の認証取得」は0.2%であった。

## 【G. 自然環境の保全】

### (1) 今年度の傾向



<グラフ44 自然環境の保全>

## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



<グラフ45 自然環境の保全 加重平均>

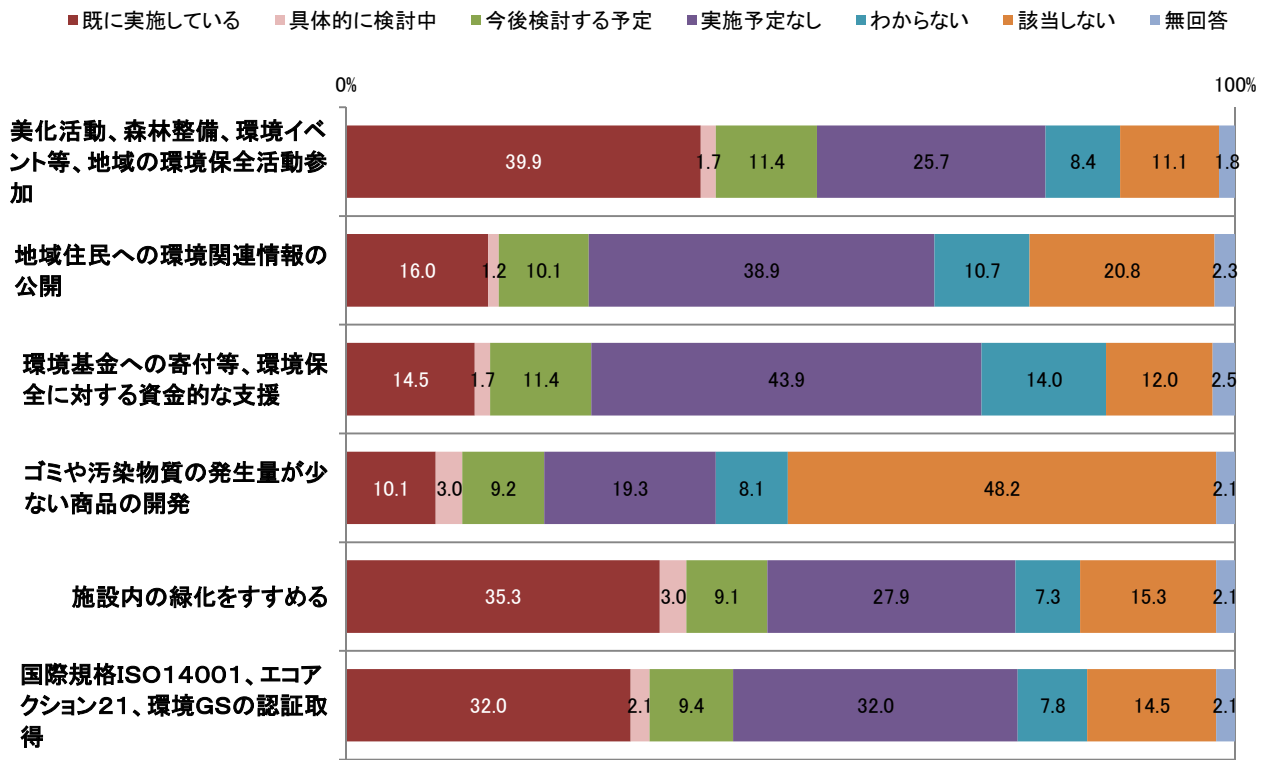
### 【自然環境の保全】の実施率は1割以下

今回から新たに追加された【自然環境の保全】については、各項目において「該当しない」の割合が大きいため、点数化する標本数が少なく、今回の調査結果を県内企業の指標とするのは困難であるが、全項目において実施率は1割以下となった。

そんな中でも実施率が最も高かったのは「社会貢献活動として生物多様性の保全の取組の実施や支援（7.1%）」、2番目が「従業員に対する生物多様性の保全や持続可能な利用に関する教育の実施（6.3%）」、3番目が「生物多様性に配慮された原材料の調達（5.4%）」であった。

## 【H. 活動その他】

### (1) 今年度の傾向

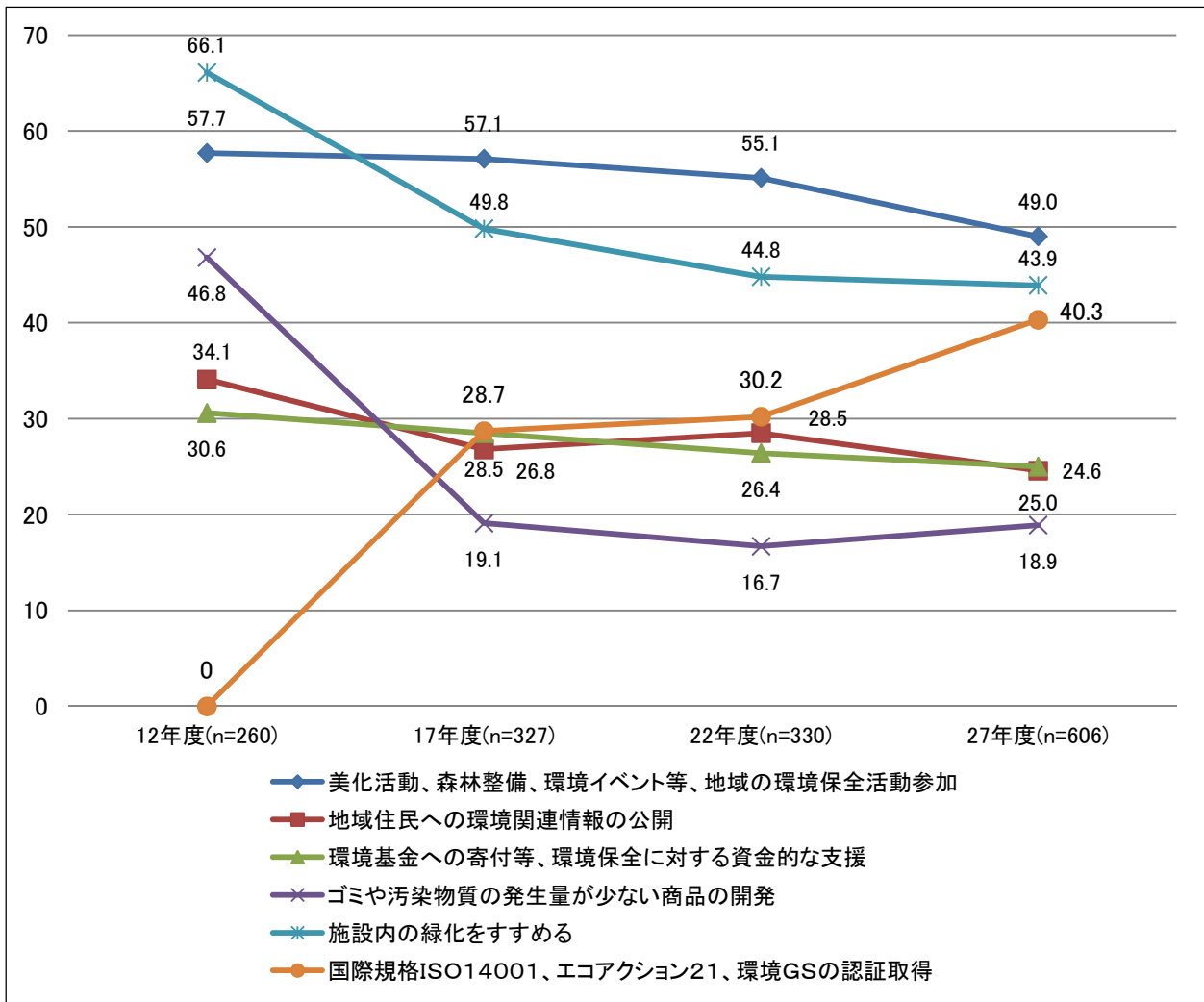


<グラフ46 活動その他の取組>



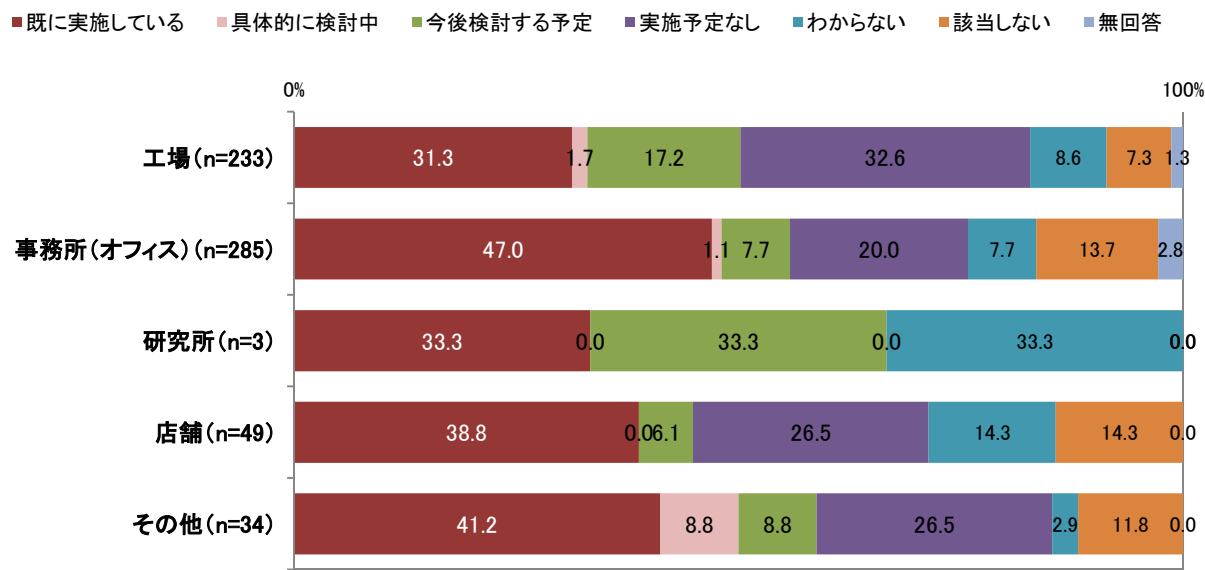
## (2) 経年推移

本設問では、「既に実施している」=100点、「具体的に検討中」=75点、「今後検討する予定」=50点、「わからない」=25点、「実施予定なし」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



<グラフ47 活動その他の取組 加重平均>

### (3) 事業形態別傾向



<グラフ48 事業形態別>

#### 【活動その他の取組】については、実施状況が二極化

【活動その他の取組】については、実施状況が二極化しており、最も高かったのは「美化活動、森林整備、環境イベント等、地域の環境保全活動参加（39.9%）」、2番目が「施設内の緑化をすすめる（35.3%）」、3番目が「国際規格ISO14001、エコアクション21、環境GSの認証取得（32.0%）」であった。

一方、「ゴミや汚染物質の発生量が少ない商品の開発（10.1%）」、「環境基金への寄付等、環境保全に対する資金的な支援（14.5%）」、「地域住民への環境関連情報の公開（16.0%）」の3項目に関しては、実施率が低かった。

また事業形態別の傾向に関しては、「事業所（オフィス）（47.0%）」が1番実施率が高かった。

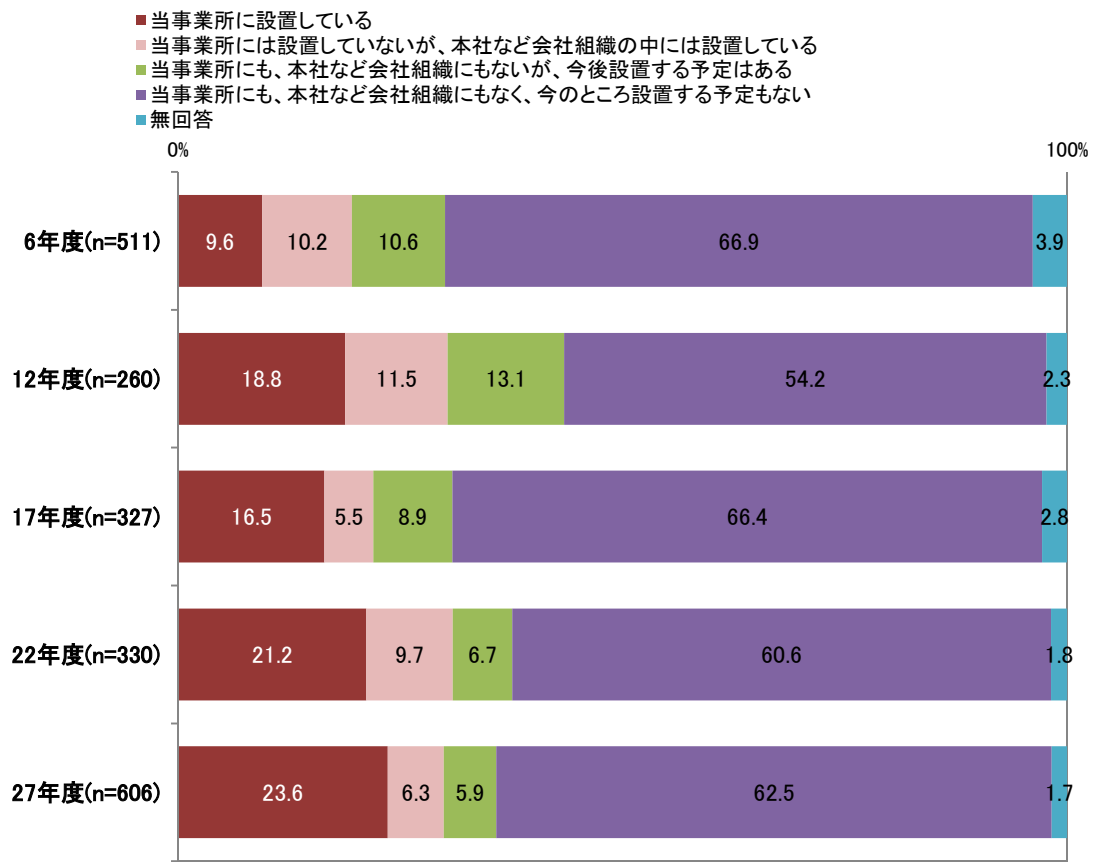
### 3.3 環境保全のための体制

#### 3.3.1 環境保全担当部署の設置

貴事業所における環境保全のための体制について、おうかがいします。

問8 (1) 貴事業所では、企業（事業所）活動に伴う環境問題を専門に担当する部署を設置していますか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選び、○をつけてください。（○は1つ）

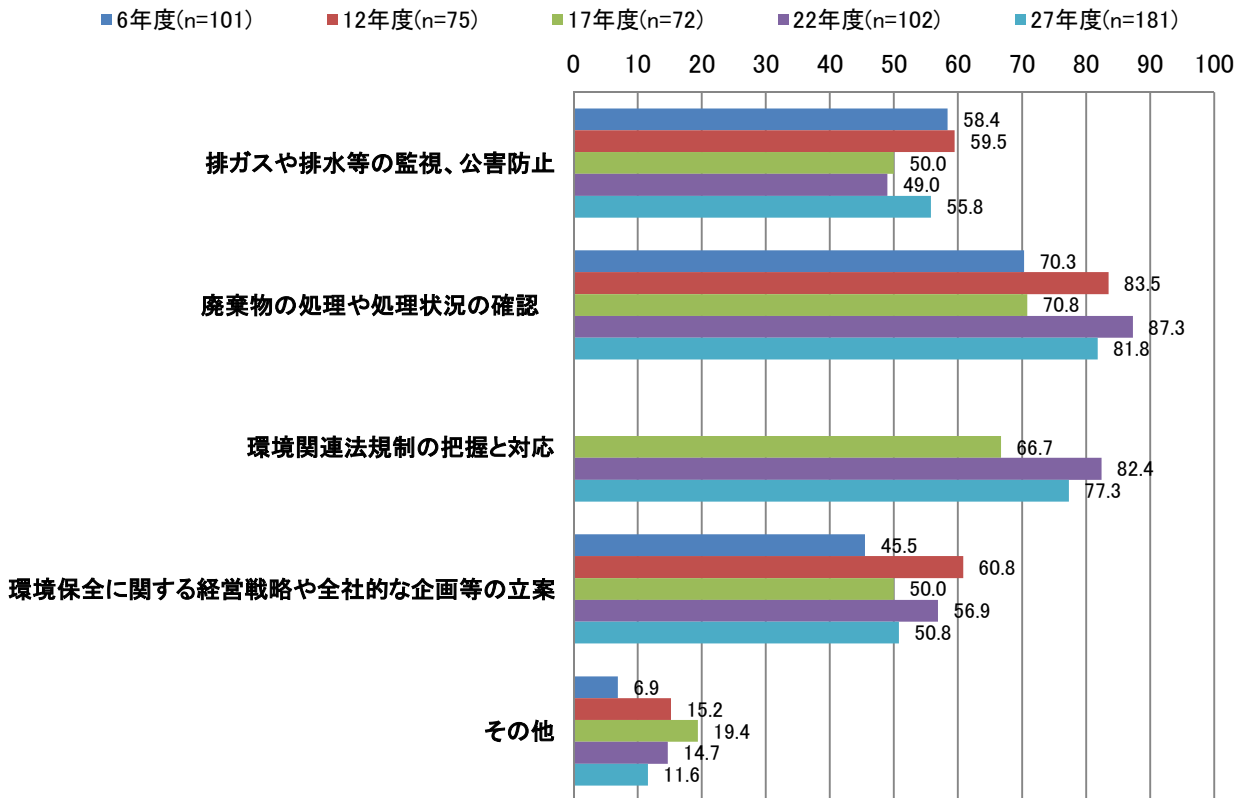
#### (1) 経年推移



<グラフ49 環境問題を専門に担当する部署の設置 経年推移>

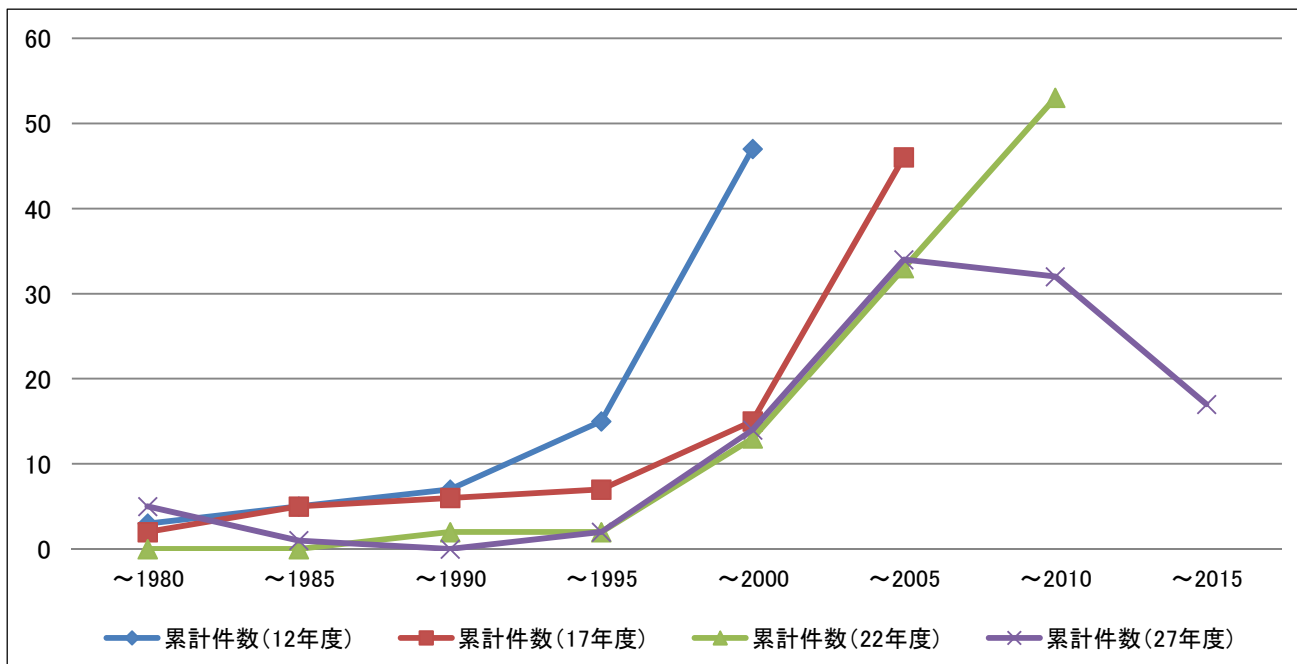
(2) 上記(1)で「設置している」と回答した方におうかがいします。その部署の策定年と活動内容をお答えください。(〇はいくつでも)

(1) 経年推移



<グラフ50 環境問題を専門に担当する部署の活動内容 経年推移>

(2) 環境問題を専門に担当する部署の設置年・件数



	累計件数 (12年度)	累計件数 (17年度)	累計件数 (22年度)	累計件数 (27年度)
~1980	3	2	0	5
~1985	5	5	0	1
~1990	7	6	2	0
~1995	15	7	2	2
~2000	47	15	13	14
~2005		46	33	34
~2010			53	32
~2015				17

<グラフ51 環境問題を専門に担当する部署の設置年・件数>

「専門部署の設置」は3割、「設置予定なし」は6割以上

環境問題に対して「専門部署を設置している」事業所は「当事業所には設置していないが、本社など会社組織の中には設置している(6.3%)」を含め29.9%であった。

一方、「当事業所にも、本社など会社組織にもなく、今のところ設置する予定もない」の事業所は62.5%であった。

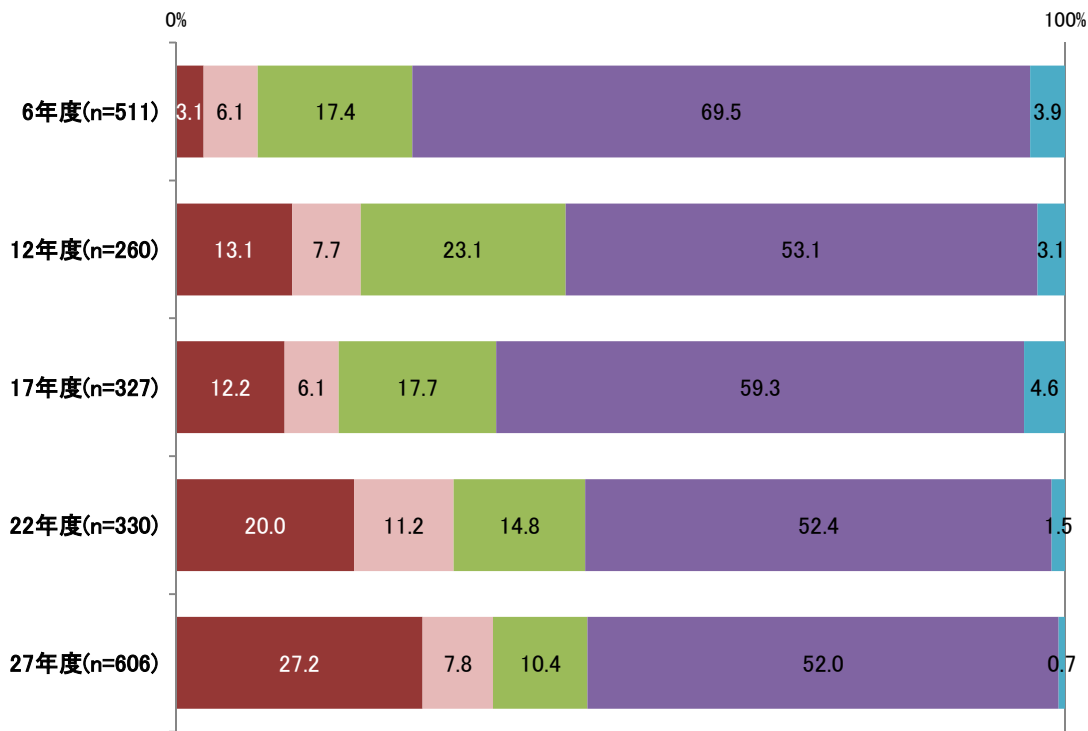
活動内容をみると、最も高かったのは「廃棄物の処理や処理状況の確認(81.8%)」、2番目が「環境関連法規制の把握と対応(77.3%)」、3番目が「排ガスや排水等の監視、公害防止(55.8%)」であった。

### 3.3.2 環境方針や環境保全ガイドラインの策定

問9 貴事業所では、環境方針や環境保全ガイドラインなどを策定していますか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選び、○をつけてください。(○は1つ)

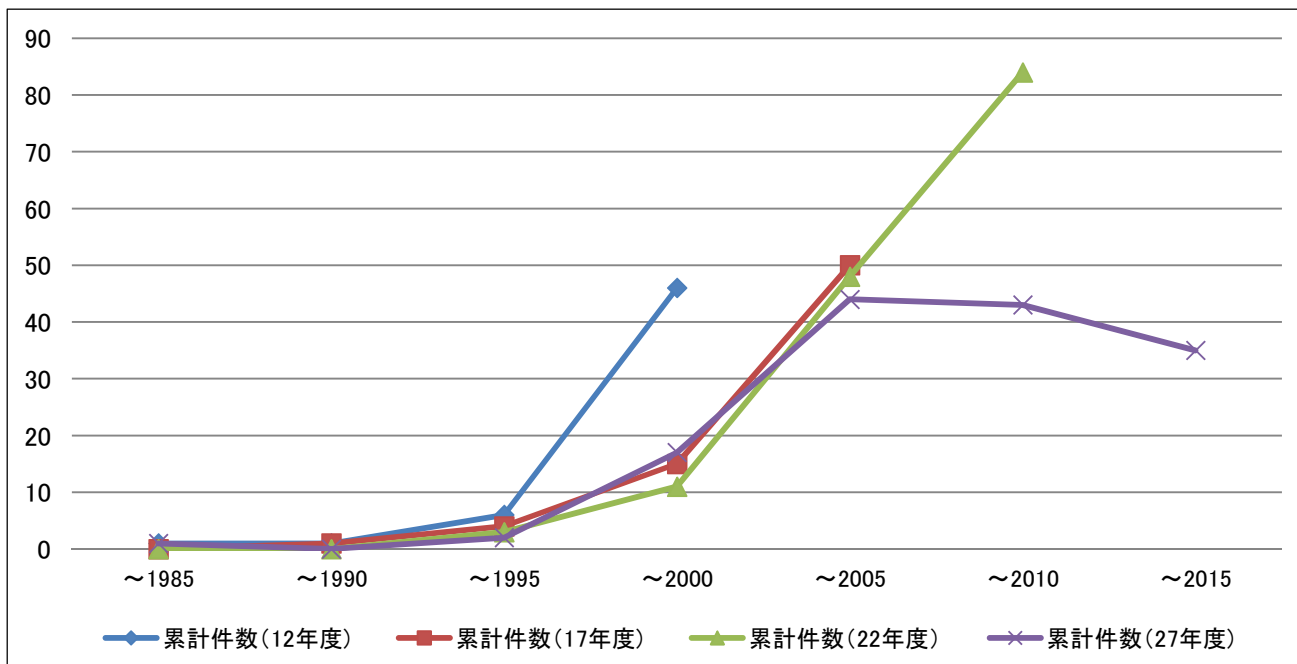
#### (1) 経年推移

- 当事業所として策定している
- 事業所としては策定していないが、会社全体としては定めている
- まだ策定していないが、今後策定する予定はある
- 今のところ策定する予定はない
- その他



<グラフ52 環境方針や環境保全ガイドラインなどの策定 経年推移>

(2) 環境方針や環境保全ガイドラインなどの策定年・件数



	累計件数 (12年度)	累計件数 (17年度)	累計件数 (22年度)	累計件数 (27年度)
~1985	1	0	0	1
~1990	1	1	0	0
~1995	6	4	3	2
~2000	46	15	11	17
~2005		50	48	44
~2010			84	43
~2015				35

<グラフ53 環境方針や環境保全ガイドラインなどの策定年・件数>

「策定済み」が約3割、「策定予定なし」が約5割

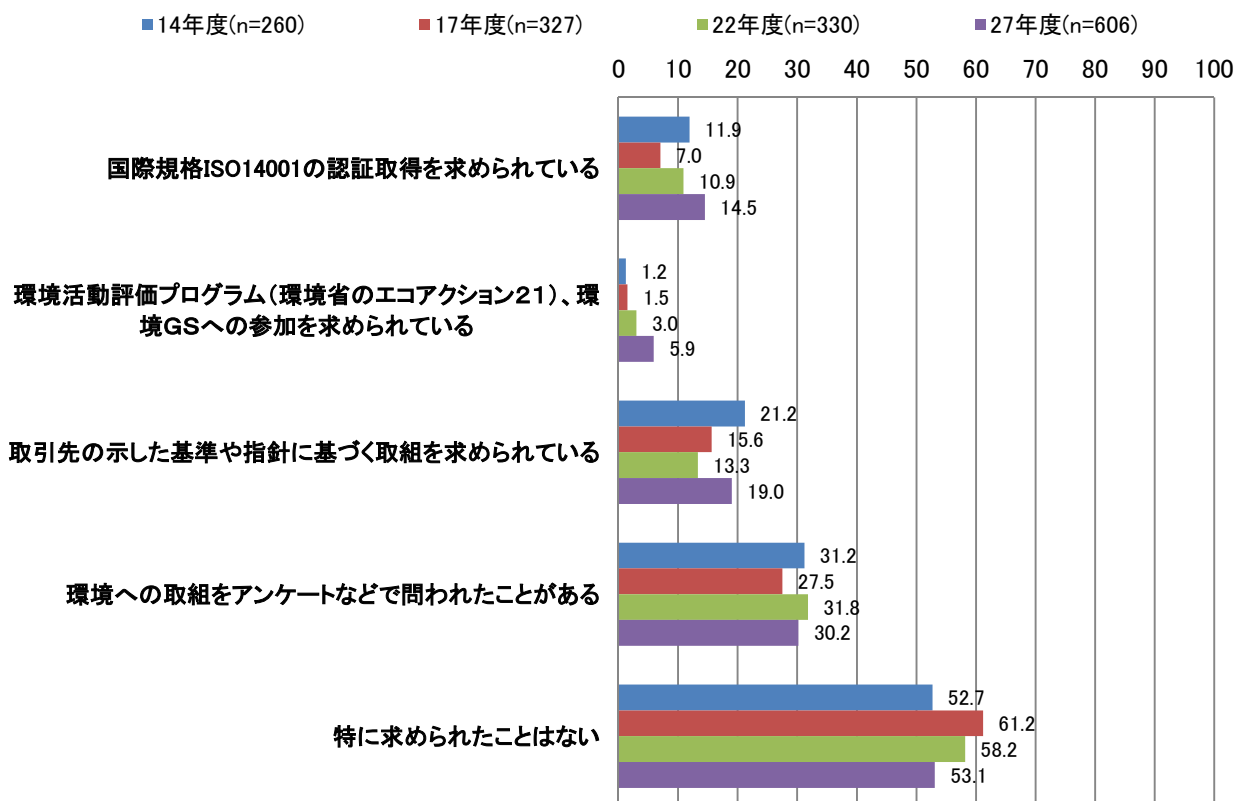
環境方針や環境保全ガイドラインを策定している事業所は、「事業所としては策定していないが、会社全体としては定めている(7.8%)」を含めて35.0%であった。

一方、「今のところ策定する予定はない」は52.0%であった。

### 3.3.3 取引先からの環境に関する取組の要求

問10 貴事業所では、取引先から環境に関する取組を求められていますか。次の中から、あてはまる番号すべてに、○をつけてください。(○はいくつでも)

#### (1) 経年推移



<グラフ54 取引先から環境に関する取組の要求 経年推移>

「特に求められたことはない」が約5割

取引先からの環境に関する取組の要求で「特に求められたことはない」が最も多く、53.1%であったが、前回調査より5%ほど減少している。

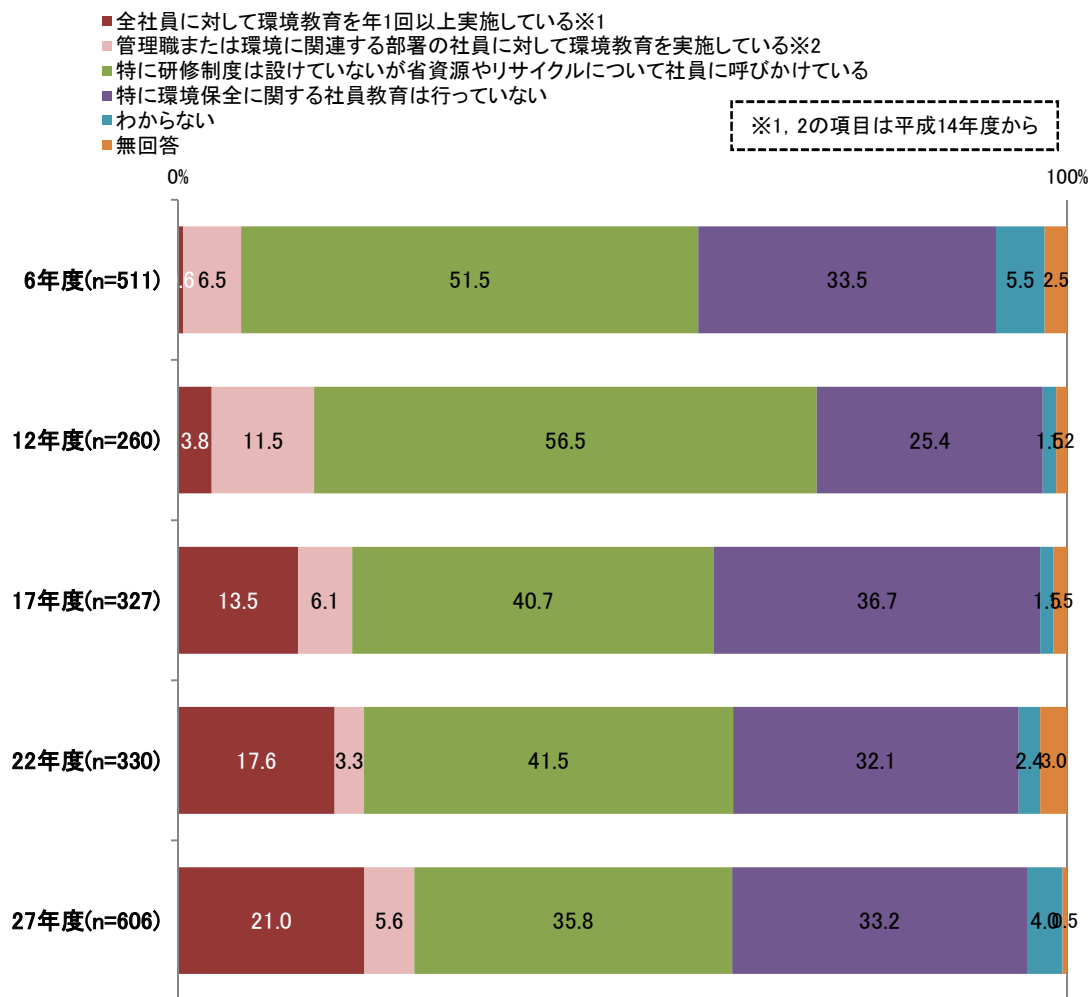
前回調査との比較では、「特に求められたことはない」と「環境への取組をアンケートなどで問われたことがある(30.2%)」以外の項目については、増加傾向となった。



### 3.3.4 環境保全に関する社員教育

問11 貴事業所では、環境保全に関する社員教育をどのように実施していますか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選び、○をつけてください。(○は1つ)

#### (1) 経年推移



<グラフ55 環境保全に関する社員教育 経年推移>

「全社員に対して環境教育を年1回以上実施している」が約2割

環境保全に関する社員教育で「全社員に対して環境教育を年1回以上実施している」事業所は21.0%で、平成6年度調査開始以来、初めて20%を越えた。

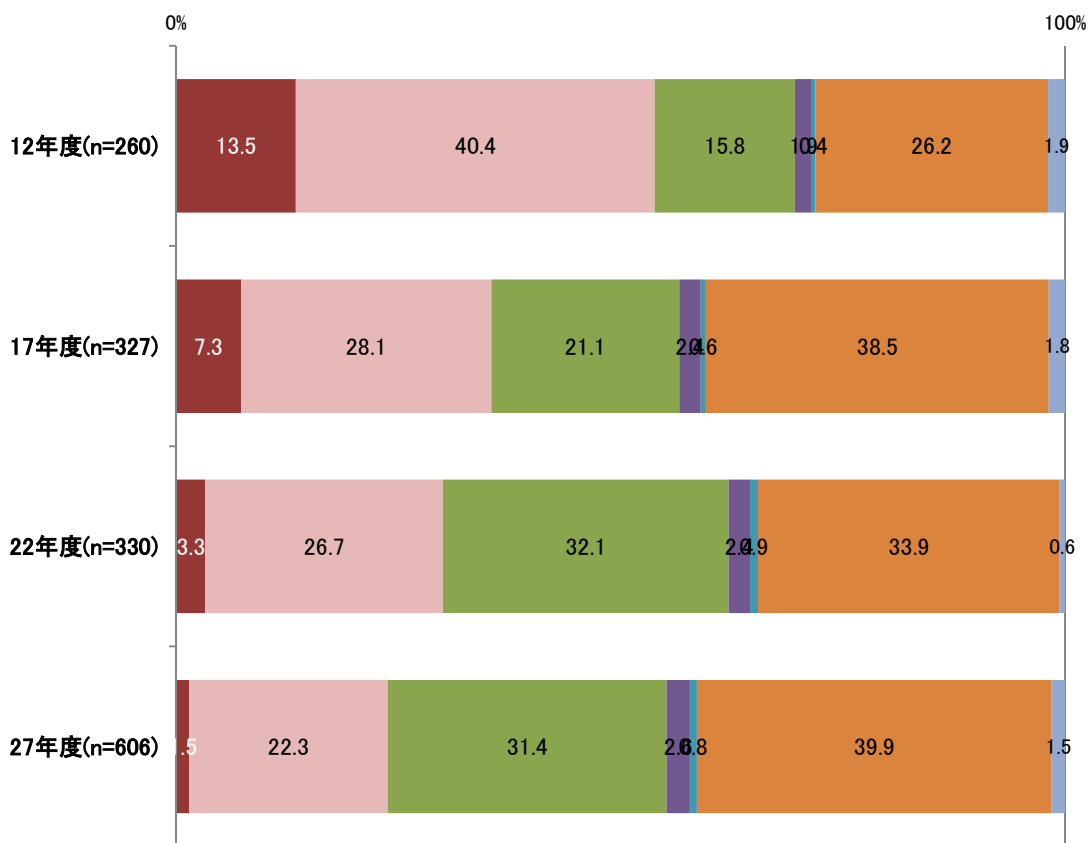
一方、「特に環境保全に関する社員教育は行っていない」事業所も33.2%あり、こちらは前回調査から横ばい状態である。

### 3.3.5 環境保全活動の経費の増減状況

問12 貴事業所における環境保全活動の経費の増減は、どのような状況ですか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選び、○をつけてください。(○は1つ)

#### (1) 経年推移

- ここ数年で、環境保全活動の経費は、急激に増加した
- 年々、環境保全活動の経費は、少しずつ増加している
- 環境保全活動の経費は、ほとんど増減していない
- 年々、環境保全活動の経費は、少しずつ減少している
- ここ数年で、環境保全活動の経費は、急激に減少した
- わからない
- 無回答



<グラフ56 環境保全活動の経費の増減 経年推移>

#### 「環境保全活動の経費は、ほとんど増減していない」が約3割

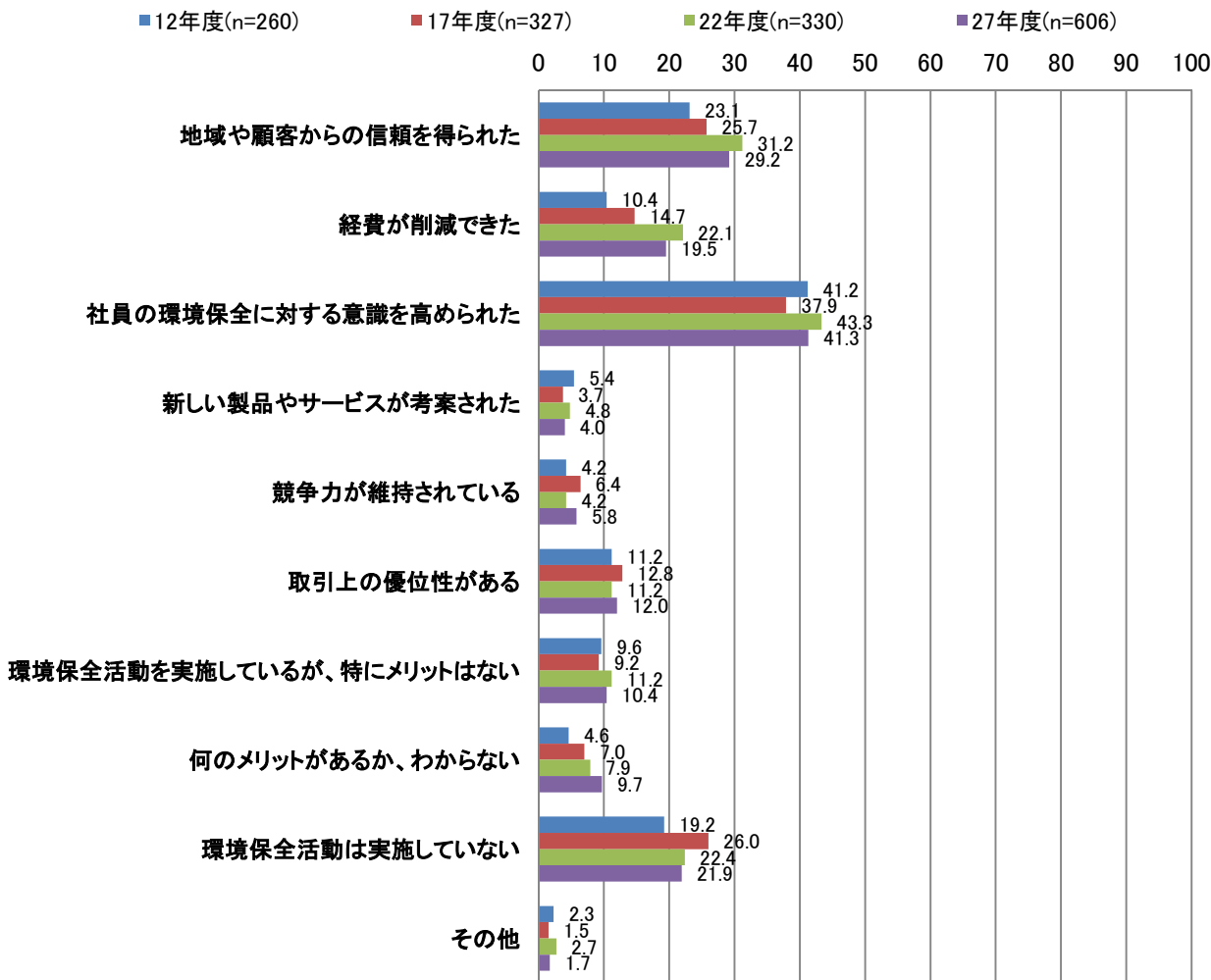
環境保全活動の経費の増減状況として最も高かったのは「環境保全活動の経費は、ほとんど増減していない(31.4%)」で、2番目が「年々、環境保全活動の経費は、少しずつ増加している(22.3%)」、3番目が「年々、環境保全活動の経費は、少しずつ減少している(2.6%)」であった。

経年による変化をみると、「ここ数年で、環境保全活動の経費は、急激に増加した」、「年々、環境保全活動の経費は、少しずつ増加している」と回答する事業所が減少している。

### 3.3.6 環境保全活動を実施して得られているメリット

問13 環境保全活動を実施して、得られているメリットはどのようなことですか。  
次の中から、あてはまる番号をすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

#### (1) 経年推移



<グラフ57 環境保全活動を実施して、得られているメリット 経年推移>

「社員の環境保全に対する意識を高められた」が約4割

環境保全活動を実施して得られているメリットとして最も高かったのは「社員の環境保全に対する意識を高められた（41.3%）」で、2番目が「地域や顧客からの信頼を得られた（29.2%）」、3番目が「環境保全活動は実施していない（21.9%）」であった。

経年による変化をみると、「何のメリットがあるか、わからない」と回答する事業所が増加している。

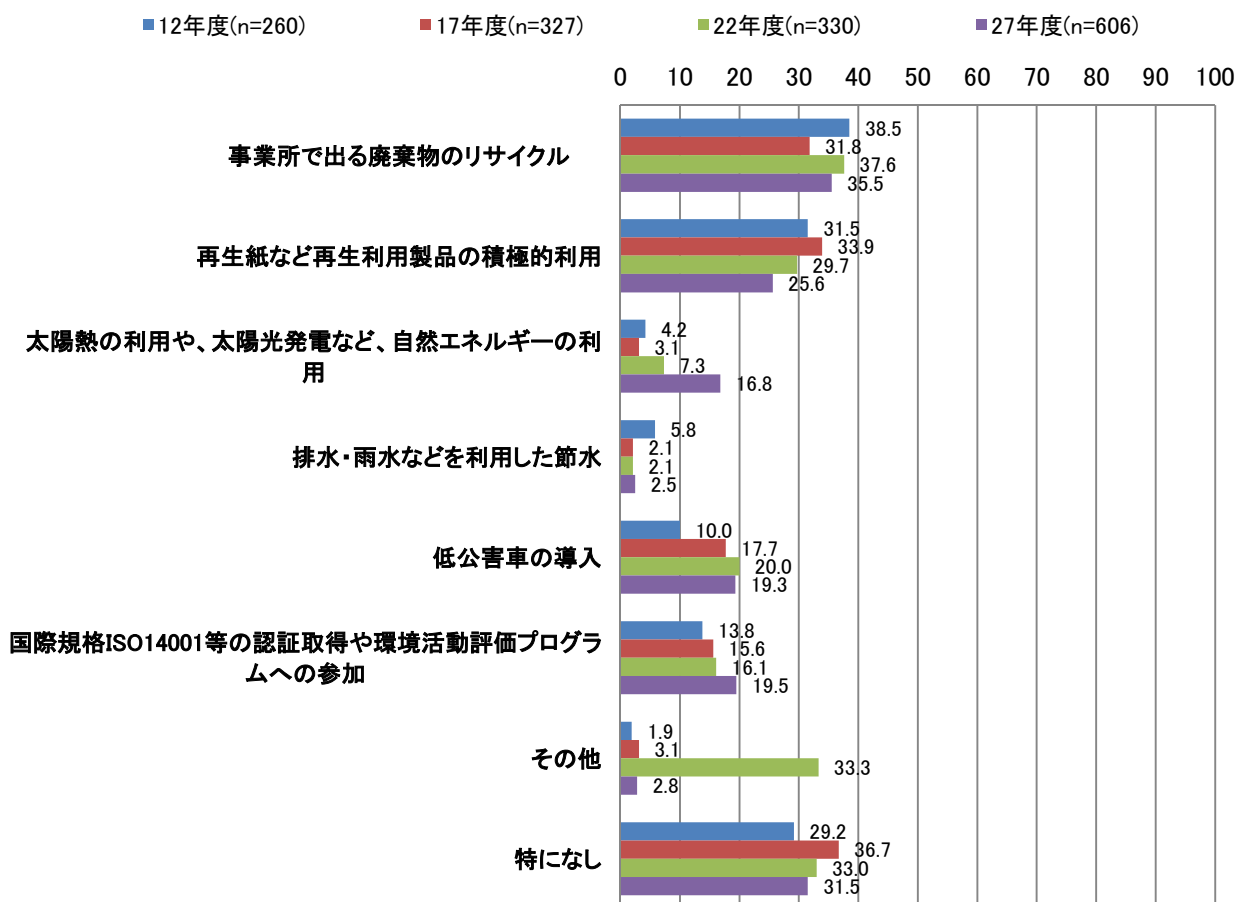
### 3.3.7 実施している環境保全活動に関して消費者等にPRしたいこと

問14 貴事業所が実施している環境保全活動で、消費者などにPRしたいものは何ですか。

A・Bそれぞれ、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

#### 【A. 事業所の内部での活動(事業所内でのリサイクルや、省エネなど)】

##### (1) 経年推移



<グラフ58 環境保全活動で、消費者などにPRしたいもの 事業所内 経年推移>

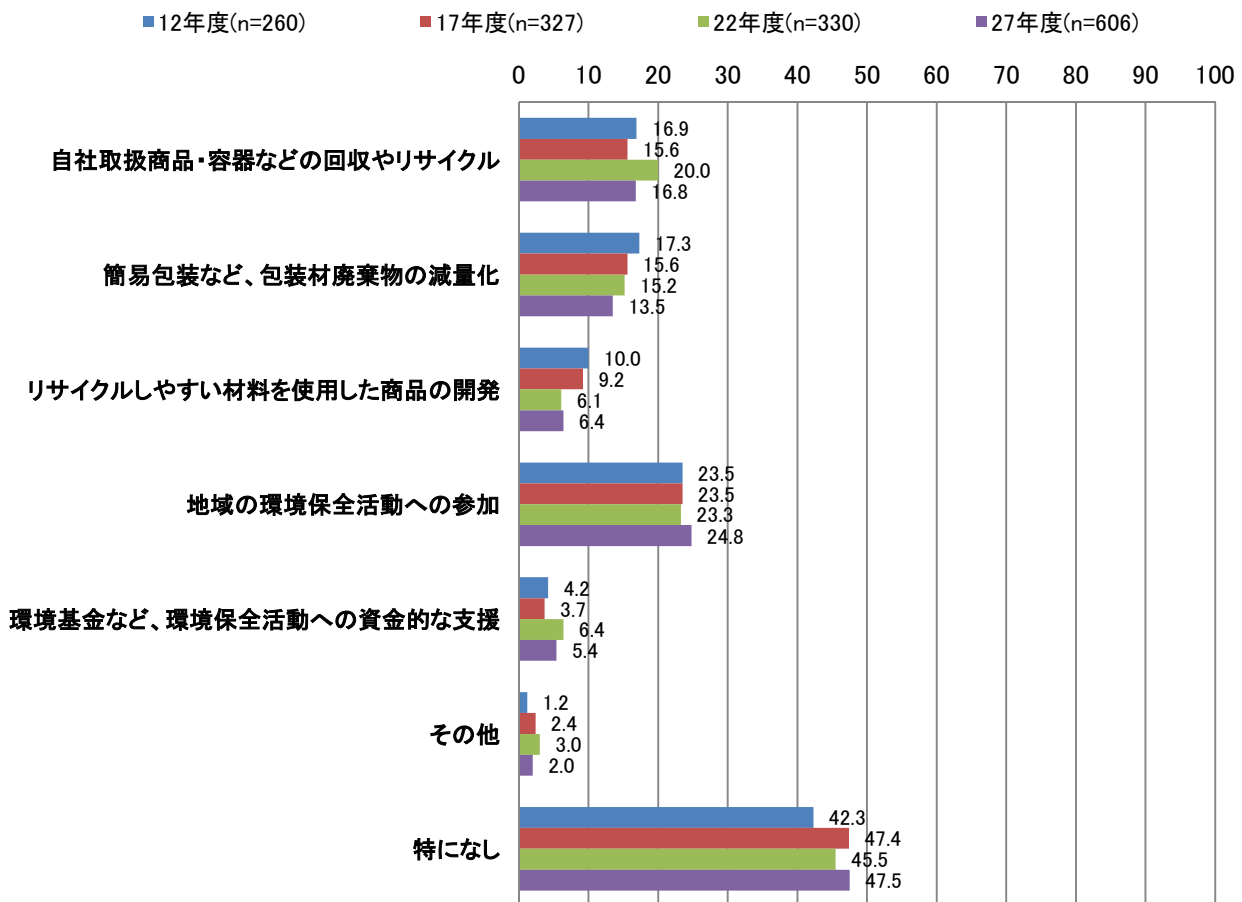
「事業所での出る廃棄物のリサイクル」が約3割

消費者などにPRしたいもの(事業所の内部での活動)として最も高かったのは「事業所での出る廃棄物のリサイクル(35.5%)」で、2番目が「特になし(31.5%)」、3番目が「再生紙など再生利用製品の積極的利用(25.6%)」であった。

「低公害車の導入」は15年の間で倍増しているが、前回調査からは微減している。

## 【B. 事業所外部(消費者等)に関する活動】

### (1) 経年推移



＜グラフ59 環境保全活動で、消費者などにPRしたいもの 事業所外 経年推移＞

#### 「特になし」が約半数

消費者などにPRしたいもの（事業所外部（消費者等）に関する活動）として最も高かったのは「特になし（47.5%）」で、2番目が「地域の環境保全活動への参加（24.8%）」、3番目が「自社取扱商品・容器などの回収やリサイクル（16.8%）」であった。

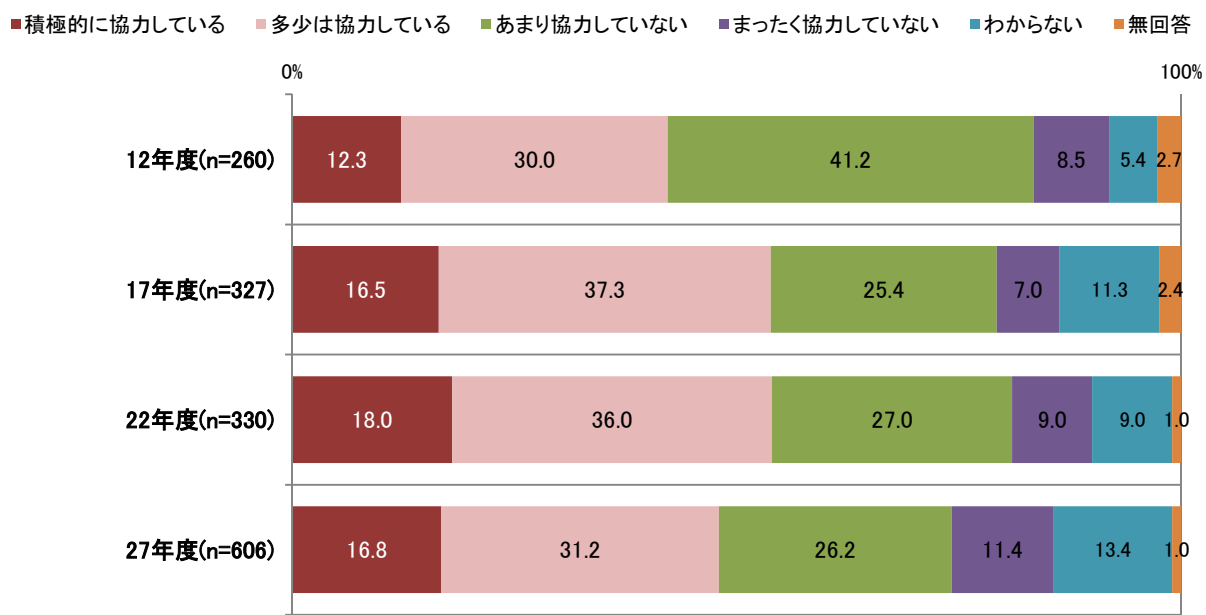
過去の調査との比較では「簡易包装など、包装材廃棄物の減量化」が減少傾向にある一方で、「特になし」が毎回、約半数を占めている。

### 3.3.8 環境保全活動に関する社外団体や地域社会への協力

問15 環境保全活動に関する社外の団体や地域社会への協力について、おうかがいします。

(1) 貴事業所では、環境保全活動に関して、社外の団体や地域社会へ協力していますか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選び、○をつけてください。(○は1つ)

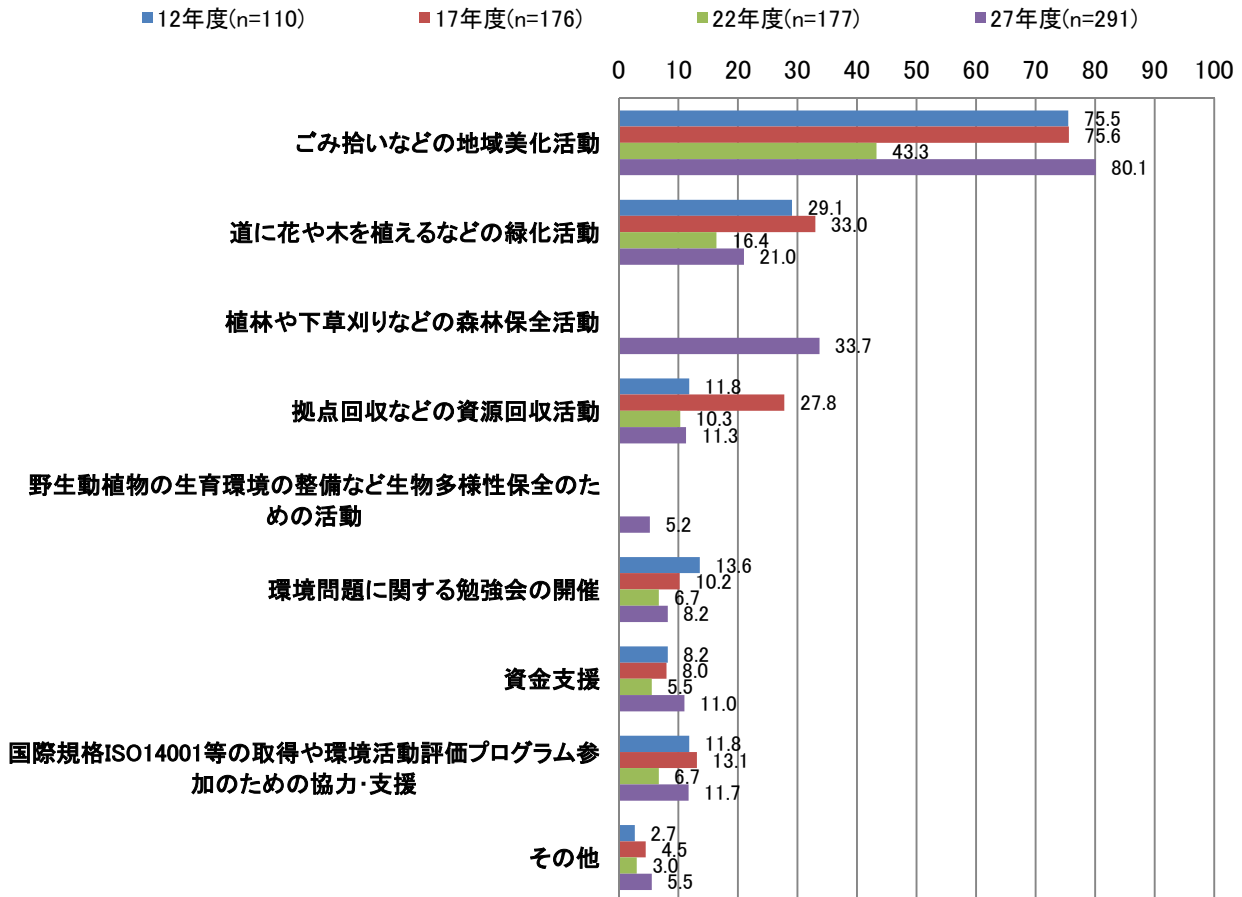
#### (1) 経年推移



<グラフ60 環境保全活動に関して、社外の団体や地域社会への協力 経年推移>

(2) 上記の(1)で「協力している」とお答えした方に、おうかがいします。具体的な内容について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(1) 経年推移



<グラフ61 環境保全活動に関して、社外の団体や地域社会への協力内容 経年推移>

「協力している」が約半数

環境保全活動に関する社外団体や地域社会への協力について前回調査と比較すると「協力している」事業所は減少しており、「積極的に協力している(16.8%)」「多少は協力している(31.2%)」を合わせても48.0%に留まった。

経年変化をみると、全ての項目で前回調査と比較して増加傾向にあり、「ごみ拾いなどの地域美化活動(80.1%)」は約倍増している。

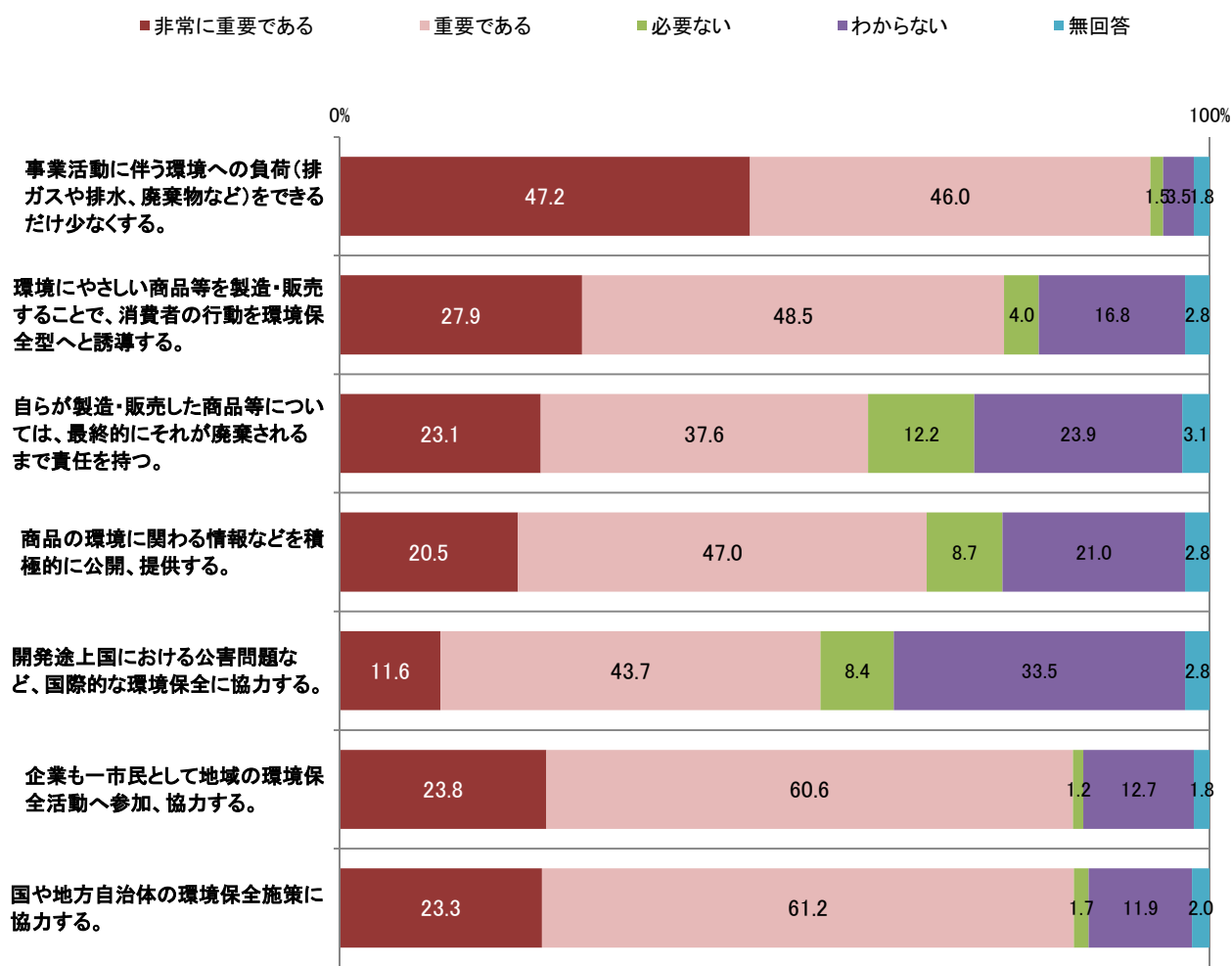
なお、今回から新たに追加された「植林や下草刈りなどの森林保全活動」は33.7%、「野生動植物の生育環境の整備など生物多様性保全のための活動」は5.2%であった。

### 3.4 環境保全に対する考え方

#### 3.4.1 環境保全に対する企業の役割

問16 貴事業所では、環境保全に対する企業の役割について、どのようにお考えですか。以下それぞれの項目について、1～4のうち、あてはまる番号1つに○をつけてください。  
(○は1つずつ)

#### (1)今年度の傾向

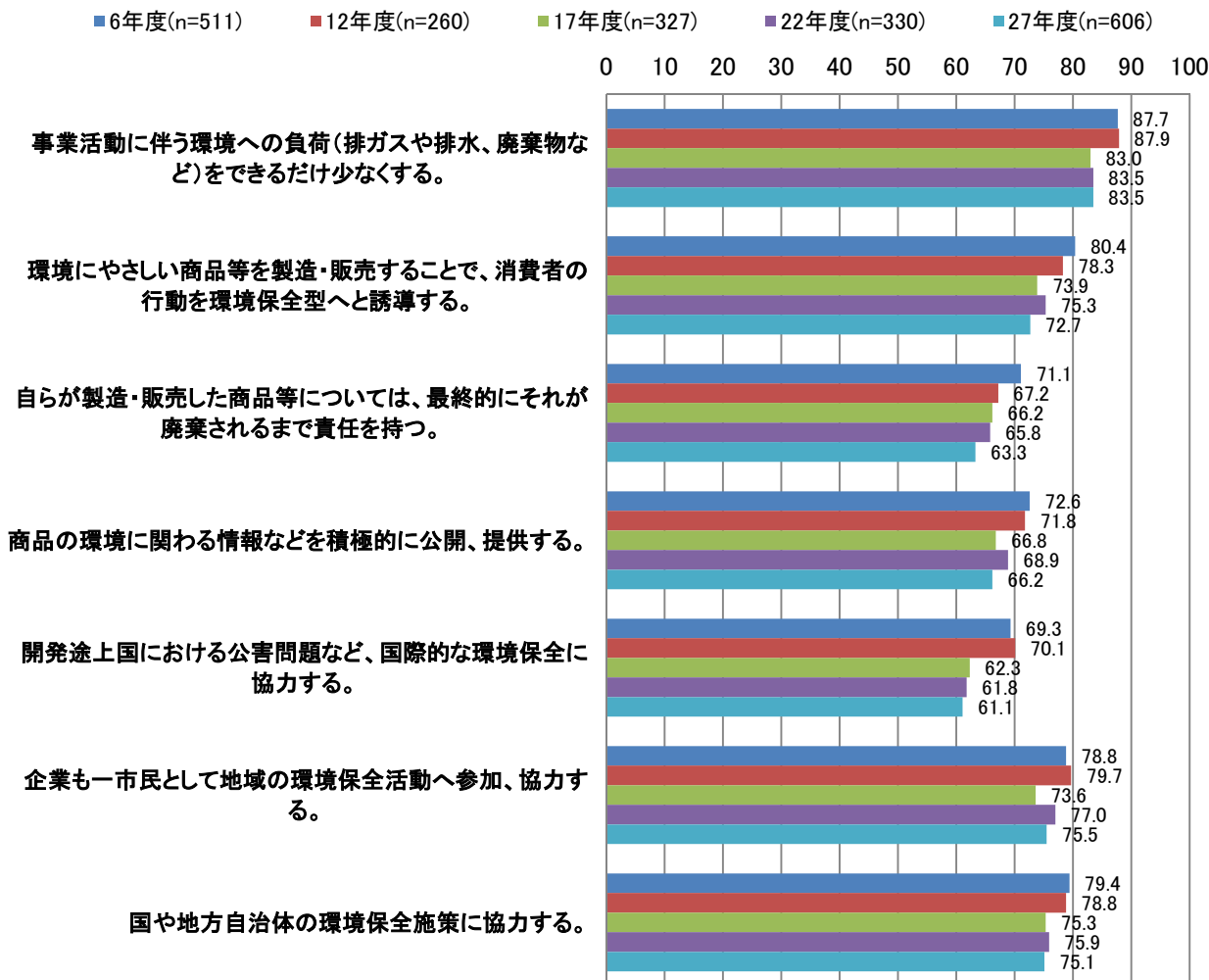


<グラフ62 環境保全に対する企業の役割>



## (2) 経年推移（加重平均）

本設問では、「非常に重要である」=100点、「重要である」=75点、「わからない」=50点、「必要ない」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



＜グラフ63 環境保全に対する企業の役割 加重平均＞

### 最も重視されているのは「環境への負荷の低減」

環境保全に対する企業の役割について、「事業活動に伴う環境への負荷（排ガスや排水、廃棄物など）をできるだけ少なくする。」を「非常に重要である」、又は「重要である」とした事業所は93.2%であり、最も多かった。

「企業も一市民として地域の環境保全活動へ参加、協力する。」、「国や地方自治体の環境保全施策に協力する。」は、「非常に重要である」とする事業所は多くないものの、「重要である」とする事業所は共に約6割で、他の項目に比べ高かった。